令和３年度　　令和４年度

業務報告／業務計画

（第 66 号）

八戸市農業経営振興センター

表紙写真解説　～八戸いちごマルシェ～

いちごは昭和 30 年頃から市川地区で生産が始まり、現在では県内一の産地が形成され、「さちのか」「とちおとめ」「麗紅」「すずあかね」等の品種が生産されており、一年中生産が可能になっています。市は、市内の農産物を全国・世界に売り込むため、いちごを「八戸市の風土と関わりが強く、栽培が地域に密着し、一層の生産及び販売振興を図るべき野菜『八戸特産野菜』」に選定し、地域ブランド確立のため、八戸いちごマルシェ、いちごケーキ作り体験会等、PR 事業を実施しています。

八戸いちごマルシェは例年 11 月中旬に開催し、市内菓子店の新作いちごスイーツ発表会やスイーツづくり体験会、八戸いちごの販売等を行っています。

写真はイベント中、いちごパフェづくり体験の参加者と完成したパフェの様子です。

目　次

第1施設の概要及び機構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第2業務報告
2-1 気象 ・・・ 5
2-2 調査成績（施設野菜）
No.1種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（新規R3～5）・・・・・・・・・・・ 8
No.2ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（継続R2～3）・・・・・・・・・・・・・ 12
No.3トマトの促成栽培における品種比較調査（継続H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
No.4トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続R2～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
No.5トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
No.6ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・ 27
No.7ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・ 31
No.8ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・ 37
2-3 調査成績（露地野菜）
No.1ねぎの品種比較調査（継続R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
No.2ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査(継続R2～3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
No.3ピーマンの品種比較調査(継続R2～4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
No.4ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（新規R3～5）・・・・・・・・・・・・ 58
No.5ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続R2～4）・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・ 62
2-4 調査成績（花き）
No.1トルコギキョウの品種比較調査（7～8月出荷）（継続R2～3）・・・・・・・・・・・・・ 65
No.2トルコギキョウの品種比較調査（9月出荷）（継続R2～3）・・・・・・・・・・・・・・・ 69
No.3トルコギキョウの赤色LED電照栽培技術調査（新規R3～4）・・・・・・・・・・・・・・・ 73
No.4カンパニュラの赤色LED電照栽培技術調査（新規R3～4）・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
No.5ディスバッドマムの品種比較調査(8月出荷)　（新規R3～4）・・・・・・・・・・・・・・・ 79
2-5 調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）
ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
2-6 土壌分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
2-7 植物組織培養 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
2-8 市民農園設置事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
2-9 農業体験学習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
2-10 農業講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
2-11 家庭菜園講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
2-12 施設利用実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94

第 3 業務計画

3-1 調査計画（施設野菜）

No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続 R3～5）・・・・・・・・・・・ 95

No. 2 種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規 R4～5）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96

No. 3 トマトの促成栽培における品種比較調査（新規 R4～6）・・・・・・・・・・・・・・・・ 97

No. 4 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 R4～6）・・・・・・・・・・・・・・・・ 98

No. 5 トマトの抑制栽培における品種比較調査（新規 R4～6）・・・・・・・・・・・・・・・・ 99

No. 6 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規 R4～6）・・・・・・・・・・・・・・100

No. 7 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 R4～6）・・・・・・・・・・・・・・101

No. 8 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規 R4～6）・・・・・・・・・・・・・・102

3-2 調査計画（露地野菜）

No. 1 ねぎの品種比較調査（継続 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103

No. 2 ピーマンの品種比較調査(継続 R2～4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104

No. 3 ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続 R3～5）・・・・・・・・・・・・105

No. 4 ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続 R2～4）・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・ 106

No. 5 ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法（生育初期）による収量比較調査(新規 R4～6)・ 107

3-3 調査計画（花き）

No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8 月出荷）（新規 R4～5）・・・・・・・・・・・・・ 108

No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9 月出荷）（新規 R4～5）・・・・・・・・・・・・・・・109

No. 3 トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査（9 月出荷）（継続 R3～4）・・・・・・・・・ 110

No. 4 カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・ 111

No. 5 ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)(継続 R3～4)・・・・・・・・・・・・・・・112

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

ながいも栽培における堆肥の施用効果及び種いも重の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 113

3-5 土壌分析・・ 114

3-6 植物組織培養・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115

3-7 市民農園設置事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115

3-8 農業体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116

3-9 栽培展示計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117

第１　施設の概要及び機構

目　的

農業経営振興センターは、計画立案業務、担い手育成業務、農業金融業務及び野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務等の農業経営に関する重要な施策を一元的に推進することにより、起農、他産業からの農業参入、既存農業経営者の規模・品目の拡充等を促進し、産業としての農業の振興を図るとともに、市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等により、自然に親しめる潤いのある市民生活の向上に資することを目的としています。

事業の概要

１　計画立案業務
２　担い手育成業務
３　農業金融業務
４　野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
　（１）　野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
　（２）　野菜、花きに関する栽培調査及び展示業務
　（３）　植物組織培養業務
　（４）　土壌分析及び土壌改良支援業務
５　市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等に関する業務

組織図及び職員数（令和４年度）

組織図及び職員数　＜14 名＞

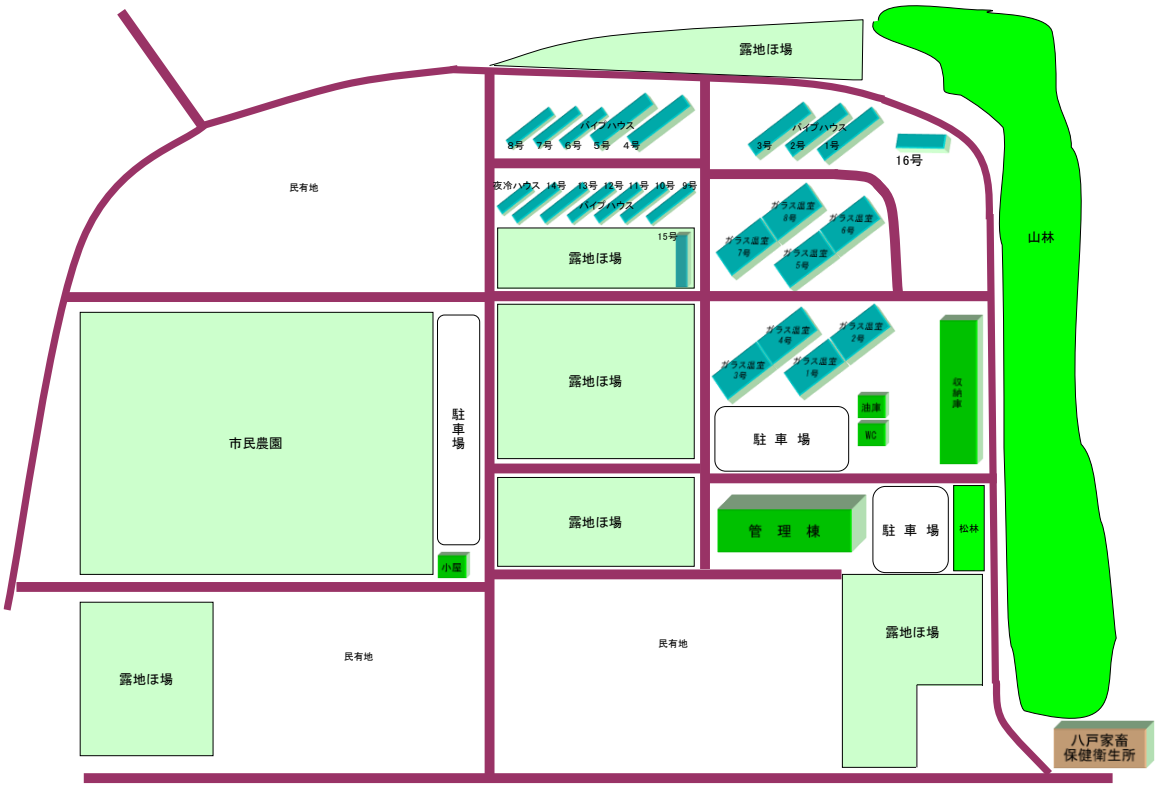
- 所長
  - 副参事（経営支援 GL）
    - 計画立案、担い手育成及び農業金融業務等担当　5 名
    - 庶務担当　1 名
  - 副参事（生産振興 GL）
    - 野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する補助事業業務担当　1 名
    - 施設野菜栽培調査等業務担当　1 名
    - 花き栽培調査及び土壌分析等業務担当　1 名
    - 露地野菜栽培調査及び市民農園等業務担当　1 名
    - 家庭菜園講習会・農業体験学習担当　1 名

施設の概要

土地利用区分	
総面積	114,901 ㎡
管理施設用地	
建物等	1,471
駐車場・通路等	5,525
ほ場	
施設	14,842
ガラス温室	
パイプハウス	
露地	24,235
市民農園	18,237
山林	46,075
原野他	4,516

主要施設		
管理棟＜鉄骨造平屋建＞	1 棟	713 ㎡
多目的研修室		
調理実習室		
会議室		
土づくり相談室		
バイオ体験室		
ガラス温室（鉄骨造）	4 棟（8 室）	1,498 ㎡
パイプハウス	16 棟	1,991 ㎡
収納庫＜鉄骨造平屋建＞	1 棟	450 ㎡
屋外トイレ	1 棟	28 ㎡
油庫	1 棟	10 ㎡
農業用水施設	1 式	
気象観測施設	1 式	

場内案内図



沿　革

昭和 30．5　青森県農事試験場南部支場委託蔬菜展示農場として三戸郡大館村（新井田常光田地区）に発足
昭和 32．4　三戸郡大館村に移管し、大館村蔬菜展示農場に改称
昭和 33．9　合併により八戸市立そ菜展示農場に改称
昭和 36．1　八戸市農村青年研修所を併設
昭和 36．4　八戸市立園芸指導農場に改称
昭和 45．1　十日市天摩地区に移転し、八戸市農業センターに改称
昭和 57．4　八戸市都市緑化植物公園（現八戸公園）開設により、尻内町毛合清水地内に移転し、八戸市農業研修センターに改称
昭和 63．4　花き（切花）部門・植物組織培養部門（バイテク）設置
平成　2．4　市民農園開設
平成 11.12　高規格道路等建設計画により現在地に移転し、八戸市農業交流研修センターに改称
平成 23．4　機構改革により農業経営に関する支援業務を一元化し、八戸市農業経営振興センターに改称

業務報告

【令和３年度】

所　　長	久　保	昌　広
副 参 事	中　山	貢
（生産振興グループリーダー）		
主　　幹	和　島	将　彦
（経営支援グループリーダー）		
主　　査	柳　谷	悟
技　　査	田　茂	竜　児
主　　査	三　戸	由　香
主　　査	白　川	大　祐
技　　査	戸　田	瞳
主　　事	苫米地	三由希
主　　事	島　守	康　洋
技　　師	佐々木	達　也
技　　師	外　和	昌　大
技　　師	細　越	敬太郎
技　　師	柴　田	あかね

2－1　気象

1　令和３年の平均気温・日照時間・降水量

表１　令和３年 平均気温･日照時間･降水量 旬表

月	旬	平均気温（℃）				日照時間（h）				降水量（mm）			
		平年値	R3年	差	*八戸特別地域気象観測所*	平年値	R3年	差	*八戸特別地域気象観測所*	平年値	R3年	差	*八戸特別地域気象観測所*
1	上旬	-1.1	-5.7	-4.6	*-5.3*	39.1	50.9	11.8	*54.8*	14.5	7.5	-7.0	*9.0*
	中旬	-1.9	-1.8	0.0	*-1.4*	39.6	47.5	7.9	*43.5*	9.6	8.0	-1.6	*5.5*
	下旬	-1.8	0.0	1.7	*0.4*	47.7	51.6	3.9	*50.3*	13.7	4.0	-9.7	*4.5*
平均・計		-1.6	-2.4	-0.8	*-2.1*	126.4	150.0	23.6	*148.6*	37.8	19.5	-18.3	*19.0*
2	上旬	-1.8	-2.0	-0.2	*-1.2*	43.6	53.7	10.1	*49.1*	11.7	1.5	-10.2	*3.0*
	中旬	-1.2	1.0	2.1	*1.4*	45.4	47.4	2.0	*49.7*	13.1	32.5	19.4	*35.5*
	下旬	-0.1	-0.9	-0.8	*-0.3*	41.9	43.0	1.1	*42.7*	8.8	1.0	-7.8	*3.5*
平均・計		-1.0	-0.6	0.4	*0.0*	130.9	144.1	13.2	*141.5*	33.6	35.0	1.4	*42.0*
3	上旬	0.6	3.2	2.6	*3.6*	49.2	59.5	10.3	*60.5*	15.1	0.5	-14.6	*3.5*
	中旬	2.2	5.2	2.9	*5.8*	52.2	46.0	-6.2	*47.7*	15.2	72.0	56.8	*70.5*
	下旬	3.8	8.9	5.1	*9.1*	64.8	59.4	-5.4	*59.6*	17.5	15.5	-2.0	*22.0*
平均・計		2.3	5.8	3.6	*6.2*	166.2	164.9	-1.3	*167.8*	47.7	88.0	40.3	*96.0*
4	上旬	6.2	6.1	0.0	*6.8*	59.3	69.2	9.9	*74.3*	*17.1*	11.0	-6.1	*17.0*
	中旬	7.9	10.4	2.5	*10.9*	61.9	62.7	0.8	*66.8*	*18.7*	26.5	7.8	*35.5*
	下旬	10.2	9.4	-0.9	*9.7*	66.4	78.0	11.6	*81.2*	*21.0*	26.5	5.6	*27.5*
平均・計		8.2	8.6	0.4	*9.1*	187.6	209.9	22.3	*222.3*	*56.7*	64.0	7.3	*80.0*
5	上旬	11.9	13.0	1.0	*13.3*	63.7	64.6	0.9	*75.0*	23.4	13.5	-9.9	*10.0*
	中旬	13.1	15.4	2.3	*15.7*	62.6	62.1	-0.5	*71.4*	26.2	21.5	-4.7	*29.0*
	下旬	14.6	14.6	0.0	*15.1*	72.1	42.2	-29.9	*52.6*	29.9	45.0	15.1	*59.0*
平均・計		13.2	14.3	1.1	*14.7*	198.4	168.9	-29.5	*199.0*	79.5	80.0	0.5	*98.0*
6	上旬	15.3	17.8	2.6	*18.3*	63.0	69.9	6.9	*90.6*	19.5	26.5	7.0	*10.5*
	中旬	16.3	19.1	2.8	*19.5*	51.4	33.6	-17.8	*56.0*	38.2	10.0	-28.2	*3.0*
	下旬	17.6	18.2	0.6	*18.6*	53.8	34.0	-19.8	*54.5*	34.9	10.5	-24.4	*9.5*
平均・計		16.4	18.4	2.0	*18.8*	168.2	137.5	-30.7	*201.1*	92.6	47.0	-45.6	*23.0*
7	上旬	18.9	20.2	1.3	*20.4*	47.3	22.8	-24.5	*33.1*	51.8	41.0	-10.8	*48.5*
	中旬	20.0	23.4	3.4	*23.5*	44.6	77.8	33.2	*95.5*	48.9	1.0	-47.9	*2.0*
	下旬	22.0	23.7	1.7	*24.0*	57.7	58.8	1.1	*71.5*	41.8	48.0	6.2	*36.0*
平均・計		20.3	22.5	2.1	*22.6*	149.6	159.4	9.8	*200.1*	142.5	90.0	-52.5	*86.5*
8	上旬	22.5	25.0	2.5	*25.3*	57.9	61.4	3.5	*73.1*	37.4	168.0	130.6	*163.5*
	中旬	22.0	18.0	-3.9	*18.7*	48.3	17.2	-31.1	*20.4*	43.5	39.5	-4.0	*52.0*
	下旬	21.5	23.1	1.7	*23.5*	53.3	42.8	-10.5	*50.2*	61.7	49.0	-12.7	*52.5*
平均・計		21.9	22.1	0.1	*22.5*	159.5	121.4	-38.1	*143.7*	142.7	256.5	113.9	*268.0*
9	上旬	20.6	18.5	-2.0	*19.3*	47.7	53.5	5.8	*66.3*	43.3	7.0	-36.3	*6.0*
	中旬	18.8	18.4	-0.3	*19.4*	49.7	59.0	9.3	*69.6*	77.4	36.5	-40.9	*33.5*
	下旬	16.4	18.4	2.0	*19.3*	51.2	60.8	9.6	*69.6*	42.3	24.0	-18.3	*28.0*
平均・計		18.6	18.5	-0.1	*19.3*	148.6	173.3	24.7	*205.5*	163.0	67.5	-95.5	*67.5*
10	上旬	14.6	16.8	2.2	*17.5*	47.1	49.6	2.5	*50.2*	47.0	106.5	59.5	*99.0*
	中旬	12.7	12.1	-0.5	*12.9*	55.6	25.3	-30.3	*24.0*	30.3	25.0	-5.3	*40.0*
	下旬	10.8	10.4	-0.5	*10.8*	53.0	62.8	9.8	*65.8*	30.6	1.0	-29.6	*1.5*
平均・計		12.6	13.0	0.3	*13.7*	155.7	137.7	-18.0	*140.0*	107.9	132.5	24.6	*140.5*
11	上旬	9.0	11.3	2.3	*11.8*	49.7	42.0	-7.7	*44.3*	20.2	37.5	17.3	*43.0*
	中旬	6.2	8.2	2.0	*8.9*	39.5	44.5	5.0	*46.9*	20.0	4.5	-15.5	*6.5*
	下旬	4.3	5.2	0.9	*5.7*	41.1	31.8	-9.3	*33.0*	17.2	5.0	-12.2	*6.5*
平均・計		6.4	8.3	1.9	*8.8*	130.3	118.3	-12.0	*124.2*	57.3	47.0	-10.3	*56.0*
12	上旬	2.3	2.2	0.0	*5.4*	39.7	26.3	-13.4	*39.6*	16.6	23.0	6.5	*18.0*
	中旬	0.5	-0.3	-0.8	*2.6*	40.1	45.1	5.0	*30.6*	11.5	5.0	-6.5	*7.0*
	下旬	-0.2	1.0	1.2	*-1.7*	44.3	29.2	-15.1	*42.2*	18.5	21.5	3.0	*11.0*
平均・計		0.8	1.0	0.2	*2.1*	124.1	100.6	-23.5	*112.4*	46.6	49.5	2.9	*36.0*
年平均･計		9.8	10.8	1.0	*11.3*	1845.5	1786.0	-59.5	*2006.2*	1007.7	976.5	-31.2	*1012.5*

※八戸特別地域気象観測所　観測数値（斜字）は気象庁ホームページから引用

※平均気温及び降水量の平年値は平成３年から令和２年までの当センター観測数値による

日照時間の平年値は平成３年から令和２年までの八戸特別気象観測所観測数値による

※四捨五入により端数処理

(1)　平均気温

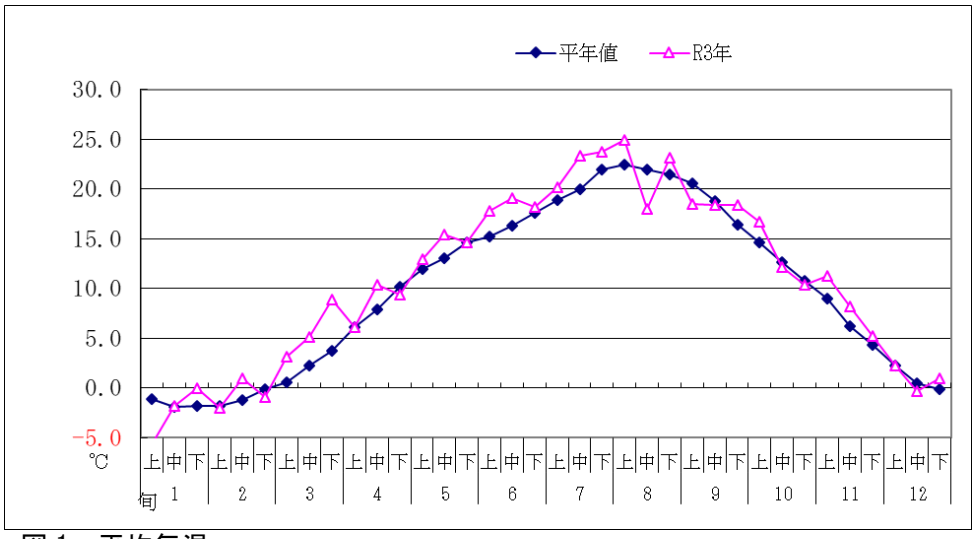


図１　平均気温

平年値との比較

・1℃を上回る月

3 月（+3.6℃）

5 月（+1.1℃）

6 月（+2.0℃）

7 月（+2.1℃）

11 月（+1.9℃）

(2)　日照時間

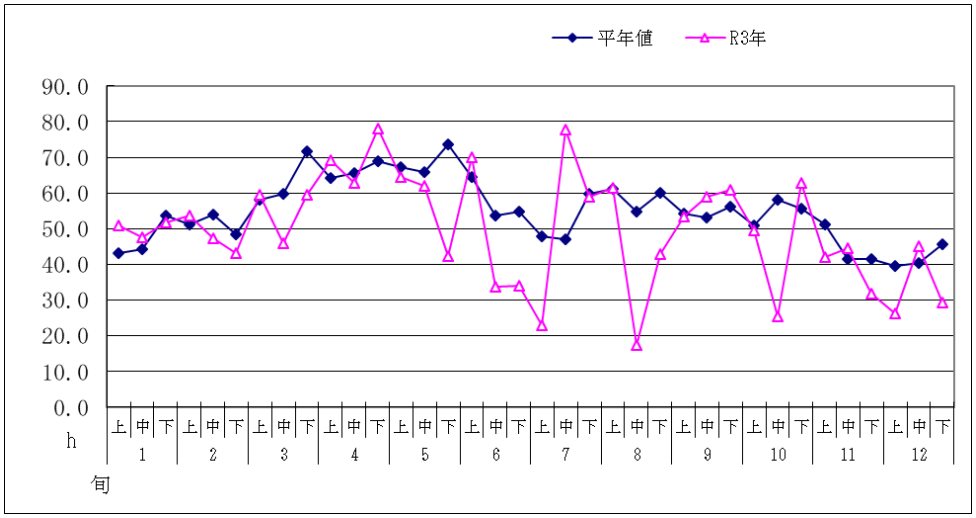


図２　日照時間

平年値との比較

・30 時間/月を下回る月

6 月（-30.7ｈ）

8 月（-38.1ｈ）

(3)　降水量

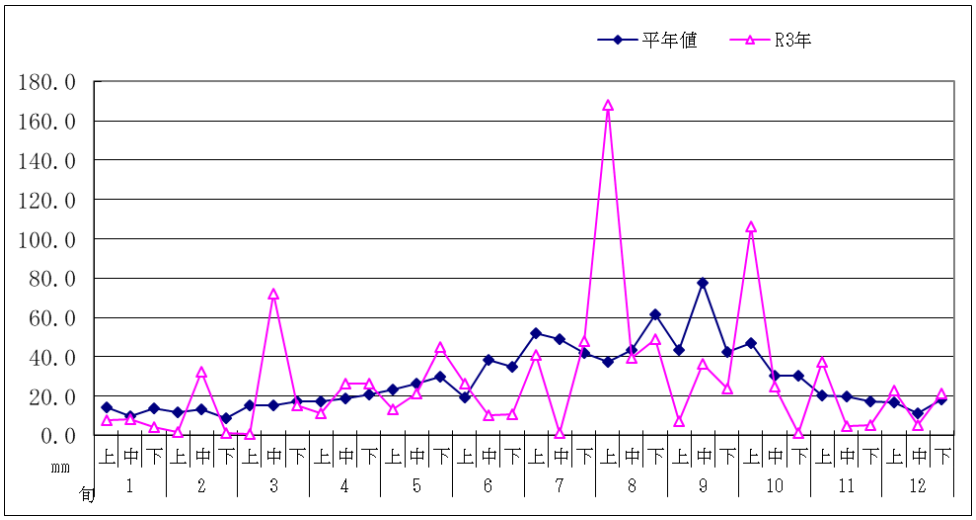


図３　降水量

平年値との比較

・30mm/月を上回る月

3 月（+40.3 mm）

8 月（+113.9 mm）

・30mm/月を下回る月

6 月（-45.6 mm）

7 月（-52.5 mm）

9 月（-95.5 mm）

表 2　令和 3 年 気象観測数値 旬表

農業経営振興センター観測

月	旬	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均湿度 (%)	平均地温（℃） 0cm	10cm	20cm
1	上旬	-5.7	0.3	-12.7	50.9	7.5	73.7	1.0	2.3	3.3
	中旬	-1.8	6.0	-11.9	47.5	8.0	69.7	1.0	2.0	3.0
	下旬	0.0	9.8	-5.7	51.6	4.0	72.0	0.7	1.6	2.5
平均・極値・計		-2.4	9.8	-12.7	150.0	19.5	71.8	0.9	2.0	2.9
2	上旬	-2.0	9.2	-8.1	53.7	1.5	67.8	-0.2	1.0	1.9
	中旬	1.0	12.8	-5.9	47.4	32.5	74.8	-0.1	0.6	1.4
	下旬	-0.9	10.8	-7.9	43.0	1.0	73.0	0.0	0.7	1.4
平均・極値・計		-0.6	12.8	-8.1	144.1	35.0	71.8	-0.1	0.8	1.6
3	上旬	3.2	16.2	-5.6	59.5	0.5	66.5	1.5	1.8	2.3
	中旬	5.2	14.7	-1.0	46.0	72.0	67.6	4.7	4.2	4.0
	下旬	8.9	21.3	-0.4	59.4	15.5	68.3	7.8	6.6	5.9
平均・極値・計		5.8	21.3	-5.6	164.9	88.0	67.5	4.8	4.3	4.1
4	上旬	6.1	21.4	-2.0	69.2	11.0	72.2	7.8	8.0	7.9
	中旬	10.4	20.1	-0.1	62.7	26.5	62.6	9.8	8.9	8.3
	下旬	9.4	22.1	0.7	78.0	26.5	59.3	10.5	10.0	9.6
平均・極値・計		8.6	22.1	-2.0	209.9	64.0	64.7	9.3	8.9	8.6
5	上旬	13.0	25.0	4.3	64.6	13.5	62.7	13.0	11.6	10.9
	中旬	15.4	23.9	6.3	62.1	21.5	78.1	17.1	15.0	13.6
	下旬	14.6	22.7	9.2	42.2	45.0	81.5	17.0	15.8	15.4
平均・極値・計		14.3	25.0	4.3	168.9	80.0	74.4	15.7	14.2	13.4
6	上旬	17.8	28.5	7.9	69.9	26.5	76.4	20.2	17.9	17.0
	中旬	19.1	33.4	12.9	33.6	10.0	83.5	21.7	20.3	19.2
	下旬	18.2	25.9	13.0	34.0	10.5	91.4	21.2	20.0	19.2
平均・極値・計		18.4	33.4	7.9	137.5	47.0	83.8	21.0	19.4	18.5
7	上旬	20.2	28.0	12.9	22.8	41.0	88.4	22.1	21.3	20.4
	中旬	23.4	34.6	16.9	77.8	1.0	85.2	25.5	23.4	22.1
	下旬	23.7	31.3	19.7	58.8	48.0	90.8	26.1	24.9	23.9
平均・極値・計		22.5	34.6	12.9	159.4	90.0	88.2	24.6	23.2	22.2
8	上旬	25.0	33.6	16.0	61.4	168.0	89.9	26.9	25.9	25.2
	中旬	18.0	28.4	13.6	17.2	39.5	92.9	20.4	21.1	21.9
	下旬	23.1	30.0	15.9	42.8	49.0	86.5	24.4	23.7	23.3
平均・極値・計		22.1	33.6	13.6	121.4	256.5	89.6	23.9	23.6	23.4
9	上旬	18.5	27.8	10.7	53.5	7.0	84.2	20.7	21.4	22.0
	中旬	18.4	28.4	12.5	59.0	36.5	80.9	20.0	20.5	21.0
	下旬	18.4	28.9	9.6	60.8	24.0	82.7	19.3	19.7	20.3
平均・極値・計		18.5	28.9	9.6	173.3	67.5	82.6	20.0	20.5	21.1
10	上旬	16.8	27.3	9.2	49.6	106.5	83.4	17.7	18.3	19.0
	中旬	12.1	22.0	3.2	25.3	25.0	86.2	14.8	16.0	17.1
	下旬	10.4	18.3	3.1	62.8	1.0	78.5	12.1	13.3	14.5
平均・極値・計		13.0	27.3	3.1	137.7	132.5	82.6	14.8	15.7	16.8
11	上旬	11.3	18.4	4.8	42.0	37.5	87.8	12.4	12.9	13.7
	中旬	8.2	17.4	0.6	44.5	4.5	74.3	9.6	11.0	12.2
	下旬	5.2	15.6	-0.5	31.8	5.0	79.2	6.9	8.4	9.9
平均・極値・計		8.3	18.4	-0.5	118.3	47.0	80.4	9.6	10.8	11.9
12	上旬	2.2	9.9	-2.6	26.3	23.0	74.7	1.9	3.6	4.9
	中旬	-0.3	6.8	-4.0	45.1	5.0	71.9	0.1	2.3	3.5
	下旬	1.0	7.2	-3.9	29.2	21.5	79.7	0.2	1.5	2.4
平均・極値・計		1.0	9.9	-4.0	100.6	49.5	75.5	0.7	2.4	3.6
年平均・極値・計		10.8	34.6	-12.7	1786.0	976.5	77.8	12.2	12.2	12.4

※四捨五入により端数処理

2－2 調査成績（施設野菜）

施設野菜の部　No.1

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（新規：令和３年度～令和５年度）

１目的　種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス４号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和２年５月７日（406 穴セルトレイ）
3)　移植月日　令和２年６月 29 日（10.5cm ポット）
※406 穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
4)　夜冷処理期間　令和２年７月 31 日～8 月 31 日
5)　夜冷処理日数　31 日
6)　夜冷処理方法　短日処理　8 時間日長（16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光）
夜冷処理　13～15℃（16 時 30 分～翌 8 時 30 分）
7)　育苗日数　116 日、140 日
8)　定植年月日　令和２年９月１日、25 日
9)　栽植距離　うね幅 110 cm、ベッド幅 70cm、株間 25 cm、2 条植え
10)　定植株数　640 株/棟
11)　施肥量　N-P-K=1.33-0.62-1.53kg/a
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕６号（13.5-10-20）5.4kg/a
12)　使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、あったかマルチ
13)　収穫期間　令和２年 10 月 26 日～令和３年６月９日
14)　保温　内カーテン：令和２年 11 月 10 日～令和３年４月 19 日
15)　加温　温風暖房機（5℃設定）：
令和２年 11 月 16 日～令和３年４月 19 日
16)　薬剤散布　63 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　3 区（1 区 10 株、1 区制）
<1>夜冷短日処理区
<2>電照長日処理区（定植後 2 週間 24 時間日長処理）
<3>9 月下旬定植区
2)　供試品種　よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始は、「夜冷短日処理区」が揃って花芽が上がり、安定していた。「電照長日処理区」も同じ時期から始まったが、株によるバラつきが見られた。「9 月下旬定植区」は 12 月下旬からの収穫開始となった。

病害虫については、5 月からうどんこ病の発生もあったが、他品種と比較し、「よつぼし」では発生が少なかった。

2)　収量

「夜冷短日処理区」では、1 株収量は 659.4g、10a 換算収量は 3,197kg であり、最も多い結果となった。

月別収量で比較すると収穫開始から 2 月は「夜冷短日処理区」で、3 月以降は「9 月下旬定植区」で多い結果となった。

3)　品質

平均果重は「9 月下旬定植区」で 18.0g と最も大きく、「夜冷短日処理区」で 14.4g

と最も小さかった。秀品率は「9 月下旬定植区」で最も高く、95.0%であり 10a 換算秀品収量でも 3,016kg と最も優れていた。

(2)　次年度以降の計画
継続

表 1　収量調査（10 株当たり）

品種名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11～15g未満)		S (7～11g未満)		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理区	8	299	32	936	125	2,336	122	1,554	110	997	61	472
電照長日処理区	13	525	44	1,305	136	2,545	107	1,402	58	541	27	219
9月下旬定植区	19	756	49	1,450	127	2,407	102	1,330	48	450	18	152

表2つづき

品種名	合計		平均果重	1株収量	秀品率(%)	1棟(132㎡)換算収量(kg)	10a換算収量(kg)	10a換算秀品収量(kg)
	果数	収量						
夜冷短日処理区	458	6,594	14.4	659.4	86.7	422.0	3,197	2,771
電照長日処理区	385	6,537	17.0	653.7	93.0	418.4	3,169	2,947
9月下旬定植区	363	6,545	18.0	654.5	95.0	418.9	3,173	3,016

表2つづき

品種名	等級割合(%：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小･奇
夜冷短日処理区	4.5	14.2	35.4	23.6	15.1	7.2
電照長日処理区	8.0	20.0	38.9	21.4	8.3	3.4
9月下旬定植区	11.6	22.2	36.8	20.3	6.9	2.3

※平均果重=合計収量/合計個数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(3L～S合計)/合計果数。
1棟換算収量=1株収量×定植株数(640株)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

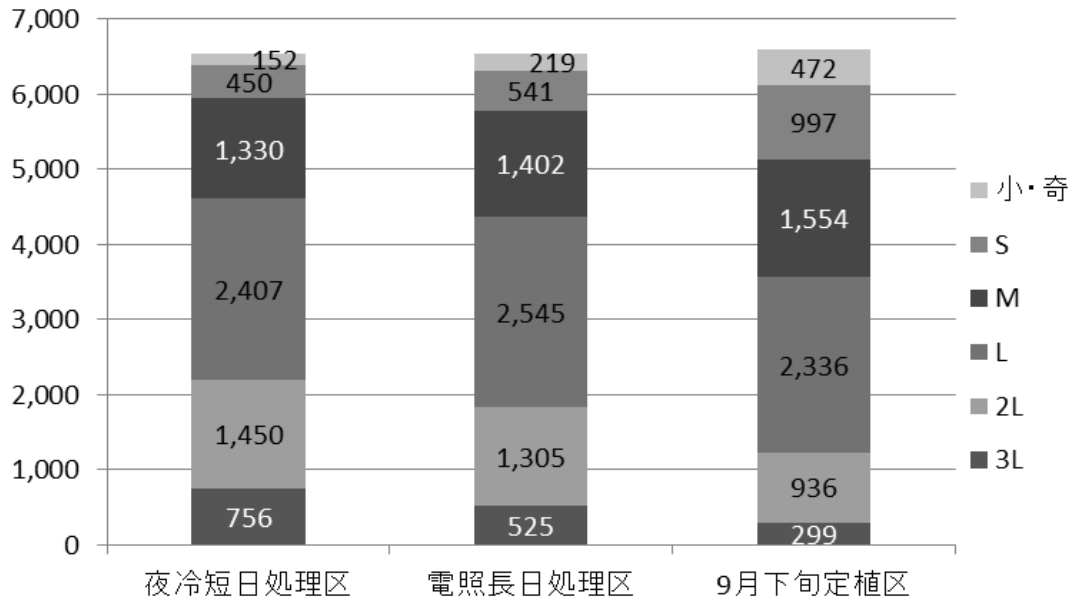


図１　調査区別収量（g）（10 株当たり）

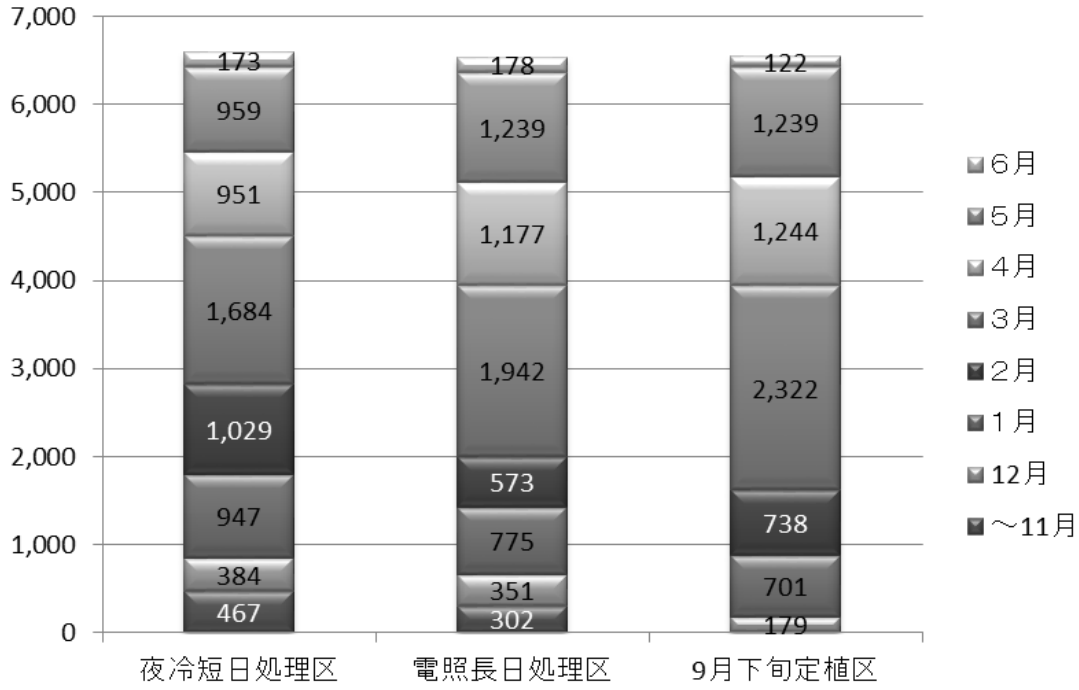


図２　月別収量（g）（10 株当たり）

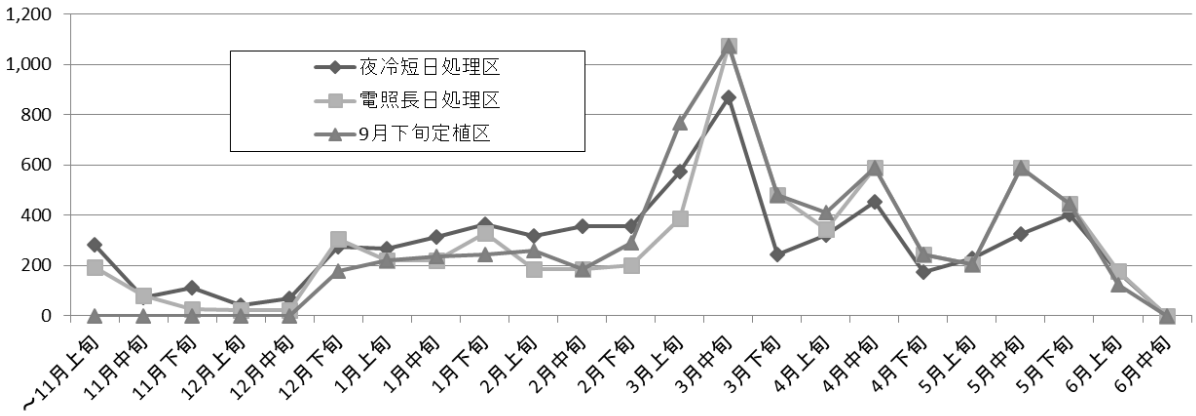


図 3　月旬別収量（g）（10 株当たり）

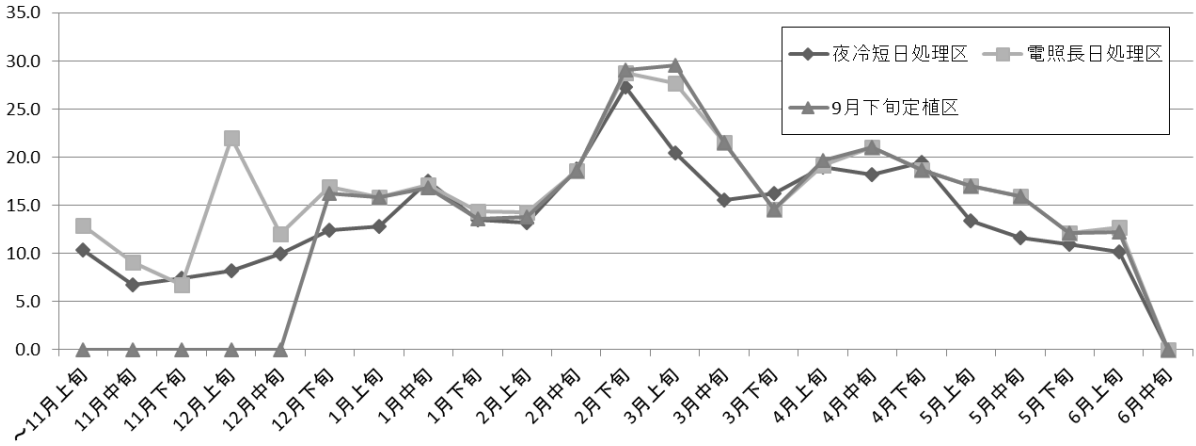


図 4　月旬別平均果重（g）（10 株当たり）

施設野菜の部　No.2

項目：品種比較調査

調査名：ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（継続：令和２年度～令和３年度）

１目的　当地域において冬期間に栽培される「寒締めほうれんそう」に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス６号（100 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培、無加温

2)　は種月日　令和３年９月 30 日

3)　栽植距離　ベッド幅 110 ㎝、株間 15 ㎝、条間 15 ㎝、７条植え、２粒播き

4)　定植株数　2,800 株/棟

5)　施肥量　N-P-K=1.00-0.81-0.19kg/a
シリカ＆フミン（2.7-2.2-0.5）：37kg/a

6)　使用資材　白黒ダブルマルチ

7)　収穫月日　令和３年 12 月８日

8)　薬剤散布　２回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　３区（１区 20 株、１区制）

2)　供試品種　<1>雪美菜 02　（雪印種苗㈱）
<2>じっくり朝霧　（㈱渡辺採種場）
<3>朝霧　（㈱渡辺採種場）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

各品種とも発芽は良好、生育も順調に進み、11 月 8 日からは寒締めのためにハウスの開放を始めた。

病害虫について、特に発生は見られなかった。

2)　収量

調整重、1a 換算収量、1a 換算出荷袋数は「朝霧」が優った。

3)　品質

糖度調査では「じっくり朝霧」が高かった。

(2)　次年度以降の計画

完了

表１　収量調査（20 株調査）

品種名	葉数 (枚)	葉長 (cm)	株重 (g)	調整重 (g)	1a 換算収量 (kg)	1a 換算 出荷袋数
雪美菜 02	16.4	23.5	64.0	55.2	154.6	702.5
じっくり朝霧	15.9	24.4	65.2	60.4	169.1	768.7
朝霧	15.3	25.2	85.0	79.9	223.7	1016.9

※1a 換算収量=調整重×2,800 株/棟。

1a 換算出荷袋数=1a 換算収量/220g。

表２　糖度調査（20 株調査）

品種名	糖度(Brix%)
雪美菜 02	10.7
じっくり朝霧	10.9
朝霧	10.4

施設野菜の部　No.3

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室6号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和2年12月23日（144穴トレイ）
3)　移植月日　令和3年1月14日（12㎝ポット）
4)　定植月日　令和3年2月25日
5)　育苗日数　64日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　320株/棟
8)　施肥量　N-P-K=1.27-1.28-2.22kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：4.2kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：5.5kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月9日～収穫終了日）。
10)　収穫期間　令和3年5月7日～令和3年7月30日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和3年5月21日、
12)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和3年5月7日
13)　薬剤散布　15回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
14)　摘心　令和3年5月20日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4区（1区5株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら64　（みかど協和㈱）
〈2〉CF桃太郎はるか　（タキイ種苗㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植直後は地温を確保できず、生育が停滞したもののその後は順調に生育した。

病害虫については、特段発生は見られなかった。

定植時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が高くなり、「CF桃太郎はるか」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなり、「みそら64」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「みそら64」であった。

2)　収量

10a換算収量は「麗月」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、5月は「CF桃太郎はるか」、6月は「麗月」、7月は「麗月」であった。

3)　品質

平均1果重は「CF桃太郎はるか」で最も大きくなり、「みそら64」で最も小さくなった。上物率は「麗月」、で最も高くなり、「みそら64」で低くなった。10a換算上物収量は「麗月」で高くなった。

糖度は、「みそら64」で高い傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画
完了

表１　生育調査（10 株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第１果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	40.3	9.0	6.5	－	31.1	7.7
	収穫開始時	164.2	27.0	－	6.1	47.4	14.2
CF 桃太郎はるか	定植時	37.8	6.6	6.6	－	33.3	7.4
	収穫開始時	184.6	28.5	－	6.5	46.2	11.7
桃太郎ネクスト	定植時	45.2	9.4	6.0	－	34.2	7.0
	収穫開始時	223.6	31.0	－	7.2	53.0	12.8
麗月	定植時	38.0	8.2	5.0	－	31.3	6.7
	収穫開始時	218.0	30.0	－	7.3	50.9	12.5

表２　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	195	34,845	18	3,995	213	38,840
CF桃太郎はるか	198	51,509	25	4,998	223	56,507
桃太郎ネクスト	199	43,244	24	4,225	223	47,469
麗月	212	52,634	25	4,921	237	57,555

品種名	1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	１棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
みそら64	3,884	182.3	89.7	1,243	7.5	6.8
CF桃太郎はるか	5,651	253.4	91.2	1,808	11.0	10.0
桃太郎ネクスト	4,747	212.9	91.1	1,519	9.2	8.4
麗月	5,756	242.8	91.4	1,842	11.2	10.2

※上物：Ａ+Ｂ品、下物：Ｃ+Ｄ品+外品の合計。
※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=合計収量/上物収量。
　10a換算収量=1株換算収量×2000株/10a。10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	5 月 26 日	6 月 25 日	7 月 26 日
みそら 64	5.6	5.9	6.2
CF 桃太郎はるか	5.0	5.2	5.2
桃太郎ネクスト	5.4	5.6	6.0
麗月	5.5	5.6	5.7

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

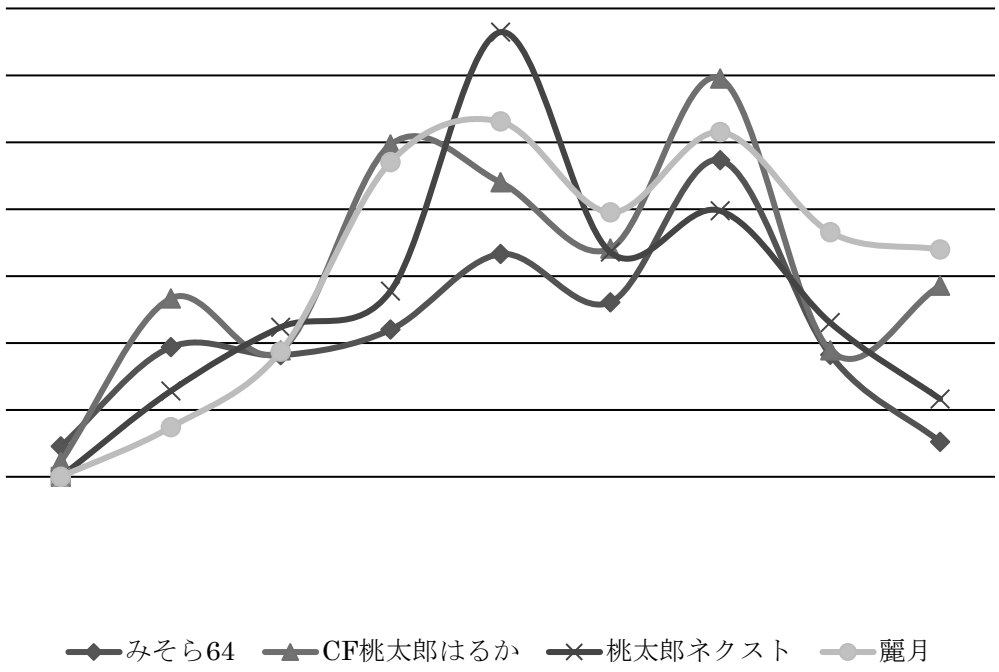


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

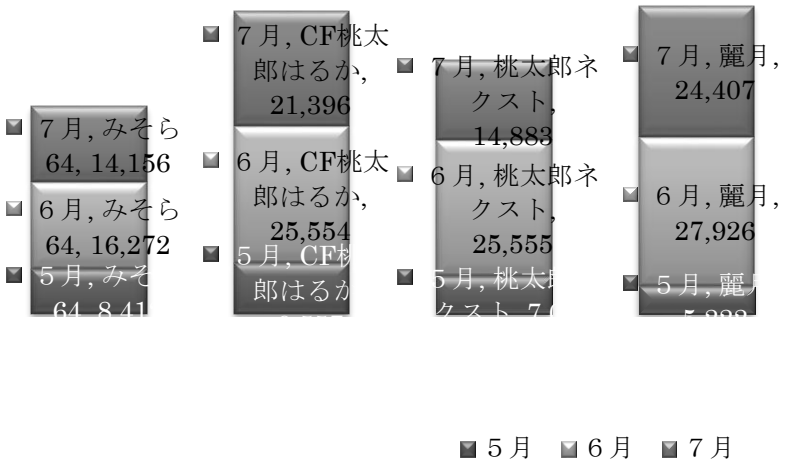


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.4

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：令和２年度～令和３年度）

１目的　トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室５号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和３年２月 22 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和３年３月 15 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和３年４月 15 日
5)　育苗日数　52 日
6)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
7)　定植株数　320 株/棟
8)　施肥量　N-P-K=2.36-1.56-7.60kg/a
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
けい酸加里プレミア 34（K:20%）：17.0kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドＧ（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和３年６月４日～9 月４日）。
10)　収穫期間　令和３年６月 11 日～11 月 29 日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和３年５月 24 日、
9 月 21 日～収穫終了日
12)　薬剤散布　33 回（成分回数）
※うね毎に１本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和３年９月 10 日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（1 区 10 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　(みかど協和㈱)
〈2〉ひなた　(みかど協和㈱)
〈3〉桃太郎ネクスト　(タキイ種苗㈱)
〈4〉りんか 409　(㈱サカタのタネ)
〈5〉麗月　(㈱サカタのタネ)

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
10a 換算上物収量は「みそら 64」で高くなり、10t を超える上物収量となった。

(2)　本年度の結果

1)　生育
定植時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が高くなり、「ひなた」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなり、「みそら 64」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「みそら 64」であった。
病害虫では、終盤にネコブセンチュウによる被害が散見された。

2)　収量
10a 換算収量は「ひなた」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、6 月、7 月は「ひなた」、8 月は「麗月」、9 月は「りんか 409」、10 月以降は「みそら 64」であった。

3)　品質
平均 1 果重は「みそら 64」で最も大きくなり、「麗月」で最も小さくなった。上物

率は「桃太郎ネクスト」で高くなり、「りんか 409」で低くなった。10a 換算上物収量は「みそら 64」で高くなった。
　糖度は、6 月は「りんか 409」、7 月は「みそら 64」、8 月は「りんか 409」、9 月は「ひなた」、10 月以降は「桃太郎ネクスト」で高かった。

(3)　調査 2 箇年の結果
　2 箇年を通して「みそら 64」が 10a 換算上物収量において最も優れた結果となった。

(4)　次年度以降の計画
　完了

表 1　生育調査（10 株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	40.3	9.0	6.5	－	31.1	7.7
	収穫開始時	164.2	27.0	－	6.1	47.4	14.2
ひなた	定植時	37.8	6.6	6.6	－	33.3	7.4
	収穫開始時	184.6	28.5	－	6.5	46.2	11.7
桃太郎ネクスト	定植時	45.2	9.4	6.0	－	34.2	7.0
	収穫開始時	223.6	31.0	－	7.2	53.0	12.8
りんか 409	定植時	38.5	9.2	6.5	－	31.2	7.7
	収穫開始時	184.4	29.8	－	6.2	46.4	14.3
麗月	定植時	38.0	8.2	5.0	－	31.3	6.7
	収穫開始時	218.0	30.0	－	7.3	50.9	12.5

表 2　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	130	24,993	40	5,650	170	30,643
ひなた	120	22,815	70	9,207	190	32,022
桃太郎ネクスト	142	22,869	38	4,179	180	27,048
りんか 409	109	18,863	55	8,992	164	27,855
麗月	145	22,753	51	5,352	196	28,105

表 2 つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率(%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	6,129	180.3	81.6	1,961	11.9	9.7
ひなた	6,404	168.5	71.2	2,049	12.4	8.8
桃太郎ネクスト	5,410	150.3	84.5	1,731	10.5	8.9
りんか 409	5,571	169.8	67.7	1,783	10.8	7.3
麗月	5,621	143.4	81.0	1,799	10.9	8.8

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　糖度調査（Brix%）

品種名	6 月 25 日	7 月 26 日	8 月 25 日	9 月 24 日	10 月 25 日
みそら 64	5.4	5.8	5.2	5.6	6.3
ひなた	5.5	5.7	4.9	5.7	6.2
桃太郎ネクスト	5.4	5.4	4.9	4.8	6.6
りんか 409	6.0	5.2	5.7	4.9	5.9
麗月	5.1	5.5	5.2	5.4	6.3

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

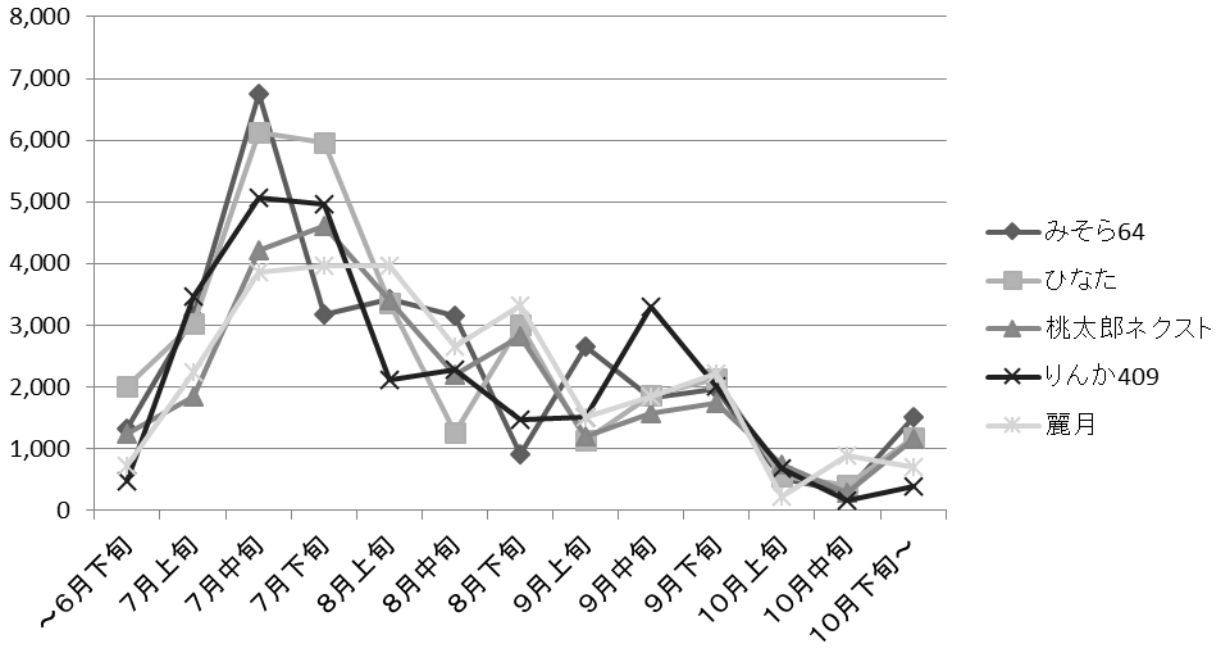


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

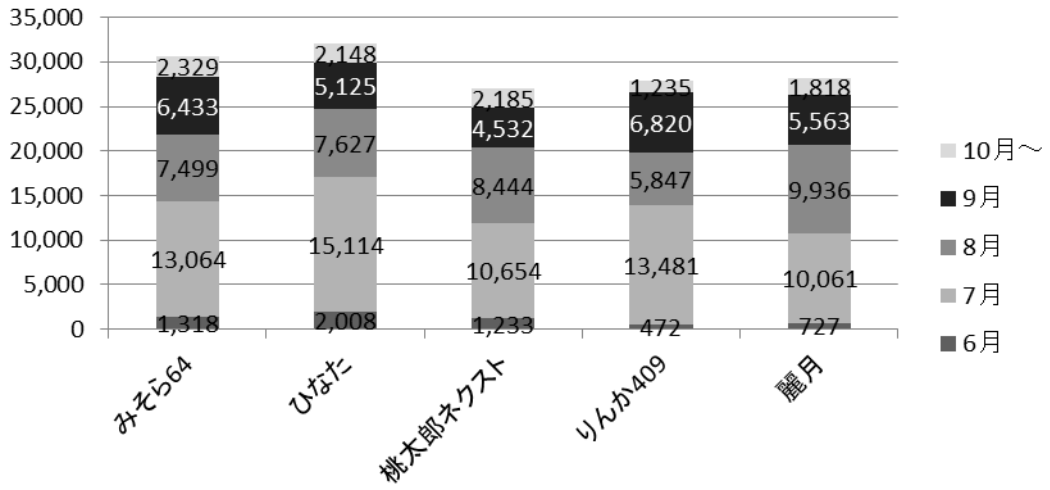


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

表 4　令和 2 年度収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	152	27,256	51	5,801	203	33,057
ひなた	113	20,877	65	7,487	178	28,364
桃太郎ネクスト	132	21,284	55	7,855	187	29,139
りんか 409	113	21,614	68	9,243	181	30,857
麗月	114	20,208	81	11,535	195	31,743

表 4 つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率(%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	6,611	162.8	82.5	2,116	12.8	10.6
ひなた	5,673	159.3	73.6	1,815	11.0	8.1
桃太郎ネクスト	5,828	155.8	73.0	1,865	11.3	8.3
りんか 409	6,171	170.5	70.0	1,975	12.0	8.4
麗月	6,349	162.8	63.7	2,032	12.3	7.8

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

施設野菜の部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室6号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和3年6月1日（72穴トレイ）
3)　定植月日　令和3年6月21日
（前作の栽培中にその株間に定植）
4)　育苗日数　20日
5)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
6)　定植株数　320株/棟
7)　施肥量　N-P-K=0.24-0.33-0.40kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.5kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：0.4kg/a
8)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和3年6月4日～9月4日）。
9)　収穫期間　令和3年8月30日～11月29日
10)　保温　内カーテン：9月29日～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（8℃設定）：11月10日～収穫終了日
12)　薬剤散布　20回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和3年9月21日（6～7段）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5区（1区10株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
10a換算上物収量は「みそら64」で高くなった。

(2)　本年度の結果

1)　生育
収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなった。最も節間が短い草姿となったのは「ひなた」であった。茎径は「みそら64」で太かった。
摘心時の開花段数は、「みそら64」、「ひなた」で7段、その他の品種で6段であった。
病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していたと思われる。

2)　収量
10a換算収量は「麗月」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、9月では「麗月」、10月では「みそら64」、11月では「りんか409」であった。

3)　品質
平均1果重は「麗月」で大きくなった。上物率は「みそら64」、「ひなた」、「桃太郎

ネクスト」で70%台、「りんか409」、「麗月」で60%台であった。10a換算上物収量は「みそら64」で多くなった。
　糖度は、9月は「みそら64」と「ひなた」、それ以外の月は「桃太郎ネクスト」が高かった。

(3)　調査3箇年の結果
　3箇年を通して「みそら64」が10a換算上物収量において最も優れた結果となった。

(4)　次年度以降の計画
　完了

表1　生育調査（収穫開始時、10株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら64	195.1	25.0	7.8	48.6	12.1
ひなた	164.0	25.6	6.4	45.2	11.6
桃太郎ネクスト	195.7	22.2	8.8	49.7	10.4
りんか409	153.1	21.6	7.1	44.3	10.9
麗月	163.7	19.7	8.3	45.1	9.4

表2　収量調査（10株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	132	20,850	68	6,735	200	27,585
ひなた	98	16,253	49	4,708	147	20,961
桃太郎ネクスト	114	16,425	60	6,834	174	23,259
りんか409	112	18,479	78	9,896	190	28,375
麗月	125	19,866	70	9,312	195	29,178

表2つづき

品種名	1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
みそら64	2,759	137.9	75.6	883	5.3	4.0
ひなた	2,096	142.6	77.5	671	4.1	3.2
桃太郎ネクスト	2,326	133.7	70.6	744	4.5	3.2
りんか409	2,838	149.3	65.1	908	5.5	3.6
麗月	2,918	149.6	68.1	934	5.7	3.9

※上物:A+B品、下物:C+D+外品の合計。

※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1棟(165㎡)換算収量=1株換算収量×定植株数(320株)。10a換算収量=1棟換算収量/165㎡×1000㎡。

10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	9 月 24 日	10 月 25 日	11 月 26 日
みそら 64	5.9	5.9	6.3
ひなた	5.9	6.1	6.4
桃太郎ネクスト	5.3	6.3	6.6
りんか 409	5.3	5.8	5.9
麗月	5.5	6.2	6.1

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

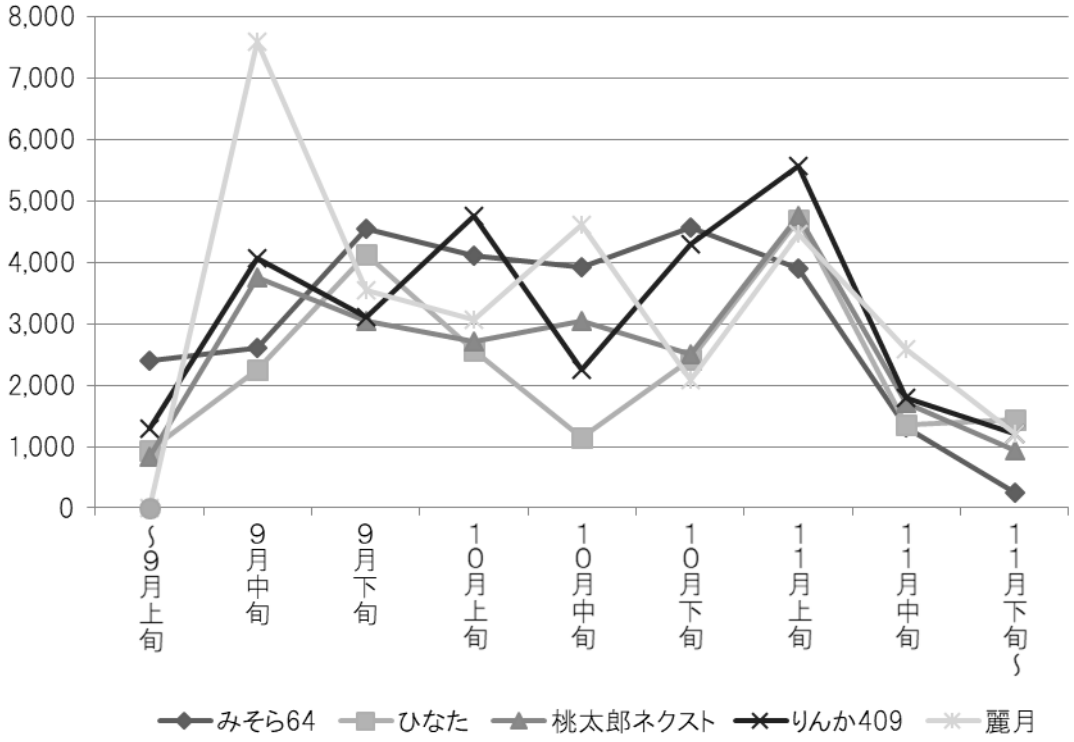


図１　月旬別収量（g）（10 株当たり）

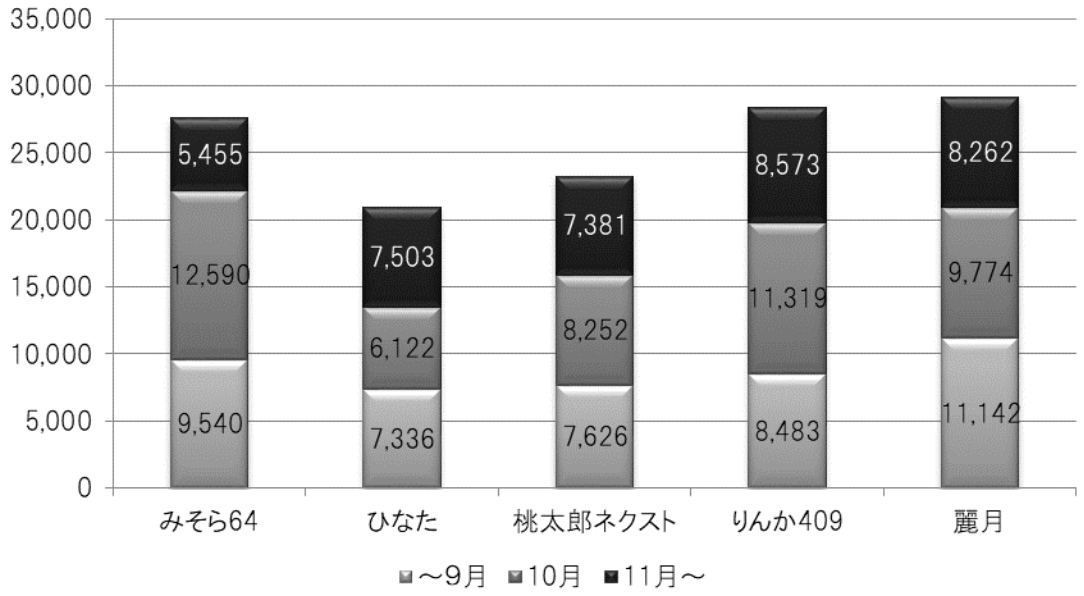


図 2　月別収量（g）（10 株当たり）

表 4　平成 31 年度収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	70	11,120	36	3,592	106	14,712
ひなた	56	9,287	28	2,690	84	11,978
桃太郎ネクスト	61	8,760	32	3,645	93	12,405
りんか 409	64	10,559	45	5,655	109	16,214
麗月	62	9,933	35	4,656	98	14,589

表 4 つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率(%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	1,471	138.3	76.5	471	2.9	2.2
ひなた	1,198	142.6	75.7	383	2.3	1.8
桃太郎ネクスト	1,240	133.7	70.6	397	2.4	1.7
りんか 409	1,621	149.0	68.1	519	3.1	2.0
麗月	1,459	149.5	65.1	467	2.8	1.9

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 5　令和 2 年度収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	114	20,850	23	3,057	137	23,907
ひなた	91	17,414	18	2,050	109	19,464
桃太郎ネクスト	99	16,425	20	3,733	119	20,158
りんか 409	104	19,799	28	6,550	132	26,348
麗月	101	18,624	22	5,083	123	23,707

表 5 つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率(%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	2,391	174.6	87.2	765	4.6	4.0
ひなた	1,946	179.4	89.5	623	3.8	3.4
桃太郎ネクスト	2,016	169.7	81.5	645	3.9	3.2
りんか 409	2,635	199.6	75.1	843	5.1	3.8
麗月	2,371	192.1	78.6	759	4.6	3.6

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

施設野菜の部　No.6

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス2号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和2年12月25日（144穴トレイ）
3)　移植月日　令和3年1月14日（12㎝ポット）
4)　定植月日　令和3年2月25日
5)　育苗日数　62日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　228株/棟
8)　施肥量　N-P-K=1.29-1.21-4.50kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：6.1kg/a
硫酸加里（K：50）：4.5kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月9日～収穫終了日）。
10)　収穫期間　令和3年4月30日～令和3年7月30日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和3年5月21日、
12)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和3年5月7日
13)　薬剤散布　15回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
14)　摘心　令和3年5月20日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4区（1区5株、1区制）
2)　供試品種　〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植直後は地温を確保できず、生育が停滞したもののその後は順調に生育した。
病害虫については、特段発生は見られなかった。
定植時の生育調査では、「サンチェリーピュア」、「キャロル10」で草丈が高くなり、「サマー千果」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「サンチェリーピュア」で草丈が最も高くなり、「キャロルスター」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「キャロルスター」であった。

2)　収量

10a 換算収量は「キャロルスター」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、5月は「キャロルスター」、6月は「サマー千果」、7月は「サマー千果」であった。

3)　品質

平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さくなった。上物率は「サンチェリーピュア」で高くなり、「キャロル10」で低くなった。10a

換算上物収量は「キャロルスター」で高くなった。
糖度は、「キャロル10」で高い傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画
完了

表１　生育調査（5株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	58.8	9.0	7.2	－	28.4	7.6
	収穫開始時	199.4	24.0	－	8.3	32.8	10.1
キャロルスター	定植時	50.8	7.4	5.4	－	29.4	7.3
	収穫開始時	166.6	22.4	－	7.4	36.2	9.9
サンチェリーピュア	定植時	60.2	7.0	5.0	－	29.0	8.2
	収穫開始時	203.2	25.8	－	7.9	36.2	10.3
サマー千果	定植時	44.2	8.2	7.0	－	28.6	8.3
	収穫開始時	176.0	21.4	－	8.2	35.2	9.1

表 2　収量調査（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
ｷｬﾛﾙ10	0	0	50	804	286	3,577	677	5,882	415	2,481
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	4	94	168	2,788	480	6,139	372	3,461	49	293
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	5	115	172	2,858	371	4,702	327	3,031	42	265
サマー千果	31	670	384	6,512	451	5,875	138	1,366	20	125

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
ｷｬﾛﾙ10	1,428	12,744	239	2,011	1,667	14,755	2,951	8.9	86.4	29.7
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	1,073	15,081	197	1,972	1,270	17,053	3,411	13.4	88.4	52.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	917	10,971	106	1,369	1,023	12,340	2,468	12.1	88.9	61.3
サマー千果	1,024	14,548	118	1,929	1,142	16,477	3,295	14.4	88.3	75.2

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
ｷｬﾛﾙ10	673	5.1	4.4
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	778	5.9	5.2
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	563	4.3	3.8
サマー千果	751	5.7	5.0

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　糖度調査（Brix%）

	5月26日	6月25日	7月26日
キャロル10	9.0	9.0	9.1
キャロルスター	7.5	7.6	8.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	7.5	7.7	7.8
サマー千果	7.2	7.4	7.5

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

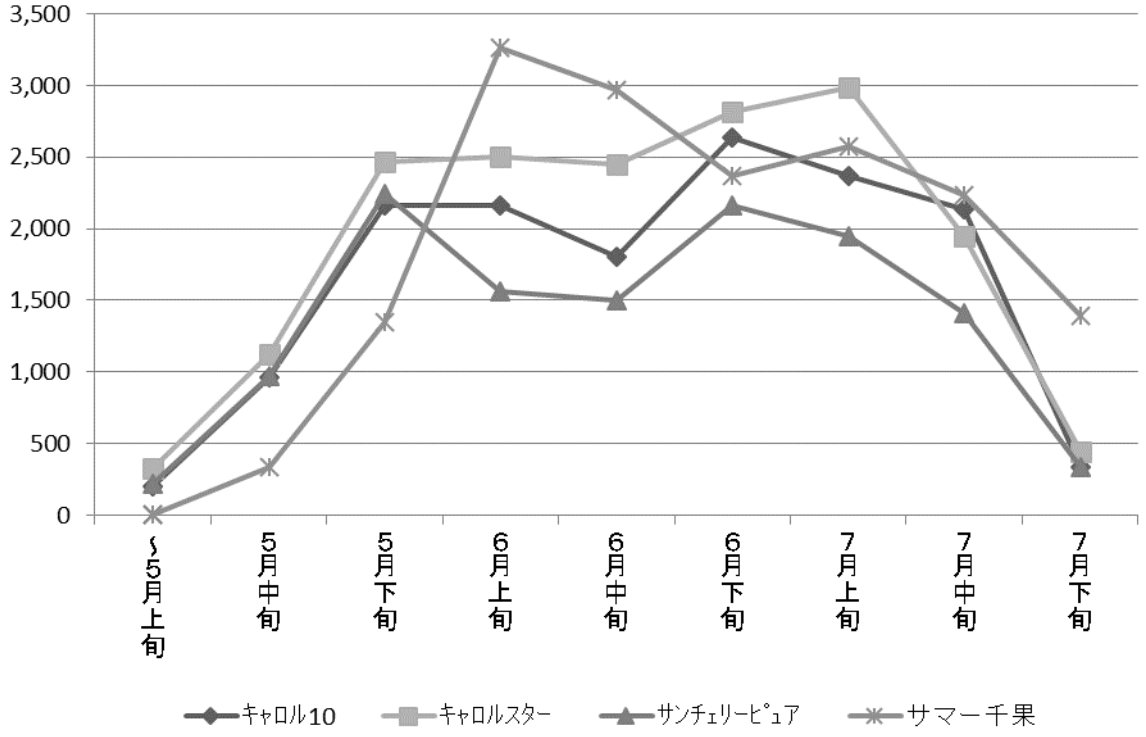


図1　月旬別収量（g）（5株当たり）

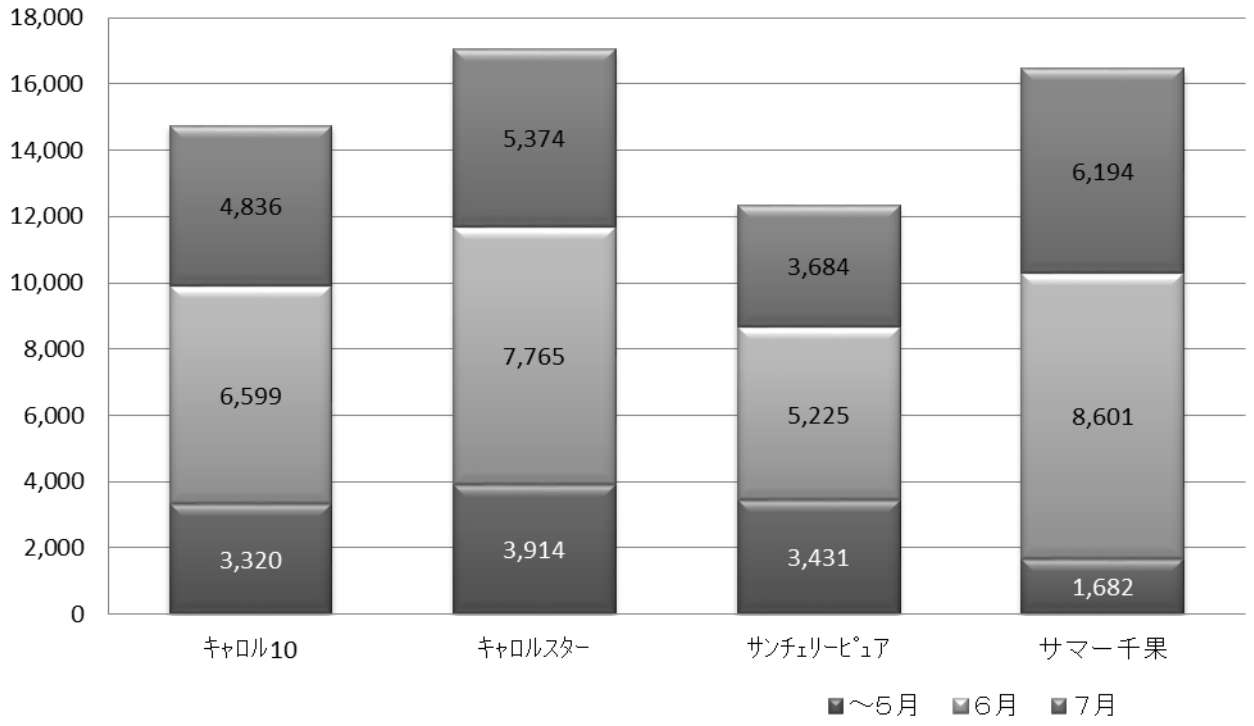


図2　月別収量（g）（5株当たり）

施設野菜の部　No.7

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス1号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和3年2月22日（144穴トレイ）
3)　移植月日　令和3年3月15日（12㎝ポット）
4)　定植月日　令和3年4月14日
5)　育苗日数　51日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　228株/棟
8)　施肥量　N-P-K=2.36-1.56-7.60kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
けい酸加里プレミア34（K:20%）：17.0kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和3年6月4日～9月4日）。
10)　収穫期間　令和3年6月11日～11月29日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和3年5月24日、
9月21日～収穫終了日
12)　薬剤散布　33回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和3年9月10日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　7区（1区5株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)
〈5〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈6〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈7〉T833　(みかど協和㈱)

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

10a換算上物収量は「サマー千果」で高くなった。

(2)　本年度の結果

1)　生育

定植時の生育調査では、「サンチェリーピュア」で草丈が高くなり、「キャロルムーン」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「キャロル10」、「キャロルスター」で草丈が高くなり、「T833」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「T833」であった。

7月下旬からの高温により、品種によっては花飛びや障害果の発生が見られた。

病害虫については収穫終盤に葉かび病が発生した。

2)　収量

10a 換算収量は「キャロルムーン」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、6月は「T833」、7月は「アイラ」、8月は「サンチェリーピュア」、9月は「キャロルムーン」、10月以降は「T833」であった。

3) 品質

平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「アイラ」で最も小さくなった。上物率は「サンチェリーピュア」で高くなり、「キャロル10」で低くなった。10a換算上物収量は「サンチェリーピュア」で高くなった。

糖度は、6月は「サマー千果」、9月は「アイラ」、それ以外の月は「キャロルスター」で高かった。

(3) 調査3箇年の結果

3箇年を通して「サマー千果」等の大玉系品種が全般的に10a換算収量において優れた結果となった。

(4) 次年度以降の計画

完了

表1 生育調査（5株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	39.8	10.0	7.2	−	26.4	7.3
	収穫開始時	221.4	30.0	−	7.4	44.8	11.4
キャロルスター	定植時	37.8	10.4	6.4	−	26.4	6.5
	収穫開始時	215.6	34.4	−	6.3	42.2	10.2
サンチェリーピュア	定植時	44.2	11.0	7.0	−	24.0	6.2
	収穫開始時	180.2	33.8	−	5.3	38.2	12.3
サマー千果	定植時	35.2	9.2	7.0	−	26.6	6.6
	収穫開始時	172.0	30.4	−	5.7	43.2	11.1
アイラ	定植時	40.6	10.8	7.0	−	25.2	6.6
	収穫開始時	167.2	33.4	−	5.0	40.4	14.1
キャロルムーン	定植時	33.2	8.8	6.4	−	25.6	7.1
	収穫開始時	150.2	32.4	−	4.6	43.2	12.4
T833	定植時	36.0	10.0	6.0	−	27.6	7.4
	収穫開始時	138.4	32.4	−	4.3	47.0	12.2

表 2　収量調査（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	127	3,143	338	5,894	584	7,491	363	3,329	78	472
キャロルスター	112	2,430	633	11,161	710	9,283	311	2,906	56	352
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	62	1,200	566	9,660	825	10,276	679	6,038	106	644
サマー千果	185	4,250	657	11,798	380	5,060	100	939	22	133
アイラ	7	171	235	4,039	533	6,763	1,140	9,988	288	1,736
キャロルムーン	80	3,069	477	8,270	602	7,688	621	5,882	179	1,103
T833	53	1,210	576	10,135	658	8,467	367	3,393	59	372

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,490	20,329	385	7,539	1,875	27,868	5,574	14.9	72.9	48.0
キャロルスター	1,821	26,132	141	3,640	1,962	29,771	5,954	15.2	87.8	68.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	2,237	27,818	108	1,800	2,345	29,618	5,924	12.6	93.9	67.3
サマー千果	1,344	22,180	150	4,209	1,494	26,389	5,278	17.7	84.1	63.9
アイラ	2,204	22,697	363	5,853	2,567	28,550	5,710	11.1	79.5	37.8
キャロルムーン	1,958	26,010	154	5,717	2,112	31,727	6,345	15.0	82.0	50.3
T833	1,712	23,577	167	4,719	1,879	28,296	5,659	15.1	83.3	65.7

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	1,271	9.6	7.0
キャロルスター	1,358	10.3	9.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,351	10.2	9.6
サマー千果	1,203	9.1	7.7
アイラ	1,302	9.9	7.8
キャロルムーン	1,447	11.0	9.0
T833	1,290	9.8	8.1

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　糖度調査（Brix%）

	6 月 25 日	7 月 26 日	8 月 25 日	9 月 24 日	10 月 25 日
キャロル 10	9.0	7.8	9.0	7.9	7.8
キャロルスター	8.7	8.8	10.1	7.7	8.8
サンチェリーピュア	8.0	8.5	8.5	7.0	7.1
サマー千果	9.5	8.0	8.5	7.4	8.3
アイラ	8.7	8.7	7.9	8.3	7.1
キャロルムーン	9.0	8.0	9.4	7.3	8.0
T833	8.3	7.8	8.0	7.3	8.4

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

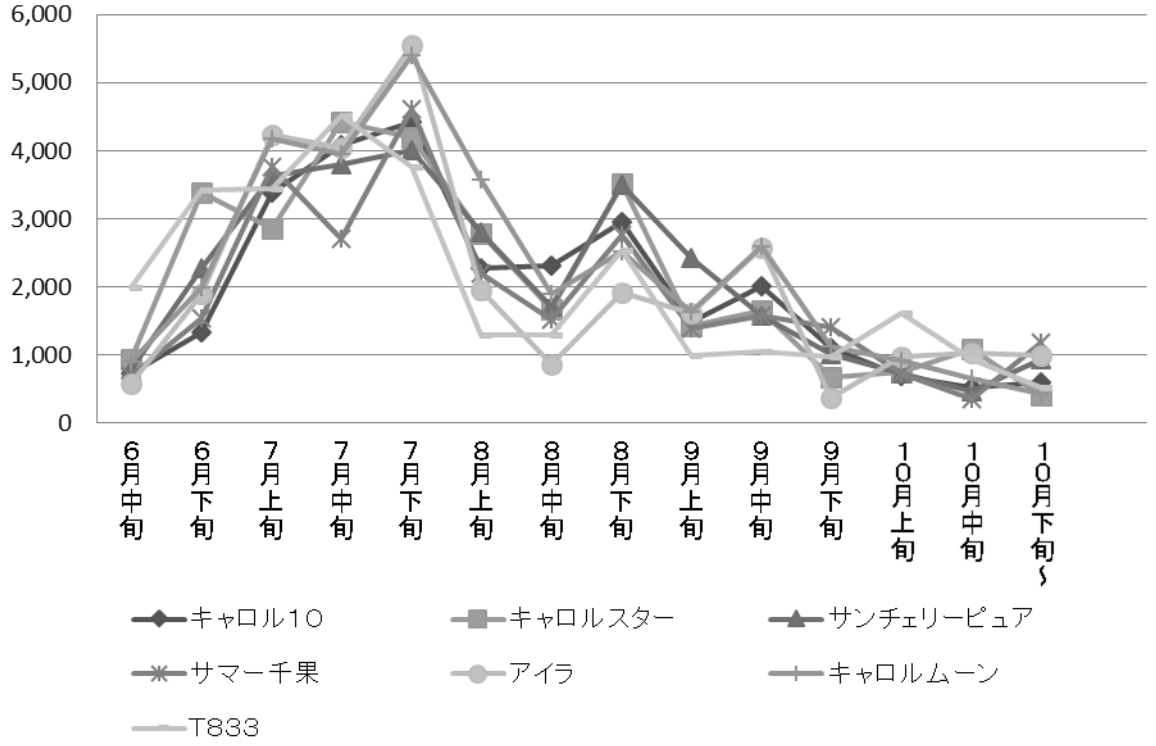


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

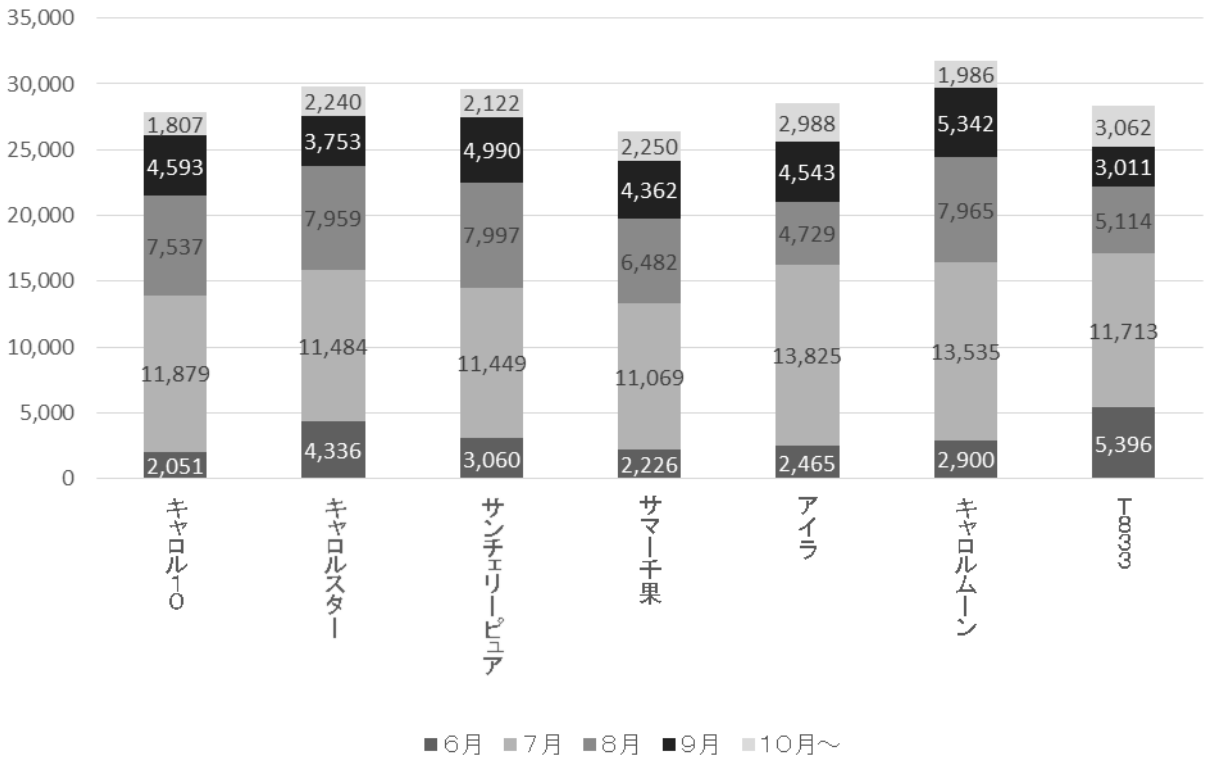


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

表 4　平成 31 年度収量調査（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	98	2,341	260	4,534	449	5,762	279	2,561	60	363
キャロルスター	86	1,946	487	8,585	546	7,141	239	2,235	43	271
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	44	964	404	7,114	589	7,483	485	4,527	76	460
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	88	2,071	493	8,549	410	5,376	137	1,321	13	82
サマー千果	176	4,145	626	11,236	362	4,819	95	894	21	127
アイラ	5	122	168	2,885	381	4,831	814	7,134	206	1,240
キャロルムーン	53	1,179	318	5,513	401	5,125	414	3,921	119	735
MKS-T833	41	923	443	7,796	506	6,513	282	2,610	45	286

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,146	15,561	487	6,205	1,633	21,766	4,353	13.3	71.5	47.3
キャロルスター	1,401	20,178	214	2,723	1,615	22,901	4,580	14.2	88.1	68.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,598	20,548	208	2,510	1,806	23,058	4,612	12.8	89.1	63.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,141	17,399	258	4,107	1,399	21,506	4,301	15.4	80.9	64.7
サマー千果	1,280	21,221	252	3,911	1,532	25,132	5,026	16.4	84.4	63.9
アイラ	1,574	16,212	463	4,181	2,037	20,393	4,079	10.0	79.5	37.8
キャロルムーン	1,305	16,473	404	4,678	1,709	21,151	4,230	12.4	77.9	50.3
MKS-T833	1,317	18,128	276	3,309	1,593	21,437	4,287	13.5	84.6	66.7

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	993	7.5	5.4
キャロルスター	1,044	7.9	7.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,051	8.0	7.1
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	981	7.4	6.0
サマー千果	1,146	8.7	7.3
アイラ	930	7.0	5.6
キャロルムーン	964	7.3	5.7
MKS-T833	978	7.4	6.3

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表５　令和２年度収量調査（５株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)
キャロル10	103	2,458	273	4,761	471	6,050	293	2,689	63	381
キャロルスター	95	2,141	536	9,444	601	7,855	263	2,459	47	298
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	47	1,031	432	7,612	630	8,007	519	4,844	81	492
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	90	2,112	503	8,720	418	5,484	140	1,347	13	84
サマー千果	194	4,560	689	12,360	398	5,301	105	983	23	140
アイラ	6	146	202	3,462	457	5,797	977	8,561	247	1,488
キャロルムーン	57	1,262	340	5,899	429	5,484	443	4,195	127	786
MKS-T833	45	1,015	487	8,576	557	7,164	310	2,871	50	315

表5つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,203	16,339	487	6,170	1,690	22,509	4,502	13.3	72.6	48.0
キャロルスター	1,541	22,196	214	2,995	1,755	25,191	5,038	14.4	88.1	68.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,710	21,986	208	651	1,918	22,637	4,527	11.8	97.1	69.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,164	17,747	258	5,772	1,422	23,519	4,704	16.5	75.5	60.4
サマー千果	1,408	23,343	252	4,302	1,660	27,645	5,529	16.7	84.4	63.9
アイラ	1,889	19,454	463	5,017	2,352	24,472	4,894	10.4	79.5	37.8
キャロルムーン	1,396	17,626	404	5,005	1,800	22,632	4,526	12.6	77.9	50.3
MKS-T833	1,449	19,941	276	4,002	1,725	23,943	4,789	13.9	83.3	65.7

表5つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	1,026	7.8	5.6
キャロルスター	1,149	8.7	7.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,032	7.8	7.6
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,072	8.1	6.1
サマー千果	1,261	9.6	8.1
アイラ	1,116	8.5	6.7
キャロルムーン	1,032	7.8	6.1
MKS-T833	1,092	8.3	6.9

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

施設野菜の部　No.8

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス2号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和3年6月1日（72穴トレイ）

3)　定植月日　令和3年6月22日
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　育苗日数　21日

5)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え

6)　定植株数　228株/棟

7)　施肥量　N-P-K=0.30-0.38-0.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6 kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、～収穫開始）：0.8 kg/a

8)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和3年6月4日～9月4日）。

9)　収穫期間　令和3年8月20日～11月29日

10)　保温　内カーテン：9月29日～収穫終了日

11)　加温　温風暖房機（8℃設定）：11月10日～収穫終了日

12)　薬剤散布　26回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。

13)　摘心　令和3年9月21日（6～7段）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6区（1区5株、1区制）

2)　供試品種
〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈5〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈6〉T833　(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
10a換算上物収量は「サマー千果」で高くなった。

(2)　本年度の結果

1)　生育
収穫開始時の生育調査では、「キャロル10」で最も草丈が高くなり、「T833」で最も低くなった。「T833」で節間が短い草姿となった。茎径は「アイラ」で最も太くなった。
病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していたと思われる。収穫終盤に葉カビ病が発生し、そのまま収穫が終了した。

2)　収量
10a 換算収量は「キャロルムーン」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、9月、10月は「キャロルムーン」、11月では「キャロルスター」であった。

3) 品質
平均 1 果重は「キャロルムーン」で最も大きくなり、「キャロル 10」で最も小さくなった。上物率で最も高かったのは「キャロルムーン」であった。10a 換算上物収量は「キャロルムーン」で最も多くなった。
糖度は、栽培期間を通して「キャロルスター」が高かった。

(3) 調査 3 箇年の結果
3 箇 3 年を通して「サマー千果」等の大玉系品種が全般的に 10a 換算収量において優れた結果となった。

(4) 次年度以降の計画
完了

表 1 生育調査（収穫開始時、5 株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (枚)	茎径 (mm)
キャロル 10	282.6	30.6	7.8	9.2	42.2
キャロルスター	229.8	28.2	7.4	8.1	37.6
サンチェリーピュア	274.0	32.8	8.4	8.4	43.0
アイラ	238.4	33.2	8.8	7.2	46.2
キャロルムーン	243.0	30.0	7.8	8.1	44.8
T833	218.0	29.8	7.0	7.3	43.8

表 2　収量調査（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	0	0	89	1,466	266	3,344	528	4,607	257	1,521
キャロルスター	62	1,400	279	4,940	251	3,245	125	1,133	20	123
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	0	0	69	1,116	366	4,596	332	3,018	92	575
アイラ	0	0	68	1,131	291	3,490	189	1,754	38	222
キャロルムーン	119	2,932	384	6,813	185	2,448	81	1,029	24	153
T833	0	0	104	1,712	336	4,298	212	1,998	42	257

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,139	10,937	47	1,180	1,186	12,116	2,423	10.2	90.3	39.7
キャロルスター	735	10,839	65	1,631	800	12,470	2,494	15.6	86.9	65.6
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	858	9,305	73	572	931	9,876	1,975	10.6	94.2	57.8
アイラ	585	6,597	68	660	653	7,256	1,451	11.1	90.9	63.7
キャロルムーン	792	13,375	52	461	844	13,836	2,767	16.4	96.7	66.9
T833	693	8,264	85	1,130	778	9,393	1,879	12.1	88.0	64.0

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	442	4.2	3.8
キャロルスター	569	4.3	3.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	450	3.4	3.2
アイラ	331	2.5	2.3
キャロルムーン	631	4.8	4.6
T833	428	3.2	2.9

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　糖度調査（Brix%）

品種名	9 月 24 日	10 月 25 日	11 月 26 日
キャロル 10	7.2	6.9	6.8
キャロルスター	9.2	7.4	6.9
サンチェリーピュア	6.3	5.9	5.9
アイラ	6.4	6.3	5.9
キャロルムーン	6.7	6.9	6.8
T833	7.4	6.7	6.5

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

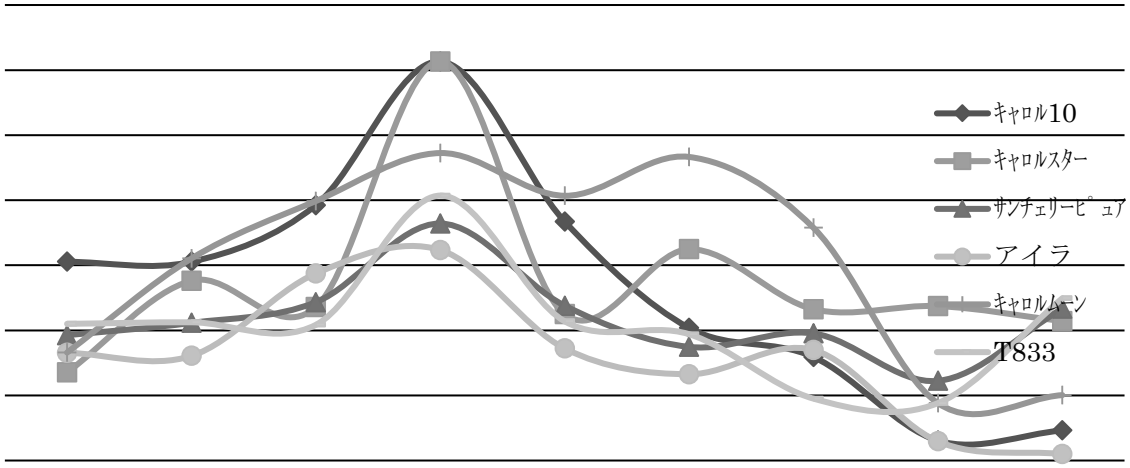


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

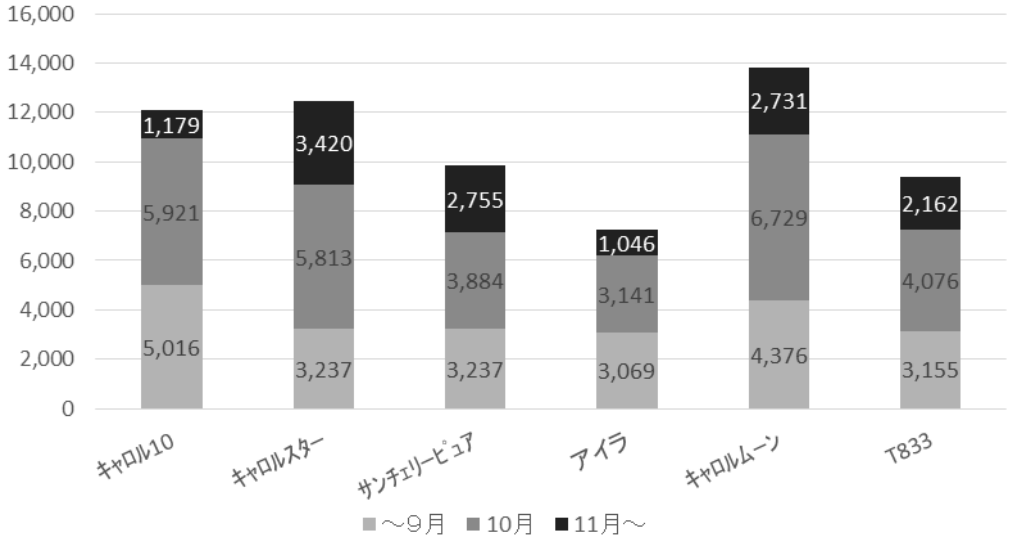


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

表 4　平成 31 年度収量調査結果（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	0	0	39	632	207	2,604	188	1,710	52	326
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	0	0	38	641	165	2,034	107	994	21	126
ｷｬﾛﾙ10	0	0	50	830	150	1,895	299	2,610	145	862
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	35	793	158	2,799	142	1,839	71	642	11	70
サマー千果	67	1,548	218	3,861	105	1,387	46	413	14	87
アイラ	0	0	59	970	190	2,435	120	1,132	24	145

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	486	5,273	47	381	533	5,654	1,131	10.6	93.3	57.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	332	3,794	81	1,087	413	4,881	976	11.8	77.7	54.8
ｷｬﾛﾙ10	645	6,197	146	789	791	6,986	1,397	8.8	88.7	39.0
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	417	6,142	60	373	477	6,515	1,303	13.7	94.3	71.2
サマー千果	449	7,296	46	641	495	7,937	1,587	16.0	91.9	66.1
アイラ	393	4,683	68	791	461	5,474	1,095	11.9	85.5	62.2

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	215	2.2	2.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	185	1.9	1.5
ｷｬﾛﾙ10	265	2.7	2.4
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	248	2.5	2.4
サマー千果	302	3.0	2.8
アイラ	208	2.1	1.8

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
　上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
　1棟換算収量=1株換算収量×190株(定植株数)。10a換算収量=10a換算収量/99㎡×1000㎡。
　10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 5　令和 2 年度収量調査結果（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	0	0	71	1,172	212	2,675	422	3,685	205	1,217
キャロルスター	49	1,120	223	3,952	200	2,596	100	906	16	98
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	0	0	55	893	293	3,477	265	2,214	73	460
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	0	0	54	905	233	2,872	151	1,403	30	178
サマー千果	95	2,185	307	5,450	148	1,958	65	583	19	122
アイラ	0	0	83	1,369	269	3,438	169	1,598	34	205
キャロルムーン	47	1,073	214	3,787	192	2,487	95	868	15	94
MKS-T833	0	0	86	1,426	280	3,581	176	1,665	35	214

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	910	8,749	38	943	948	9,692	1,938	10.2	90.3	39.7
キャロルスター	588	8,672	65	1,304	653	9,976	1,995	15.3	86.9	65.6
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	686	7,044	73	857	759	7,901	1,580	10.4	89.2	55.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	468	5,358	30	446	498	5,804	1,161	11.7	92.3	65.1
サマー千果	634	10,298	46	771	680	11,069	2,214	16.3	93.0	66.9
アイラ	555	6,610	68	904	623	7,514	1,503	12.1	88.0	64.0
キャロルムーン	563	8,309	75	1,251	638	9,560	1,912	15.0	86.9	65.6
MKS-T833	577	6,886	85	941	662	7,827	1,565	11.8	88.0	64.0

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	442	3.3	3.0
キャロルスター	455	3.4	3.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	360	2.7	2.4
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	265	2.0	1.9
サマー千果	505	3.8	3.6
アイラ	343	2.6	2.4
キャロルムーン	436	3.3	2.9
MKS-T833	357	2.7	2.4

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
　上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
　1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
　10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

2-3 調査成績（露地野菜）

露地野菜の部　№1

項目：品種比較調査

調査名：ねぎの品種比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要

1)　育　苗　方　法　　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き

2)　は種及び定植月日

	〈は　種〉	〈定　植〉
7 月収穫	：令和３年１月４日	令和３年３月 24 日
9 月収穫	：令和３年３月 29 日	令和３年５月 13 日
10 月収穫	：令和３年５月 14 日	令和３年６月 16 日

3)　栽　植　距　離　　うね幅 100 ㎝、株間５㎝（２粒播き）

4)　定　植　株　数　　40,000 本/10a

5)　施　　肥　　量　　N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×２回

6)　収　穫　月　日　　7 月収穫　：令和３年７月 26 日
9 月収穫　：令和３年９月 17 日
10 月収穫：令和３年 10 月 29 日

7)　薬　剤　散　布　　7 月収穫　：30 回（成分回数）
9 月収穫　：38 回（成分回数）
10 月収穫：34 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調　　査　　区　　22 区（１区 40 本（1.0m）　、１区制）

2)　供　試　品　種

7 月収穫	9 月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	㈱サカタのタネ
夏秋白扇５号	夏秋白扇５号	夏秋白扇５号	吉田種苗㈱
みちのく 701 はやぶさ７	みちのく 701 はやぶさ７	みちのく 701 はやぶさ７	㈱パセリー菜
	夏の宝山 秋の宝山 MKS-N40 MKS-N43	夏の宝山 秋の宝山 MKS-N40 MKS-N43	みかど協和㈱
	名月一文字	名月一文字	タキイ種苗㈱

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

10a 換算販売箱数の点から、作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。
7 月収穫・・・「夏秋白扇５号」
9 月収穫・・・「名月一文字」
10 月収穫　・・・「みちのく 701」

(2)　本年度の結果

1)　生育

（7 月収穫：3/24 定植～7/26 収獲）

６月中旬から７月上旬にかけて日照不足の影響により生育が停滞気味であったが、その後は回復傾向となった。

病害はべと病及びさび病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

（9 月収穫：5/13 定植～9/17 収獲）
6 月中旬から 7 月上旬、8 月は日照不足となったものの気温が高めで推移し、生育は順調であった。
病害は葉枯病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

（10 月収穫：6/16 定植～10/29 収獲）
6 月中旬から 7 月上旬、8 月は日照不足となったものの気温が高めで推移し、生育は順調であったが、8 月に降雨が続き培土が遅れ気味となった。
病害は葉枯病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

2) 収量
（7 月収穫：3/24 定植～7/26 収獲）
調整重及び 10a 換算販売箱数は「はやぶさ 7」、「夏秋白扇 5 号」の順に多い結果となった。

（9 月収穫：5/13 定植～9/17 収獲）
調整重は「夏秋白扇 5 号」、「MKS-N43」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「MKS-N43」、「夏扇パワー」の順に多い結果となった。

（10 月収穫：6/16 定植～10/29 収獲）
調整重及び 10a 換算販売箱数は「夏扇パワー」、「はやぶさ 7」の順に多い結果となった。

3) 品質
（7 月収穫：3/24 定植～7/26 収獲）
Ａ品率は「みちのく 701」、「夏秋白扇 5 号」の順に高く、主な落等要因は裂皮であった。

（9 月収穫：5/13 定植～9/17 収獲）
Ａ品率は「はやぶさ 7」、「名月一文字」が最も高く、主な落等要因は裂皮や曲がりであった。

（10 月収穫：6/16 定植～10/29 収獲）
Ａ品率は「MKS-N40」、「秋の宝山」の順に高く、主な落等要因は裂皮や曲がりであった。

「はやぶさ 7」、「秋の宝山」、「MKS-N40」、「MKS-N43」、「名月一文字」は、葉水の量が少なく、また、襟部の締まりが比較的良い傾向が見られた。
なお、生育終盤で外側の葉が比較的折れやすい傾向が「MKS-N40」では 10 月収穫、「MKS-N43」では 9 月、10 月収穫で見られた。折れた葉はいずれも調整時に剥くものであったが、収穫が遅い作型でその傾向が強いことから、作型の検討が必要と思われた。

以上より、今年度の調査で、10a 換算販売箱数の点から作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。
7 月収穫 ・・・「はやぶさ 7」
9 月収穫 ・・・「MKS-N43」
10 月収穫 ・・・「夏扇パワー」

(3) 次年度以降の計画
継続

表１　収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量 (kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/26	夏扇パワー	100.2	131.7	44.2	31.2	19.0	87.1	75.3	4,872	31	922	37
	夏秋白扇5号	102.4	144.2	46.3	33.7	20.0	87.1	89.5	5,334	0	1,016	37
	みちのく701	100.2	137.4	44.6	32.6	18.8	84.0	91.7	4,945	92	924	36
	はやぶさ7	93.9	159.2	41.2	30.3	20.7	90.3	87.8	6,050	0	1,152	38
9/17	夏扇パワー	102.1	138.1	46.4	35.3	20.3	86.9	90.0	5,384	0	1,026	39
	夏秋白扇5号	97.7	142.8	42.6	31.2	20.1	90.2	87.3	5,140	17	976	36
	みちのく701	100.8	132.0	45.1	33.8	19.6	93.0	87.1	5,148	0	981	39
	はやぶさ7	88.8	132.9	40.7	32.5	20.5	95.5	94.2	4,916	169	904	37
	夏の宝山	89.0	122.6	40.0	32.3	20.2	92.3	90.9	4,660	0	888	38
	秋の宝山	89.7	122.6	38.4	31.6	20.7	86.4	83.0	4,537	0	864	37
	MKS-N40	95.1	118.2	40.4	31.7	19.9	93.3	91.4	4,373	0	833	37
	MKS-N43	101.0	139.8	43.5	33.7	21.1	96.7	90.9	5,454	0	1,039	39
	名月一文字	87.0	122.0	39.6	32.3	20.3	95.0	94.2	4,392	44	828	36
10/29	夏扇パワー	101.7	189.9	43.6	34.7	21.8	74.6	85.2	6,076	93	1,140	32
	夏秋白扇5号	101.5	163.7	42.8	36.2	20.6	89.2	68.1	5,075	57	956	31
	みちのく701	100.5	159.6	45.0	37.6	20.6	86.7	74.3	5,746	62	1,083	36
	はやぶさ7	92.9	183.0	39.0	34.8	24.3	98.2	84.3	5,673	0	1,081	31
	夏の宝山	88.3	131.9	41.0	35.4	21.4	91.0	70.8	4,880	0	930	37
	秋の宝山	95.0	162.5	40.5	36.6	23.5	93.5	87.8	5,201	144	963	32
	MKS-N40	103.3	158.8	44.4	36.6	23.3	98.4	92.9	5,242	0	998	33
	MKS-N43	103.9	158.1	44.0	37.4	22.4	95.4	74.9	5,693	0	1,084	36
	名月一文字	89.0	159.9	39.6	34.6	22.7	95.0	82.2	5,436	125	1,012	34

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

表 2　等級規格別収量割合

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/26	夏扇パワー	10.0	53.0	10.0	2.3	3.6	20.5	0.0	0.6
	夏秋白扇5号	12.2	66.3	10.9	0.0	3.1	5.5	2.0	0.0
	みちのく701	7.8	69.7	14.2	0.0	0.0	6.5	0.0	1.8
	はやぶさ7	36.2	45.3	6.3	0.0	2.7	6.1	3.4	0.0
9/17	夏扇パワー	28.6	53.8	7.5	0.0	0.0	4.5	5.6	0.0
	夏秋白扇5号	33.7	48.3	4.4	1.0	0.0	8.2	4.2	0.2
	みちのく701	3.1	78.8	5.2	0.0	3.6	7.5	1.8	0.0
	はやぶさ7	31.1	62.0	1.1	0.0	0.0	2.4	0.0	3.4
	夏の宝山	22.5	62.5	5.9	0.0	3.0	4.3	1.8	0.0
	秋の宝山	28.8	42.0	10.9	1.3	12.6	3.0	1.4	0.0
	MKS-N40	20.2	64.5	6.7	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0
	MKS-N43	30.0	57.6	3.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	名月一文字	25.5	66.4	2.3	0.0	0.0	3.1	1.7	1.0
10/29	夏扇パワー	73.6	7.7	3.9	0.0	10.2	3.1	0.0	1.5
	夏秋白扇5号	54.7	9.5	1.9	2.0	11.4	13.6	5.8	1.1
	みちのく701	51.2	19.0	4.1	0.0	6.1	10.5	8.0	1.1
	はやぶさ7	75.1	7.3	1.8	0.0	13.4	2.4	0.0	0.0
	夏の宝山	45.0	22.5	3.3	0.0	9.7	13.8	5.7	0.0
	秋の宝山	75.9	11.8	0.0	0.0	3.2	2.6	3.7	2.8
	MKS-N40	72.5	20.4	0.0	0.0	5.5	0.0	1.6	0.0
	MKS-N43	56.3	15.7	2.9	0.0	17.2	6.2	1.7	0.0
	名月一文字	69.6	12.6	0.0	0.0	6.0	6.8	2.7	2.3

※重量ベースで積算。割合の計が 100 とならないのは四捨五入のため。

表 3 等級規格別 10a 換算出荷数量

収穫日	品種名	A				B			10a換算販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/26	夏扇パワー	93	492	93	21	33	190	0	922
	夏秋白扇5号	124	674	111	0	32	55	20	1,016
	みちのく701	73	657	133	0	0	61	0	924
	はやぶさ7	417	522	72	0	31	70	40	1,152
9/17	夏扇パワー	294	552	77	0	0	46	57	1,026
	夏秋白扇5号	330	473	43	9	0	80	41	976
	みちのく701	31	772	51	0	36	73	18	981
	はやぶさ7	291	581	10	0	0	22	0	904
	夏の宝山	200	555	52	0	26	39	16	888
	秋の宝山	249	363	94	11	109	26	12	864
	MKS-N40	168	537	56	0	0	72	0	833
	MKS-N43	312	598	34	0	0	95	0	1,039
	名月一文字	214	555	19	0	0	26	14	828
10/29	夏扇パワー	851	89	46	0	118	36	0	1,140
	夏秋白扇5号	529	92	18	20	110	131	56	956
	みちのく701	560	208	45	1	67	115	88	1,083
	はやぶさ7	811	79	20	0	145	26	0	1,081
	夏の宝山	418	210	31	0	90	128	53	930
	秋の宝山	752	11	15	0	31	26	37	963
	MKS-N40	724	204	0	10	54	0	16	998
	MKS-N43	610	170	32	0	187	67	18	1,084
	名月一文字	720	131	0	0	62	71	28	1,012

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

露地野菜の部　№2

項目：品種比較調査

調査名：ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査（継続：令和２年度～令和３年度）

１目的　定植前の苗にリン酸カリ溶液（リン酸濃度 1.15%）を施用することで、本圃へのリン酸施用量を削減できる技術について、当地域における適応品種を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　育苗方法　チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　〈定　植〉
令和３年１月４日　令和３年３月 24 日

3)　栽植距離　うね幅 100 ㎝、株間 5 ㎝（2 粒播き）

4)　定植株数　40,000 本/10a

5)　施肥量　N-P-K＝18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×2 回
※基肥及び追肥は全調査区共通。

6)　使用資材

調査区	リン酸カリ溶液	パワーリン (P:30%)	過リン酸石灰 (17%粉)
慣行区	－	120kg/10a	2 回
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0 回
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0 回

※リン酸カリ溶液はリン酸濃度 1.15%に調整し、浸漬区は定植当日に溶液への浸漬、潅注区は定植 1 週間前及び定植当日にトレイ毎に 1L の潅注を実施。
パワーリンは植付前に全面施用。
過リン酸石灰は植付時及び 1 回目追肥時に植え溝施用。

7)　収穫月日　令和 3 年 7 月 12 日、7 月 26 日

8)　薬剤散布　30 回(成分回数)

(3)　調査区の構成

1)　調査区　9 区（1 区 40 本（1.0m）、1 区制）

2)　供試品種　<1>夏扇パワー　(㈱サカタのタネ)
<2>夏秋白扇 5 号　（吉田種苗㈱）
<3>みちのく 701　(㈱パセリー菜)

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

品種比較では 10a 換算販売箱数から「夏秋白扇 5 号」、「みちのく 701」が優れていた。

リン酸カリ溶液施用の効果については、7 月下旬収穫の 10a 換算販売箱数においてリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回り、リン酸の本圃への減肥効果があることが示唆された。

リン酸カリ溶液の施用方法の違いについては、潅注区が浸漬区を上回った。

(2)　本年度の結果

1)　生育

6 月中旬から 7 月上旬にかけて日照不足の影響により生育が停滞気味であったが、その後は回復傾向となった。

病害はべと病及びさび病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

茎径では、リン酸カリ溶液施用区が慣行区に比べ同等もしくは上回る傾向が見られた。

草丈では、「みちのく 701」においてリン酸カリ溶液施用区と慣行区の差は判然としなかったが、「夏扇パワー」、「夏秋白扇 5 号」においてはリン酸カリ溶液施用区が

上回る傾向が見られた。
葉数では、慣行区とリン酸カリ溶液施用区との差は判然としなかった。

2) 収量
品種比較では、10a 換算販売箱数において慣行区では 7/12、7/26 収穫ともに「夏秋白扇 5 号」、リン酸カリ溶液施用区では 7/12 収穫では「夏扇パワー」潅注区、7/26 収穫では「みちのく 701」潅注区が上回った。
リン酸の施用方法の比較では、調整重においてリン酸カリ溶液施用区が慣行区を同等もしくは上回る傾向を示し、浸漬区及び潅注区との比較では、7/12 収穫での差の判然としなかったが、7/26 収穫で潅注区が上回る傾向が見られた。
また、10a 換算販売箱数においていずれの品種もリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回り、また、浸漬区と潅注区との比較では、7/12 収穫での差は判然としなかったが、7/26 収穫では潅注区が浸漬区を上回った。

3) 品質
A 品率は、7/12 収穫及び 7/26 収穫のいずれにおいても、慣行区とリン酸カリ溶液施用区、また、浸漬区と潅注区との間で明確な差が見られなかった。

以上より、今年度の調査では、品種比較において 10a 換算販売箱数から慣行区では「夏秋白扇 5 号」、リン酸カリ溶液施用区では 7/12 収穫で「夏扇パワー」、7/26 収穫で「みちのく 701」が優れていた。
リン酸カリ溶液施用の効果については、10a 換算販売箱数においてリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回り、本圃へのリン酸の減肥効果があることが示唆された。
リン酸カリ溶液施用方法の違いについては、7/12 収穫では判然としなかったが、7/26 収穫では潅注区が浸漬区を上回った。

(3) 調査 2 箇年の結果
品種間における収量の比較では、年次や収穫時期により収量の多い品種が異なったために適応品種は絞れなかったものの、供試したいずれの品種でもリン酸カリ溶液施用区が慣行区と同等もしくは上回る傾向を示した。
リン酸の施用方法について、7 月上旬収穫では調整重及び 10a 換算販売箱数の点でリン酸カリ溶液施用区が慣行区と同等もしくは上回る傾向を示し、7 月下旬収穫では上回る傾向を示した。このことから、苗への定植前リン酸カリ溶液施用は、本圃へのリン酸施用量の削減及び省力化の技術として有効であると考えられた。
また、リン酸カリ溶液の施用方法の違いについては、7 月上旬収穫では年次によりばらつきがあったものの、7 月下旬収穫で潅注区が浸漬区を上回る傾向を示した。作業は潅注の方がより簡便であることから、リン酸減肥技術として有望であると思われた。

(4) 次年度以降の計画
完了

表１　生育調査

夏扇パワー

調査区名	使用資材			5月6日			6月1日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	44.2	6.9	3.2	61.4	11.5	3.2
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	45.2	7.6	3.5	66.1	16.4	3.4
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	48.1	8.4	3.6	69.8	15.9	3.5

夏秋白扇5号

調査区名	使用資材			5月6日			6月1日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	42.7	6.8	3.4	60.6	11.0	3.5
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	43.5	6.8	3.4	66.0	12.5	3.7
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	45.1	7.6	3.5	66.8	13.3	3.6

みちのく701

調査区名	使用資材			5月6日			6月1日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	43.3	7.1	3.4	66.8	12.0	3.6
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	43.9	7.3	3.4	64.1	12.0	3.5
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	44.7	7.4	3.5	65.6	12.5	3.6

表２　収量調査

収穫日	調査区名		全長(cm)	調整重(g)	分枝点長(cm)	軟白長(cm)	軟白径(mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量(kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/12	夏扇パワー	慣行区	94.3	127.5	40.8	31.3	18.0	62.6	84.4	4,463	120	827	35
		浸漬区	94.3	122.1	41.3	33.4	17.2	50.4	82.8	4,638	203	845	38
		潅注区	99.3	161.6	43.4	31.1	19.6	86.9	96.2	5,819	68	1,095	36
	夏秋白扇5号	慣行区	96.1	134.1	42.3	34.2	18.7	74.3	83.6	4,828	85	903	36
		浸漬区	99.7	154.0	42.0	31.7	19.3	83.5	86.4	5,698	70	1,072	37
		潅注区	96.7	146.7	40.9	31.1	19.0	74.5	91.3	5,282	0	1,006	36
	みちのく701	慣行区	95.5	130.1	40.8	31.7	18.6	75.4	76.6	4,683	44	884	36
		浸漬区	97.5	143.7	41.6	30.5	18.8	73.4	85.5	5,460	0	1,040	38
		潅注区	98.1	145.2	41.9	40.3	19.0	78.0	79.4	4,941	69	1,038	38
7/26	夏扇パワー	慣行区	100.2	131.7	44.2	31.2	19.0	87.1	75.3	4,872	31	922	37
		浸漬区	99.4	139.5	48.2	35.4	19.4	86.2	91.5	5,022	0	957	36
		潅注区	103.5	149.6	47.8	34.3	20.1	92.0	89.9	5,685	18	1,079	38
	夏秋白扇5号	慣行区	102.4	144.2	46.3	33.7	20.0	87.1	89.5	5,334	0	1,016	37
		浸漬区	100.4	145.3	44.0	32.0	19.1	76.2	94.7	5,520	0	1,051	38
		潅注区	103.4	155.8	46.0	31.8	19.6	88.2	90.5	5,921	29	1,122	38
	みちのく701	慣行区	100.2	137.4	44.6	32.6	18.8	84.0	91.7	4,945	92	924	36
		浸漬区	105.1	142.7	47.3	32.0	19.3	78.7	79.1	5,566	0	1,060	39
		潅注区	101.8	153.1	46.4	32.6	19.1	79.8	94.6	5,971	0	1,137	39

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　等級規格別割合

収穫日	調査区名		A				B			外品
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/12	夏扇	慣行区	3.2	48.9	32.3	0.0	4.4	6.1	2.4	2.7
	パワー	浸漬区	3.8	40.3	37.4	1.3	0.0	6.3	6.5	4.4
		潅注区	28.6	55.7	11.9	0.0	0.0	2.6	0.0	1.2
	夏秋	慣行区	16.7	52.0	13.3	1.6	0.0	5.6	9.1	1.7
	白扇	浸漬区	7.9	65.7	12.7	0.0	0.0	9.9	2.5	1.3
	5号	潅注区	11.9	60.0	19.4	0.0	0.0	2.6	6.1	0.0
	みち	慣行区	12.5	42.2	21.9	0.0	4.5	16.2	1.8	0.9
	のく	浸漬区	3.3	61.0	20.0	1.2	0.0	9.1	5.4	0.0
	701	潅注区	15.0	45.8	18.6	0.0	0.0	17.2	2.1	1.3
7/26	夏扇	慣行区	10.0	53.0	10.0	2.3	3.6	20.5	0.0	0.6
	パワー	浸漬区	14.1	63.6	12.7	1.1	0.0	8.5	0.0	0.0
		潅注区	19.4	64.6	5.9	0.0	2.7	5.3	1.8	0.3
	夏秋	慣行区	12.2	66.3	10.9	0.0	3.1	5.5	2.0	0.0
	白扇	浸漬区	14.6	61.6	18.5	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0
	5号	潅注区	26.1	56.9	6.1	1.5	0.0	5.2	3.7	0.5
	みち	慣行区	7.8	69.7	14.2	0	0.0	6.5	0.0	1.8
	のく	浸漬区	11.7	50.2	17.1	0.0	2.8	14.0	4.2	0.0
	701	潅注区	9.6	70.2	14.8	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0

※重量ベースで積算。割合の計が 100 とならないのは四捨五入のため。

表 4　10a 換算出荷箱数

収穫日	調査区名		A				B			10a換算販売箱数
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/12	夏扇	慣行区	28	415	275	0	38	51	20	827
	パワー	浸漬区	34	356	330	12	0	56	57	845
		潅注区	317	617	132	0	0	29	0	1,095
	夏秋	慣行区	153	478	123	15	0	51	83	903
	白扇	浸漬区	86	714	138	0	0	107	27	1,072
	5号	潅注区	120	604	194	0	0	26	62	1,006
	みち	慣行区	112	376	196	0	40	144	16	884
	のく	浸漬区	34	634	208	13	0	95	56	1,040
	701	潅注区	158	482	195	0	0	181	22	1,038
7/26	夏扇	慣行区	93	492	93	21	33	190	0	922
	パワー	浸漬区	135	608	121	11	0	82	0	957
		潅注区	210	699	64	0	29	57	20	1,079
	夏秋	慣行区	124	674	111	0	32	55	20	1,016
	白扇	浸漬区	154	647	194	0	0	0	56	1,051
	5号	潅注区	294	642	69	16	0	59	42	1,122
	みち	慣行区	73	657	133	0	0	61	0	924
	のく	浸漬区	124	533	181	0	30	148	44	1,060
	701	潅注区	109	799	168	0	0	0	61	1,137

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

表 5　令和 2 年度の結果

○　生育調査

夏扇パワー

調査区名	使用資材			5月1日			6月1日			7月2日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	30.4	5.6	2.8	48.1	10.2	4.0	86.5	17.7	4.6
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	30.0	5.6	2.8	55.4	10.8	3.9	87.3	18.0	4.6
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	31.6	5.8	2.8	57.3	11.7	4.2	88.9	18.0	4.8

夏秋白扇5号

調査区名	使用資材			5月1日			6月1日			7月2日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	28.1	5.0	2.6	47.6	9.5	3.7	82.4	16.7	4.5
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	29.7	5.6	2.7	53.1	11.5	4.1	87.5	17.6	4.6
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	31.0	5.4	2.5	55.2	11.7	4.3	87.8	18.1	4.8

みちのく701

調査区名	使用資材			5月1日			6月1日			7月2日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	28.8	5.0	2.6	44.4	9.1	3.7	84.3	18.3	4.3
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	31.1	6.0	2.9	51.3	11.0	4.1	86.3	18.5	4.7
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	32.3	5.9	3.5	57.0	11.4	4.2	87.7	18.5	4.6

○　収量調査

収穫日	調査区名		全長(cm)	調整重(g)	分枝点長(cm)	軟白長(cm)	軟白径(mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/10	夏扇パワー	慣行区	89.5	120.6	32.9	26.5	18.5	76.6	61.0	3,376	109	622	28
		浸漬区	88.7	124.3	32.1	25.2	18.8	84.5	78.7	4,724	147	872	38
		潅注区	87.7	140.4	32.2	25.2	18.8	82.8	84.0	4,773	114	887	34
	夏秋白扇5号	慣行区	88.3	117.4	32.3	25.5	17.6	58,2	66.7	4,109	178	749	35
		浸漬区	88.5	123.6	32.6	26.0	18.5	81.2	81.5	4,203	324	739	34
		潅注区	88.7	130.0	32.1	25.2	19.0	85.7	73.2	4,291	65	805	33
	みちのく701	慣行区	84.8	113.0	30.3	25.4	20.1	89.4	58.4	3,728	44	702	33
		浸漬区	86.9	138.2	31.0	25.2	20.1	89.8	76.7	4,421	78	827	32
		潅注区	89.2	141.2	32.8	25.5	18.3	71.5	64.6	4,941	0	941	35
7/22	夏扇パワー	慣行区	100.4	159.1	41.2	27.9	19.6	90.9	82.9	5,569	0	1,061	35
		浸漬区	100.0	172.6	42.5	27.5	20.5	93.1	78.1	5,870	0	1,118	34
		潅注区	99.2	173.6	40.6	27.9	20.9	98.0	89.3	6,075	0	1,157	35
	夏秋白扇5号	慣行区	99.3	158.9	40.2	27.3	19.6	85.9	59.0	5,720	0	1,090	36
		浸漬区	97.8	176.5	39.3	27.0	20.5	70.1	62.6	6,000	229	1,099	34
		潅注区	100.5	173.6	41.0	28.3	20.8	95.7	82.0	6,249	0	1,190	36
	みちのく701	慣行区	97.8	154.1	40.4	28.8	19.1	87.4	81.7	5,238	90	981	34
		浸漬区	95.0	171.3	40.5	26.9	20.6	100.0	78.5	5,652	0	1,077	33
		潅注区	99.6	180.0	41.8	27.9	20.8	97.3	82.7	6,299	53	1,190	35

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

○　等級規格別割合

収穫日	調査区名		A				B			外品
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/10	夏扇	慣行区	35.0	16.8	9.2	0.0	0.0	24.8	11.0	3.2
	パワー	浸漬区	14.4	57.7	6.7	0.0	0.0	12.4	5.7	3.1
		潅注区	33.6	43.3	6.1	1.0	0.0	5.9	7.7	2.4
	夏秋	慣行区	8.4	36.1	20.7	1.5	3.7	10.0	15.3	4.3
	白扇	浸漬区	27.0	46.8	7.7	0.0	7.4	0.0	3.4	7.7
	5号	潅注区	7.6	58.6	4.5	2.5	3.1	16.4	5.8	1.5
	みち	慣行区	31.9	22.9	3.6	0.0	7.6	27.0	5.8	1.2
	のく	浸漬区	34.3	37.9	4.5	0.0	8.4	9.2	3.9	1.8
	701	潅注区	0.0	49.7	12.0	2.9	3.8	18.0	13.6	0.0
7/22	夏扇	慣行区	2.6	75.3	5.0	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0
	パワー	浸漬区	18.8	59.3	0.0	0.0	3.7	11.3	6.9	0.0
		潅注区	19.0	68.3	2.0	0.0	5.7	5.0	0.0	0.0
	夏秋	慣行区	7.0	45.1	6.9	0.0	3.6	30.2	7.2	0.0
	白扇	浸漬区	21.1	56.3	4.1	0.0	2.5	9.2	3.0	3.8
	5号	潅注区	28.1	49.6	4.3	0.0	3.3	14.7	0.0	0.0
	みち	慣行区	39.1	37.0	4.1	1.5	0.0	11.3	5.3	1.7
	のく	浸漬区	13.3	65.2	0.0	0.0	6.9	14.6	0.0	0.0
	701	潅注区	22.2	60.5	0.0	0.0	3.8	10.8	1.9	0.8

※重量ベースで積算。割合の計が 100 とならないのは四捨五入のため。

○　10a 換算出荷箱数

収穫日	調査区名		A				B			10a換算販売箱数
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/10	夏扇	慣行区	225	108	59	0	0	160	70	622
	パワー	浸漬区	130	519	60	0	0	112	51	872
		潅注区	305	393	56	9	0	54	70	887
	夏秋	慣行区	66	282	162	12	29	78	120	749
	白扇	浸漬区	216	375	62	0	59	0	27	739
	5号	潅注区	62	479	37	20	26	134	47	805
	みち	慣行区	226	163	26	0	54	192	41	702
	のく	浸漬区	289	319	38	0	71	77	33	827
	701	潅注区	0	468	113	27	35	170	128	941
7/22	夏扇	慣行区	27	799	53	0	0	137	45	1,061
	パワー	浸漬区	209	663	0	0	42	127	77	1,118
		潅注区	220	790	23	0	66	58	0	1,157
	夏秋	慣行区	76	492	75	0	39	329	79	1,090
	白扇	浸漬区	241	643	47	0	29	105	34	1,099
	5号	潅注区	335	590	51	0	40	174	0	1,190
	みち	慣行区	390	369	41	15	0	113	53	981
	のく	浸漬区	143	702	0	0	74	158	0	1,077
	701	潅注区	266	726	0	0	46	129	23	1,190

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

項目：品種比較調査
調査名：ピーマンの品種比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日

	〈は　種〉	〈定　植〉
	①4月定植：令和3年2月12日	令和3年4月20日 （定植直後アイホッカ1枚トンネル被覆）
	②5月定植：令和3年3月11日	令和3年5月12日 （定植直後パスライト1枚トンネル被覆）

3)　育苗ポット　15㎝ポット

4)　育苗日数　①67日　②62日

5)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

6)　定植株数　1,300株/10a

7)　施肥量　①N－P－K＝48.0-34.5-43.0 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×5回
令和3年6月21日、7月12日、8月1日、8月20日、9月10日
②N－P－K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×4回
令和3年7月12日、8月1日、8月20日、9月10日

8)　使用資材　暖あったかマルチ、15㎝×5目フラワーネット(3段)

9)　収穫期間　①令和3年6月15日～10月29日
②令和3年6月18日～10月29日

10)　薬剤散布　31回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6区（1区5株、1区制）

2)　供試品種
<1>ピクシー　（横浜植木㈱）
<2>P-2020　（㈱パセリー菜）
<3>P-2021　（㈱パセリー菜）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
10a換算収量及び10a換算A品収量の点から4月定植、5月定植ともに「P-2020」で優れた結果となった。

(2)　本年度の結果

1)　生育
定植時以降は日照が少なかったものの高温傾向で推移したことから、生育前半は順調となり、収穫開始は4月定植で6月15日、5月定植で6月18日となった。その後、低温少照となった8月中旬及び9月以降で収量が低下した。「P-2021」は他の品種に比べ節間及び草丈が短くなる傾向が見られた。
病害虫は、9月以降に斑点細菌病の被害が散見された。

2)　収量
可販10a換算収量は、4月定植で「ピクシー」、5月定植で「P-2020」が最も多かった。
可販月別収量は、4月定植では「ピクシー」「P-2021」で7月、「P-2020」で9月が最

も多く、5月定植では「ピクシー」「P‐2020」で9月、「P-2021」で8月が最も多かった。可販旬別収量は、4月定植では「P-2020」「P-2021」で7月中旬、8月上旬、9月中旬にピークがみられたが、「ピクシー」のピークはそれよりもやや遅れる傾向が見られた。また、5月定植ではピークの現れ方に大きな差は見られなかった。

3) 品質

可販A品率は、両作型とも「ピクシー」が高かった。可販10a換算A品収量は、4月定植で「ピクシー」、5月定植で「P-2020」が最も多かった。

B品における主な落等要因は「ピクシー」「P-2020」で曲がり果、「P－2021」でヘタ付近の突起が最も多かった。また、外品における主な落等要因は4月定植の「ピクシー」「P-2020」及び5月定植の「P-2020」でシワ果、4月定植の「P-2021」及び5月定植の「ピクシー」「P-2021」ヘタ付近の突起が最も多かった。

ヘタ付近の突起は花芽形成時の異常によると考えられるが、発生は収穫初期に多いことから、育苗中の肥培管理に注意を要すると考えられた。また、シワ果は「ピクシー」では収穫前半、「P-2020」では生育後半で多く発生した。

以上より、今年度の調査では可販10a換算収量及び可販10a換算A品収量の点から4月定植で「ピクシー」、5月定植で「P-2020」で優れた結果となった。

(3) 次年度以降の計画

継続

表1 収量調査

作型	品種名	A品 収量(g)	A品 果数(個)	B品 収量(g)	B品 果数(個)	外品 収量(g)	外品 果数(個)	総数 収量(g)	総数 果数(個)	総数 A品率(%)	総数 平均1果重(g)	総数 10a換算収量(t)
4月定植	ピクシー	10,545	282	1,502	42	513	14	12,560	338	84.0	37.2	16.3
	P-2020	8,365	223	1,624	43	1,166	32	11,155	298	75.0	37.4	14.5
	P-2021	7,187	195	1,475	39	680	24	9,342	258	76.9	36.2	12.1
5月定植	ピクシー	8,893	230	1,025	27	375	23	10,293	280	86.4	36.8	13.4
	P-2020	8,991	239	1,353	34	906	24	11,250	297	79.9	37.9	14.6
	P-2021	7,679	207	1,510	40	279	11	9,468	258	81.1	36.7	12.3

続き

作型	品種名	可販(A品＋B品) 収量(g)	果数(個)	A品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算A品収量(t)
4月定植	ピクシー	12,047	324	87.5	37.2	15.7	13.7
	P-2020	9,989	266	83.7	37.6	13.0	10.9
	P-2021	8,662	234	83.0	37.0	11.3	9.3
5月定植	ピクシー	9,918	257	89.7	38.6	12.9	11.6
	P-2020	10,344	273	86.9	37.9	13.4	11.7
	P-2021	9,189	247	83.6	37.2	11.9	10.0

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。10a換算収量=総収量×1300株/10a。

10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。　※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 2　障害発生率（個数%）

作型	品種名	B品(個数%)					外品(個数%)						
		突起	先尖	曲	外傷	大	突起	先尖	曲	外傷	シワ	他	小
4月定植	ピクシー	15.6	26.5	33.6	22.7	1.4	7.2	0	1.4	11.6	63.8	5.8	10.1
	P-2020	9.8	25.2	47.7	13.1	4.2	2.5	1.3	1.9	9.4	70.4	8.2	6.3
	P-2021	47.4	5.7	27.3	14.9	4.6	69.2	0	2.5	16.1	12.7	5.1	3.4
5月定植	ピクシー	26.7	17.0	24.4	26.7	5.2	57.0	0	9.0	11.4	21.9	3.5	5.3
	P-2020	12.4	22.9	28.8	27.1	8.8	0	0.8	0.8	10.9	75.6	3.4	8.4
	P-2021	46.5	7.9	27.2	15.8	2.5	31.5	0	3.7	20.4	24.1	9.3	11.1

※100%とならないのは四捨五入のため。

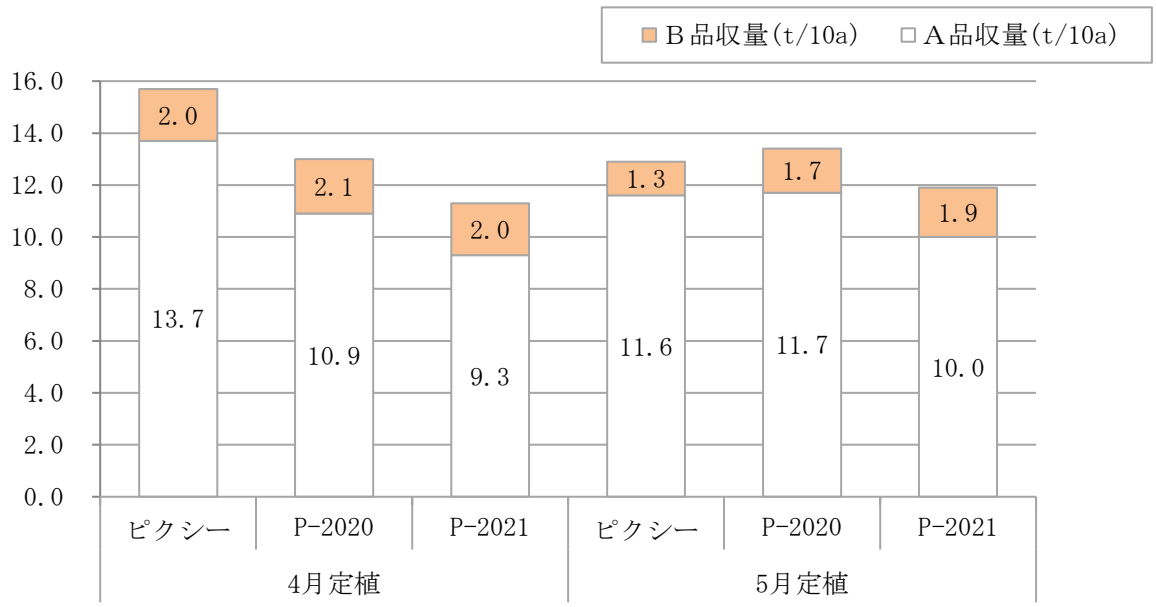


図 1　可販 10a 換算収量（t/10a）

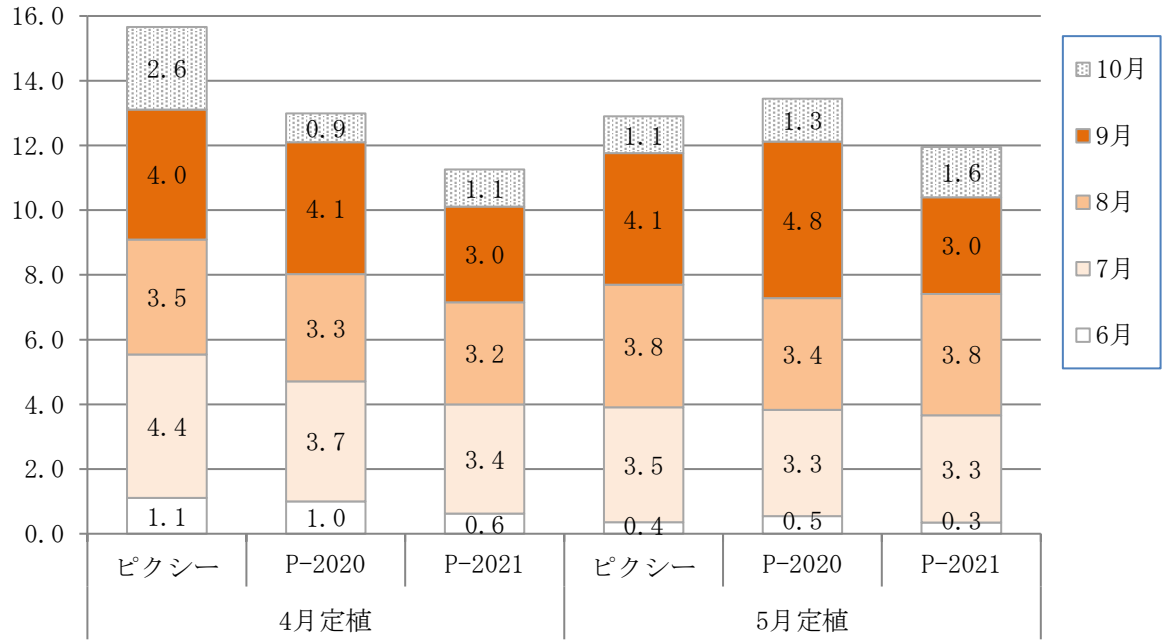
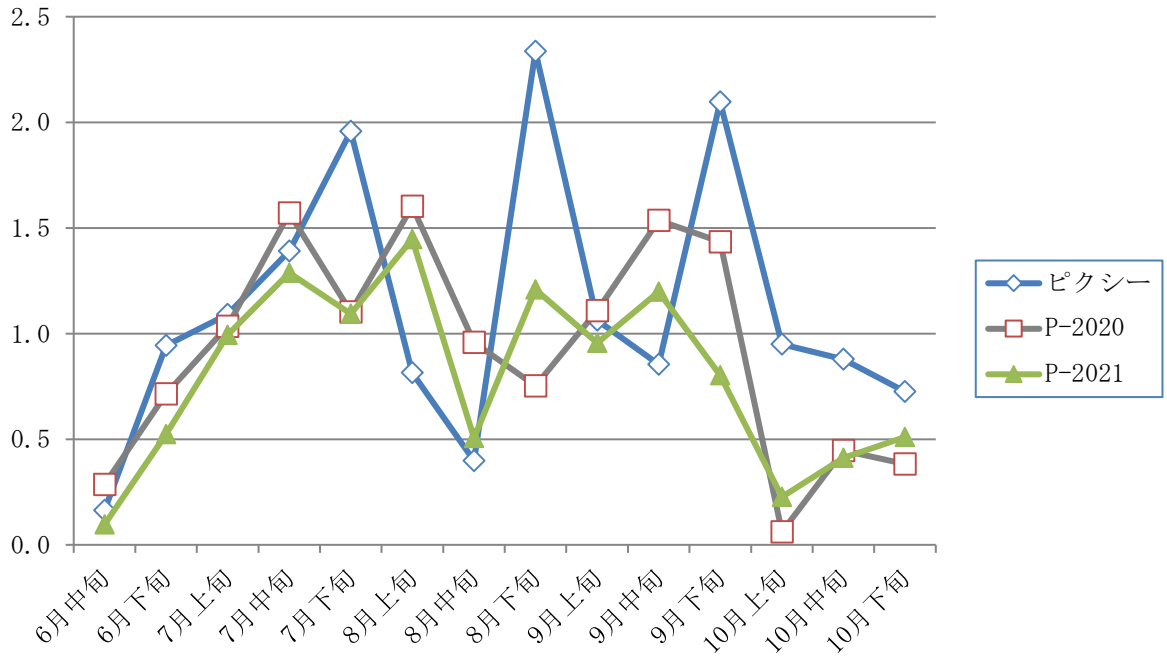


図 2　可販月別収量（t/10a）（左：4 月定植、右：5 月定植）



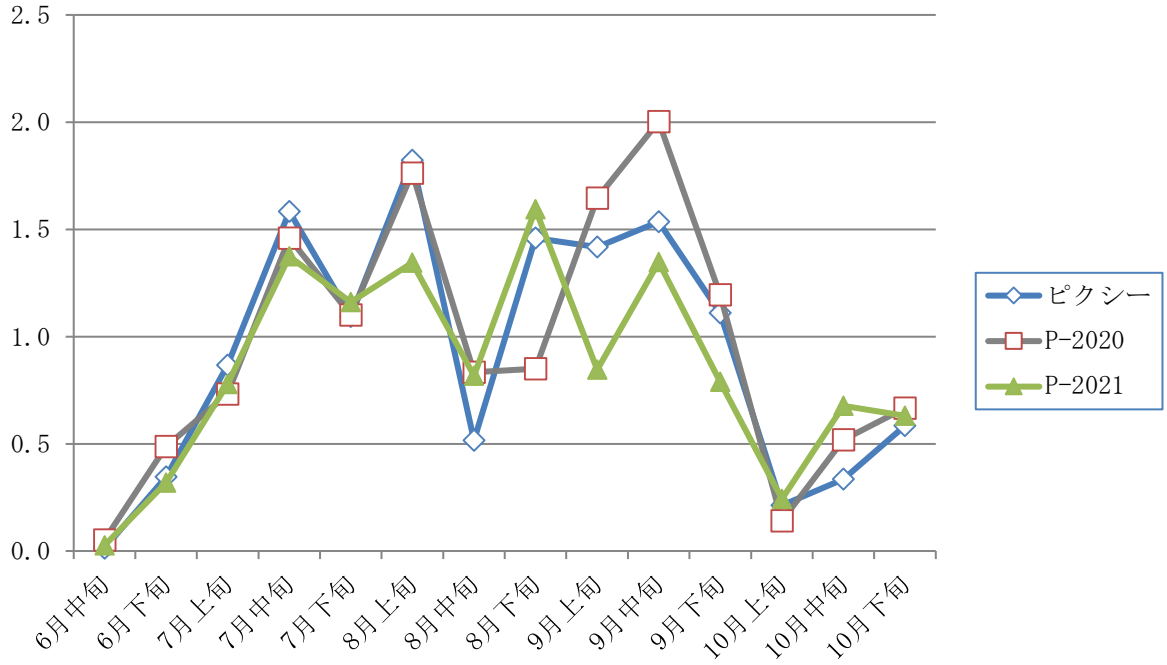


図 3　可販旬別収量（t/10a）（上段：4 月定植、下段：5 月定植）

露地野菜の部　№4

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（新規：令和３年度～令和５年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和３年３月 11 日　〈定　植〉令和３年５月 12 日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　育苗ポット　15 ㎝ポット

4)　育苗日数　62 日

5)　栽植距離　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

6)　定植株数　1,300 株/10a

7)　施肥量

【施肥量】

	〈基肥〉(kg/10a) 豊作太郎 (12-12-10)	パワーリン (P:30%)	〈追肥〉(kg/10a) くみあい燐硝安加里 S646 (16-4-16)
①	250	0	22.5×4 回
②	250	0	18.0×5 回
③	200	15	31.9×4 回
④	200	15	25.5×5 回

【成分量】

	〈基肥〉(kg/10a)			〈追肥〉(kg/10a)			合計(kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
①	30.0	30.0	25.0	14.4	3.6	14.4	44.4	33.6	39.4
②	30.0	30.0	25.0	14.4	3.6	14.4	44.4	33.6	39.4
③	24.0	28.5	20.0	20.4	5.1	20.4	44.4	33.6	39.4
④	24.0	28.5	20.0	20.4	5.1	20.4	44.4	33.6	39.4

【追肥時期】

①定植後 60 日、以降概ね 20 日おき計４回
令和３年７月 12 日、８月１日、８月 20 日、９月 10 日

②定植後 60 日、以降概ね 15 日おき計５回
令和３年７月 12 日、７月 27 日、８月 11 日、８月 26 日、９月 10 日

③定植後 60 日、以降概ね 20 日おき計４回
令和３年７月 12 日、８月１日、８月 20 日、９月 10 日

④定植後 60 日、以降概ね 15 日おき計５回
令和３年７月 12 日、７月 27 日、８月 11 日、８月 26 日、９月 10 日

8)　使用資材　暖あったかマルチ、15 ㎝×５目フラワーネット(３段)

9)　収穫期間　令和３年６月 18 日～10 月 29 日

10)　薬剤散布　31 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　<1>ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植時以降は日照が少なかったものの高温傾向で推移したことから、生育前半は順調となり、収穫開始は６月 18 日となった。その後、低温少照となった８月中旬及び９月以降で収量が低下した。

病害虫は、９月以降に斑点細菌病の被害が散見された。

2)　収量

可販 10a 換算収量は、調査区③が最も多い結果となった。

基肥量・追肥量の加減による収量比較は、可販 10a 換算収量が基肥減・追肥増の調査区③で 13.6t、調査区④で 13.3t となり、調査区①、②に比べ多かった。可販旬別収量では 7 月下旬から 8 月上旬、9 月上中旬にかけては調査区③、④が多く、追肥量が多いことが影響していることが考えられたが、追肥開始前及び低温少照となった 8 月中旬及び 9 月以降では、収量の差が判然としなかった。

追肥回数による収量比較は、可販 10a 換算収量が追肥 4 回の調査区①で 12.9t、調査区③で 13.6t となり、調査区②、④に比べ多かった。ただし、可販旬別収量では時期によって収量にばらつきがあったことから効果は判然としなかった。

3)　品質

可販Ａ品率は調査区①が、可販 10a 換算Ａ品収量は調査区③が最も多かった。

Ａ品率の比較において、基肥量・追肥量の加減による比較は、可販Ａ品率で慣行の調査区①、②の方が高い傾向が見られたが、総数Ａ品率では判然としなかった。また、追肥回数による比較は、可販Ａ品率で 4 回の調査区①、③の方が高い傾向が見られた。

主な落等要因としては、B 品における傾向は判然としなかったが、外品では調査区①でヘタ付近の突起、調査区②、③、④ではシワ果が多かった。

以上より、今年度の調査では、基肥量・追肥量の加減による比較は収量で基肥減・追肥増の調査区が優れていたが、Ａ品率の差は判然としなかった。また、追肥回数による比較は、4 回の調査区が 5 回の調査区に比べ収量及びＡ品率において優れた傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画

継続

表１　収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
①60日4回	8,893	230	1,025	27	375	23	10,293	280	86.4	36.8	13.4
②60日5回	8,400	222	1,225	32	639	19	10,264	273	81.8	37.6	13.3
③60日4回(基減追増)	9,249	243	1,179	30	314	11	10,742	284	86.1	37.8	14.0
④60日5回(基減追増)	8,763	230	1,488	40	385	10	10,636	280	82.4	38.0	13.8

続き

調査区	可販(A品＋B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 Ａ品収量 (t)
①60日4回	9,918	257	89.7	38.6	12.9	11.6
②60日5回	9,625	254	87.3	37.9	12.5	10.9
③60日4回(基減追増)	10,428	273	88.7	38.2	13.6	12.0
④60日5回(基減追増)	10,251	270	85.5	38.0	13.3	11.4

※調査区は連続 5 株調査した 1 株当たりの平均。

※総収量=Ａ品収量+Ｂ品収量。総果数=Ａ品果数+Ｂ品果数。Ａ品率=Ａ品収量/総収量。10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。

10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。　　※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 2　障害発生率（個数%）

調査区	B品(個数%)					外品(個数%)						
	突起	先尖	曲	外傷	大	突起	先尖	曲	外傷	ｼﾜ・赤	他	小
①60日4回	26.7	17.0	24.4	26.7	5.2	57.0	0	9.0	11.4	21.9	3.5	5.3
②60日5回	17.6	18.9	28.3	26.4	8.8	9.3	0	6.2	32.0	42.3	6.2	4.1
③60日4回(基減追増)	25.7	21.7	20.4	26.3	5.9	7.5	0	0	34.0	30.2	7.5	20.8
④60日5回(基減追増)	24.2	27.3	25.3	18.7	4.5	13.7	0	3.9	11.8	54.9	3.9	11.8

※100%とならないのは四捨五入のため。

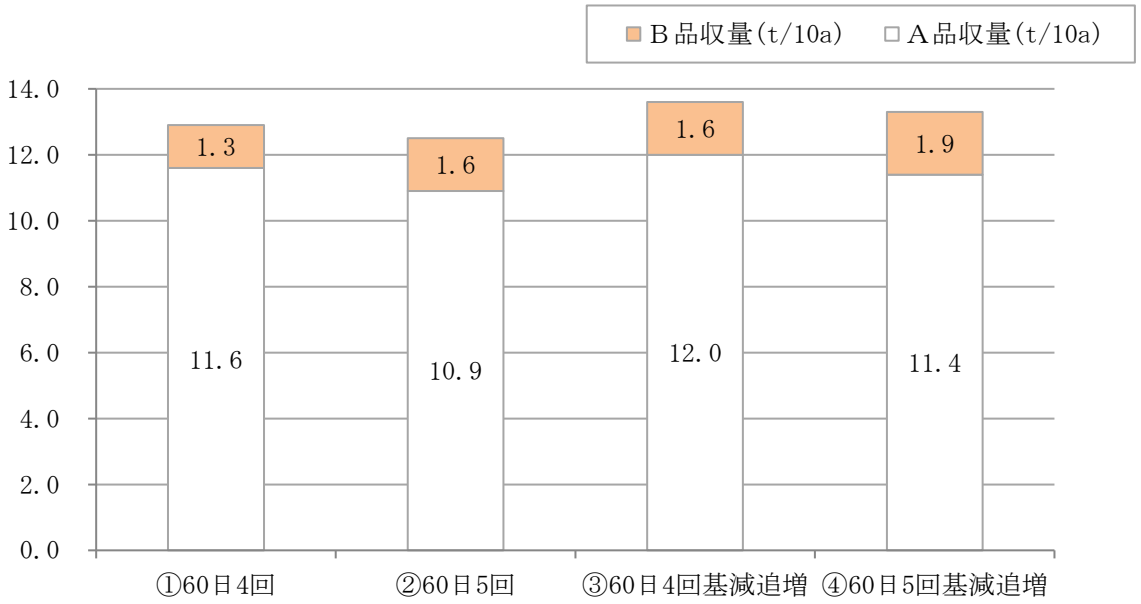


図 1　品種別可販収量（t/10a）

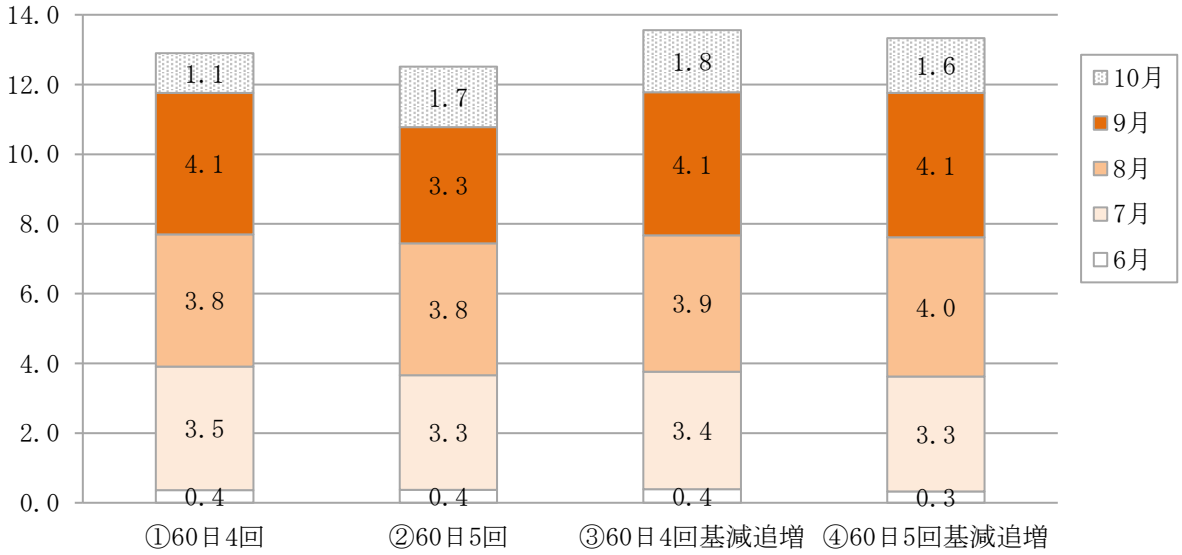


図 2　可販月別収量（t/10a）

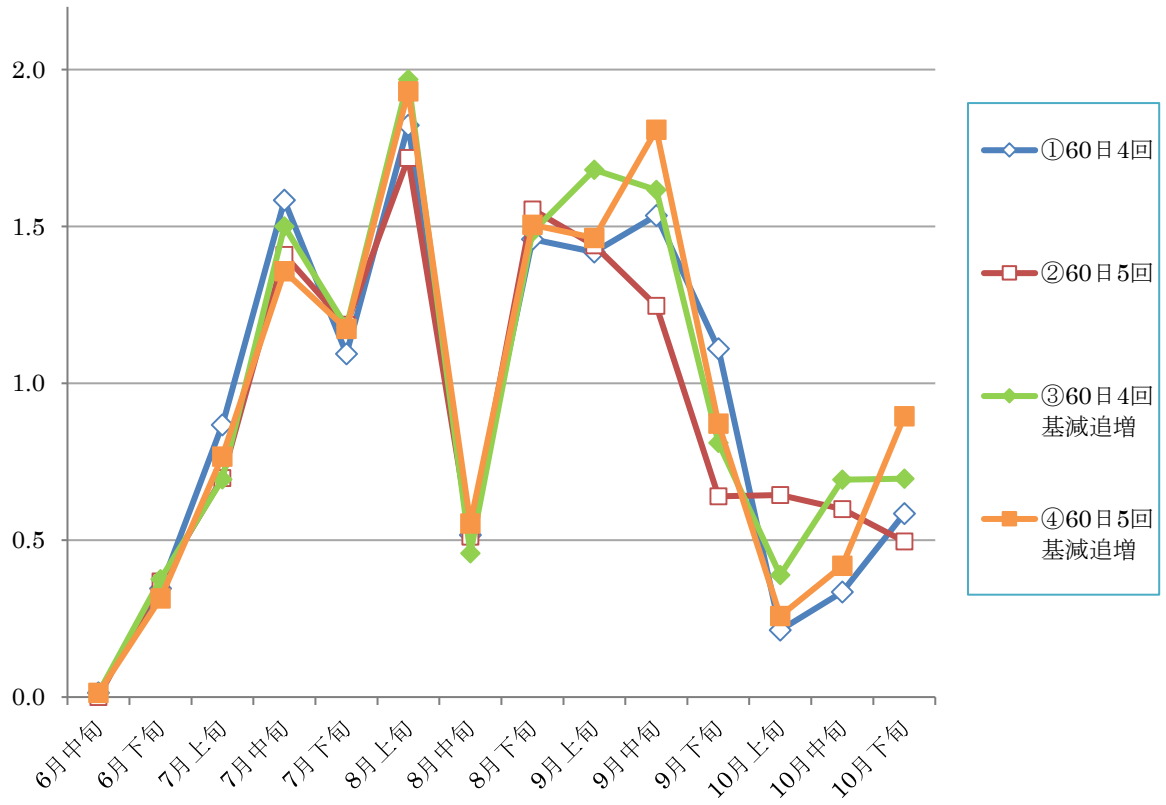


図 3　可販旬別収量（t/10a）

項目：栽培技術調査
調査名：ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和３年３月 11 日　〈定　植〉令和３年５月 12 日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　育苗ポット　15 cmポット

4)　育苗日数　62 日

5)　整枝方法　①第２分枝を主枝４本に整枝、第３分枝を８本、以降側枝を適宜整枝(慣行)
②第２分枝を主枝４本に整枝、第３分枝を８本、以降側枝を適宜整枝、９月上旬に摘心

6)　摘心　令和３年９月３日

7)　栽植距離　うね幅 150 cm、株間 50 cm

8)　定植株数　1,300 株/10a

9)　施肥量　N-P-K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16)：30 kg/10a
令和３年７月 12 日、８月１日、８月 20 日、９月 10 日

10)　使用資材　暖あったかマルチ、15 cm×５目フラワーネット(3 段)

11)　収穫月日　令和３年６月 18 日～令和３年 10 月 29 日

12)　薬剤散布　31 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　<1>ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

10a 換算収量及び 10a 換算Ａ品収量の点から、調査区②が優れていた。また、月別収量において、調査区②が８月にやや上回ったが、９月以降にその差が大きくなった。

(2)　本年度の結果

1)　生育

定植時以降は日照が少なかったものの高温傾向で推移したことから、生育前半は順調となり、収穫開始は６月 18 日となった。その後、低温少照となった８月中旬及び９月以降で収量が低下した。

病害虫は、９月以降に斑点細菌病の被害が散見された。

2)　収量

可販 10a 換算収量は、調査区①が上回った。

可販月別収量は、調査区①で８月、調査区②で９月が最も多かった。

可販旬別収量は、調査区②が摘心後の９月中旬に調査区①を上回ったが、その後は調査区①を下回る旬が見られた。

3)　品質

総数でのＡ品率は調査区①が上回ったが、可販Ａ品率は、調査区間で同等となった。また、主な落等要因としては、Ｂ品における傾向は判然としなかったが、外品では調査区①でヘタ付近の突起、調査区②ではシワ果が多かった。

以上の結果より、今年度の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算Ａ品収量の点から、

調査区①が優れていた。また、摘心は実の肥大促進に効果があるものの、効果は持続しないことが考えられるため、引き続き検討が必要であった。

(3)　次年度以降の計画
継続

表１　収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均1果重 (g)	10a換算収量 (t)
①慣行区	8,893	230	1,025	27	375	23	10,293	280	86.4	36.8	13.4
②9月上旬摘心	8,467	226	1,100	34	649	18	10,216	278	82.9	36.7	13.3

続き

調査区	可販(A品＋B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均1果重 (g)	10a換算収量 (t)	10a換算A品収量 (t)
①慣行区	9,918	257	89.7	38.6	12.9	11.6
②9月上旬摘心	9,567	260	88.5	36.8	12.4	11.0

※調査区は連続５株調査した１株当たりの平均。

※総収量=Ａ品収量+Ｂ品収量。総果数=Ａ品果数+Ｂ品果数。Ａ品率=Ａ品収量/総収量。

10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表２　障害発生率（個数%）

調査区	B品(個数%)					外品(個数%)						
	突起	先尖	曲	外傷	大	突起	先尖	曲	外傷	ｼﾜ・赤	他	小
①慣行区	26.7	17.0	24.4	26.7	5.2	57.0	0	9.0	11.4	21.9	3.5	5.3
②9月上旬摘心	20.9	14.5	23.8	29.7	11.0	7.7	0	5.5	17.6	54.9	8.8	5.5

※100%とならないのは四捨五入のため。

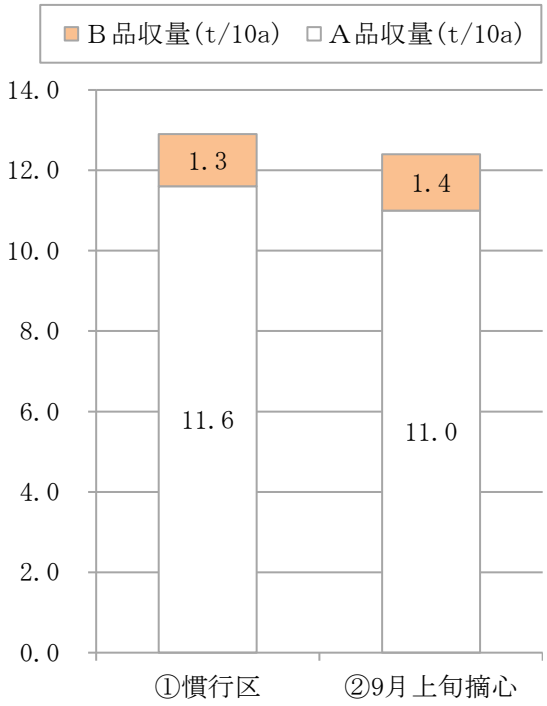


図１　可販収量（t/10a）

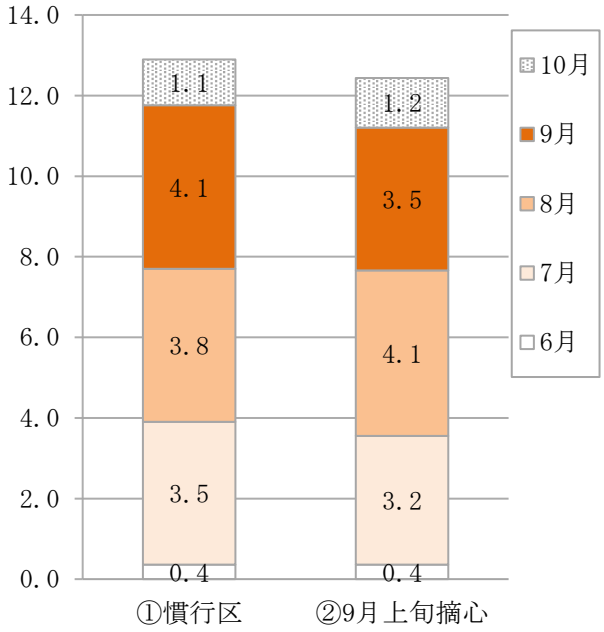


図２　可販月別収量（t/10a）

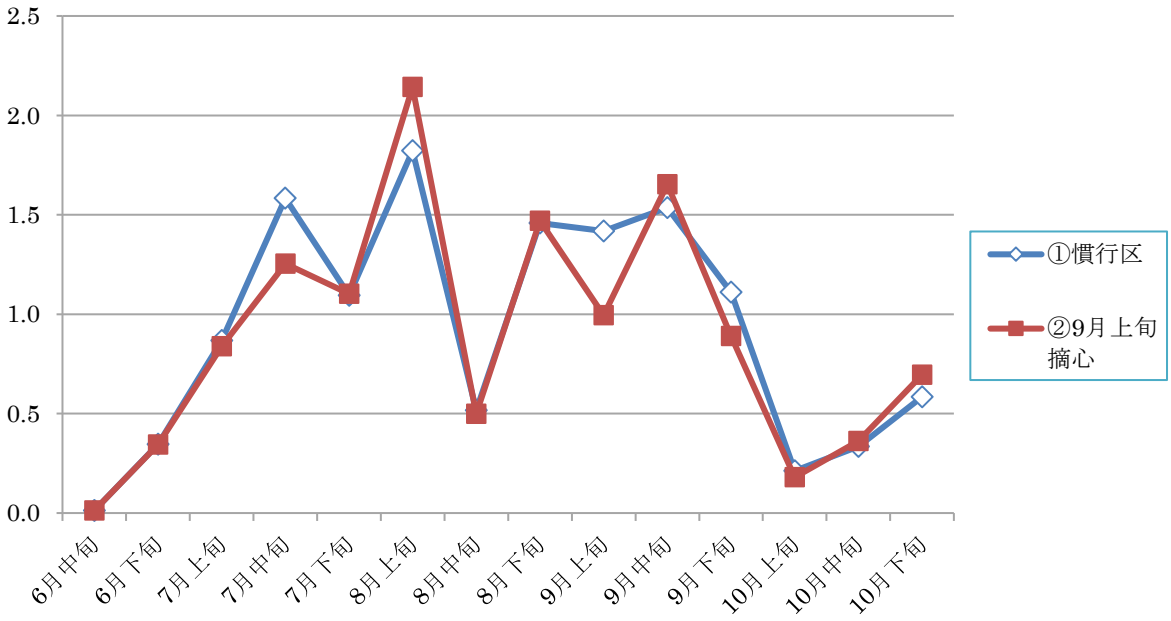


図２　可販旬別収量（t/10a）

2－4 調査成績（花き）

花きの部　No.1

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7～8 月出荷)（継続：令和 2 年度～令和 3 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7～8 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 11 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　土耕栽培
2) は種年月日　令和 3 年 2 月 18 日
3) 定植年月日　令和 3 年 4 月 6 日
4) 栽植距離　ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)
5) 定植株数　2,720 本/棟
6) 施肥量　N-P-K-Mg=0.96-0.08-2.20-0.52 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：8.0 kg/a
ケイ酸加里（K:20-Mg:4）：9.0 kg/a
7) 使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット、メガクール
8) 遮光・遮熱期間　令和 3 年 6 月 30 日～8 月 13 日
9) 収穫時期　令和 3 年 7 月 19 日～8 月 13 日
10) 薬剤散布　33 回（成分回数）
11) 保温　内カーテン（令和 3 年 4 月 6 日～5 月 14 日）

(3)　調査区の構成

1) 調査区　14 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ｾﾚﾌﾞ 1 型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中早生	大	薄紫	住化農業資材㈱
<2>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<3>	ﾏｷｱﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中生	中大	薄紫	㈱サカタのタネ
<4>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<5>	ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	黄	カネコ種苗㈱
<6>	ｺｽﾀﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	カネコ種苗㈱
<7>	ｱﾃﾞﾙｸﾞﾘｰﾝ	中生	中大	緑	カネコ種苗㈱
<8>	海えりか	中生	中	白紫	住化農業資材㈱
<9>	ﾁｱﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<10>	ﾁｱﾋﾟﾝｸ	中生	中大	桃	㈱ミヨシ
<11>	ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ 18	中生	大	白	タキイ種苗㈱
<12>	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
<13>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<14>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

春先の気温が比較的高く、地温を確保できたこともあり、生育期序盤は株張りが良く順調であった。しかし、6 月以降の高温により開花時期は早まり、全般に短小開花の傾向が見られた。

病害虫については、開花時期以降にアザミウマが散見された。

(2)　開花

採花時期は、7 月 19 日から 8 月 13 日と全般に早まり、盛期は 7 月 23 日から 8 月 6 日となった。

開花は、「セレブ 1 型ラベンダー」で最も早く、最も遅かったのは「PF ダブルスノー」となった。

これまでの調査では早晩性による開花時期の大きな違いは見られなかったものの、本年のような夏場に高温が続く天候下では、開花時期の差がより顕著に開く傾向にあると考えられる。

(3)　切花品質

切花長では、「マイコ」で最も長く 86.1 ㎝であった。

茎径では、「マイコ」で最も太く 7.2㎜ となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「マキアホワイト」、「ルカゴールド」、「マイコ」、「ソロ PF ローズピコティ」、「PF ダブルスノー」については、他品種に比べ茎が硬く、首曲がり等も少なかった。

「ソロ PF ローズピコティ」については、一重のため花全体としてのボリュームは劣るものの圃場でのロスが少なく、また、無花粉の品種であるため花持ちが良いことや汚れにくいこと等から、今後新たな需要の拡大が期待される品種であると考えられる。

(4)　次年度以降の計画

完了

表 1　採花期

品種名	早晩性	花径	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
<1> ｾﾚﾌﾞ1型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中早生	大	7/19 ～ 8/ 4	7/23
<2> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	7/24 ～ 8/ 3	7/29
<3> ﾏｷｱﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中生	中大	7/26 ～ 8/ 5	8/ 2
<4> ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	7/30 ～ 8/ 6	8/ 3
<5> ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	7/24 ～ 7/30	7/30
<6> ｺｽﾀﾎﾜｲﾄ	中生	大	7/23 ～ 8/ 2	7/29
<7> ｱﾃﾞﾙｸﾞﾘｰﾝ	中生	中大	7/26 ～ 8/ 4	7/30
<8> 海えりか	中生	中	7/26 ～ 8/ 2	7/30
<9> ﾁｱﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	7/22 ～ 8/ 2	7/28
<10>ﾁｱﾋﾟﾝｸ	中生	中大	7/22 ～ 8/ 2	7/28
<11>ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ18	中生	大	8/ 2 ～ 8/12	8/ 5
<12>ﾏｲｺ	中晩生	大	8/ 4 ～ 8/11	8/ 6
<13>ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	8/ 2 ～ 8/11	8/ 6
<14>PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	8/ 3 ～ 8/13	8/ 6

表 2　切花調査

品種名	切花長（cm）	切花重（g）	調整重（g）	節数（節）	茎長（cm）	茎径（mm）	着蕾側枝数（本）	開花数（個）	花蕾数（個）
<1> ｾﾚﾌﾞ1型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	71.2	71.2	47.2	8.5	39.1	5.5	3.6	3.5	7.0
<2> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	78.5	73.8	56.8	9.4	44.6	6.3	3.2	3.6	8.3
<3> ﾏｷｱﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	76.1	67.4	51.5	7.5	43.3	6.7	3.3	3.9	8.4
<4> ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	74.3	63.8	48.0	7.5	44.2	5.7	3.3	3.3	6.9
<5> ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	82.1	70.1	56.1	8.6	52.8	6.7	3.9	4.5	6.8
<6> ｺｽﾀﾎﾜｲﾄ	72.0	64.7	50.7	9.7	48.9	6.3	3.3	3.9	8.9
<7> ｱﾃﾞﾙｸﾞﾘｰﾝ	73.1	64.2	47.5	7.4	45.3	5.5	3.3	3.4	6.1
<8> 海えりか	72.2	51.5	38.0	6.4	39.2	6.3	3.8	3.2	6.3
<9> ﾁｱﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	68.2	54.2	40.4	6.3	40.0	5.1	3.2	3.2	5.0
<10>ﾁｱﾋﾟﾝｸ	69.1	51.2	37.5	6.4	41.1	5.0	3.3	3.5	4.6
<11>ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ18	81.0	71.0	50.6	7.9	51.9	7.0	3.8	3.6	8.0
<12>ﾏｲｺ	86.1	72.2	52.1	8.7	51.0	7.2	2.8	2.7	3.3
<13>ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	83.9	63.2	49.5	8.1	47.7	6.3	4.4	5.0	9.9
<14>PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	82.6	64.3	47.5	7.8	47.5	6.1	3.6	3.7	6.8

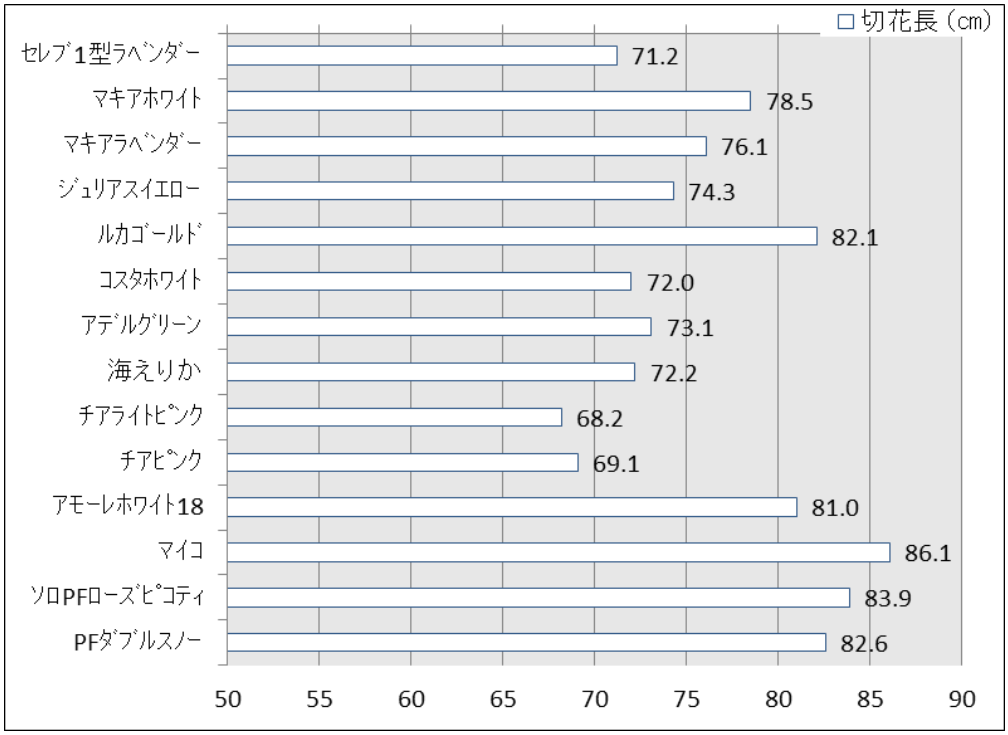


図１　切花長の比較

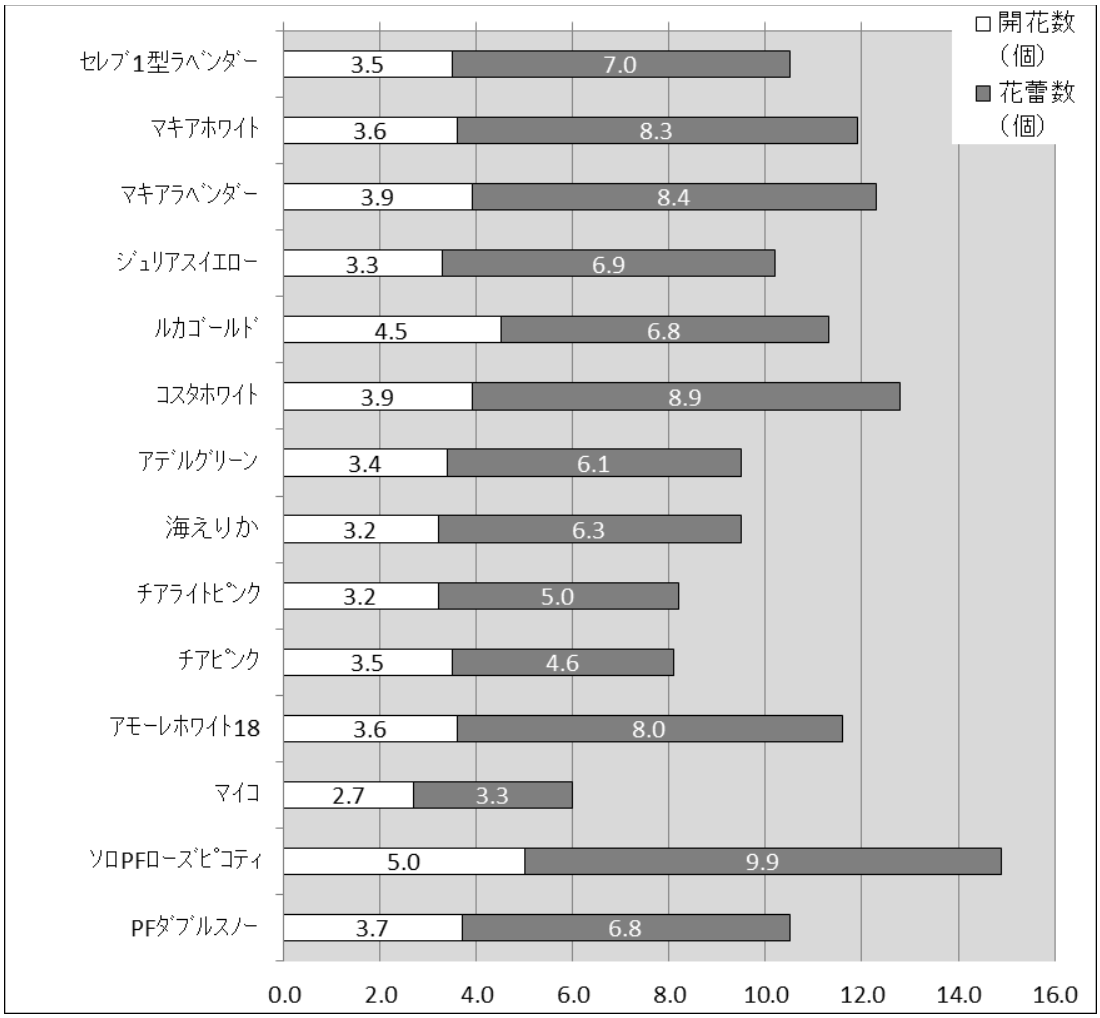


図２　開花数＋花蕾数の比較

〈1〉 ｾﾚﾌﾞ 1 型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ

〈2〉 ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ

〈3〉 ﾏｷｱﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ

〈4〉 ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ

〈5〉 ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ

〈6〉 ｺｽﾀﾎﾜｲﾄ

〈7〉 ｱﾃﾞﾙｸﾞﾘｰﾝ

〈8〉 海えりか

〈9〉 ﾁｱﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ

〈10〉 ﾁｱﾋﾟﾝｸ

〈11〉 ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ 18

〈12〉 ﾏｲｺ

〈13〉 ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ

〈14〉 PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ

花きの部　No.2

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷)（継続：令和2年度～令和3年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス9号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　令和3年3月16日
3)　育苗方法　セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて35日冷蔵処理、その後通常育苗
4)　定植年月日　令和3年6月9日
5)　栽植距離　ベッド幅60㎝、株間10㎝、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
6)　定植株数　2,720本/棟
7)　施肥量　N-P-K-Mg= 0.96-0.08-2.40-0.56 kg/a
（基肥）アルガ215（12-1-5-2）：8.0 kg/a
ケイ酸加里（K:20-Mg:4）：10.0 kg/a
8)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
9)　遮光・遮熱期間　令和3年7月16日～9月6日
10)　収穫時期　令和3年8月21日～9月6日
11)　薬剤散布　25回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　11区（1区10株、1区制）
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<3>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<4>	ｴﾚｶﾞﾝｽｸﾞﾘｰﾝ	中晩生	中	緑	住化農業資材㈱
<5>	ﾗﾌｰﾙ3型ﾜｲﾝ	中晩生	小	濃赤	住化農業資材㈱
<6>	海しずか	中晩生	中小	白紫	住化農業資材㈱
<7>	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
<8>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	桃	タキイ種苗㈱
<9>	ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中	紫	タキイ種苗㈱
<10>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	白紫	㈱ミヨシ
<11>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

※メーカーの在庫状況により、一部計画と異なる。

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

8月出荷の作型と同様に、生育期序盤は株張りが良く順調であったが、6月以降の高温により開花時期は早まり、総じて短小開花となった。特に早晩性が早い品種については、開花時期、切花品質ともに高温による影響が顕著であった。

病害虫の発生は見られなかった。

(2)　開花

採花時期は、8月21日から9月6日、盛期は8月24日から9月3日でいずれも秋彼岸の需要期からは大幅に前進した結果であった。

開花は、「マキアホワイト」で最も早く8月21日、「セミファイナルローズ」で最も遅く8月27日となった。

(3)　切花品質

切花長では、「セミファイナルローズ」で最も長く 85.2 ㎝であった。

茎径では、「セミファイナルローズ」で最も太く 7.2㎜ となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

本年のような天候下では、早晩性の違いが切花品質に与える影響は大きく、中生及び中晩生の一部については高温による品質の低下が顕著であったが、「エレガンスグリーン」、「マイコ」、「セミファイナルローズ」、「ラルゴマリン」については比較的影響を受けにくい傾向にあった。ただし、高温の影響を受けにくかった品種においても、上位節間が伸びやすいため徒長に留意し、生育期後半の潅水を控えて栽培する必要がある。

なお、無花粉品種である「ソロ PF ローズピコティ」と「PF ダブルスノー」は、8 月出荷作型と比べると若干の品質低下は見られたものの、花持ちの良さや汚れにくい等、無花粉品種に有利とされる特徴が確認できたことから、今後の需要拡大が期待される品種であると考えられる。

(4)　次年度以降の計画

完了

表 1　採花期

品種名	早晩性	花径	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	8/21 ～ 8/25	8/24
<2> ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	8/23 ～ 8/31	8/25
<3> ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	8/24 ～ 9/ 3	8/31
<4> ｴﾚｶﾞﾝｽｸﾞﾘｰﾝ	中晩生	中	8/24 ～ 9/ 6	8/31
<5> ﾗﾌｰﾙ3型ﾜｲﾝ	中晩生	小	8/26 ～ 9/10	9/ 3
<6> 海しずか	中晩生	中小	8/23 ～ 8/31	8/26
<7> ﾏｲｺ	中晩生	大	8/23 ～ 8/27	8/25
<8> ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	8/27 ～ 9/ 6	8/31
<9> ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中	8/23 ～ 8/31	8/25
<10>ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	8/24 ～ 8/31	8/26
<11>PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	8/25 ～ 9/ 3	8/27

表 2　切花調査

品種名	切花長（cm）	切花重（g）	調整重（g）	節数（節）	茎長（cm）	茎径（mm）	着蕾側枝数（本）	開花数（個）	花蕾数（個）
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	71.9	53.5	40.3	7.1	45.7	6.6	3.6	3.8	7.9
<2> ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	70.9	60.0	45.2	6.7	44.8	6.1	3.4	3.5	6.6
<3> ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	72.6	51.8	38.4	7.8	47.0	5.2	6.1	4.6	10.1
<4> ｴﾚｶﾞﾝｽｸﾞﾘｰﾝ	82.1	71.1	54.0	7.6	48.8	6.3	4.0	3.8	6.8
<5> ﾗﾌｰﾙ3型ﾜｲﾝ	69.6	53.9	38.5	6.7	40.5	5.7	3.8	3.7	5.5
<6> 海しずか	70.0	55.3	41.6	7.0	48.5	5.8	4.0	3.6	5.9
<7> ﾏｲｺ	82.0	66.2	52.7	8.3	49.7	7.0	2.9	2.7	3.4
<8> ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	85.2	64.5	50.3	8.3	51.2	7.2	3.4	3.4	6.1
<9> ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	67.7	55.9	44.6	6.8	44.7	5.3	3.7	3.7	5.9
<10>ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	81.6	62.7	46.9	8.3	50.8	6.6	3.7	3.3	6.2
<11>PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	82.5	60.5	44.9	7.4	47.9	6.0	3.3	3.8	6.7

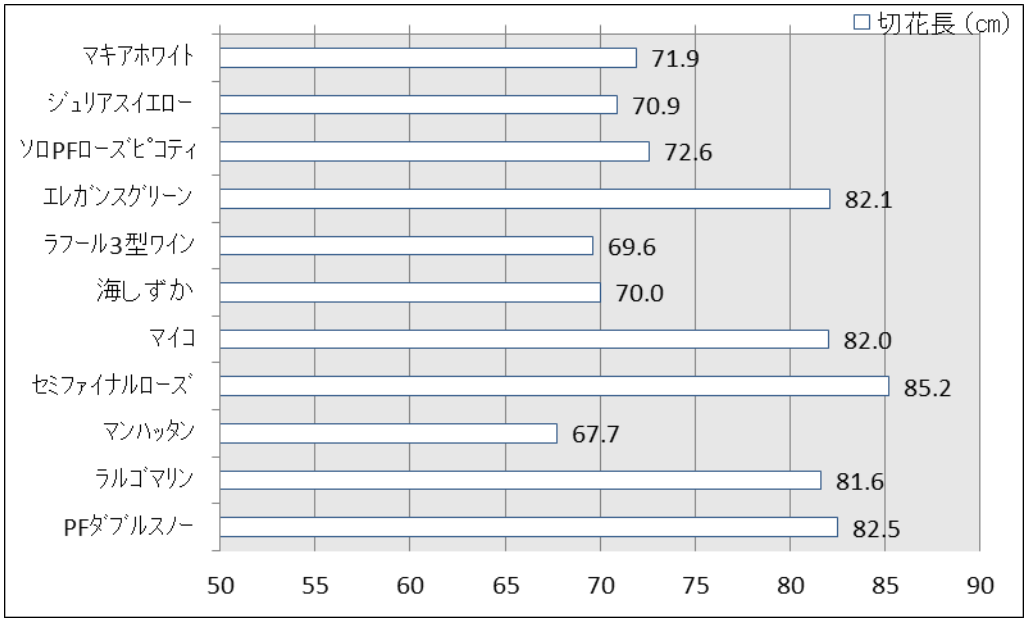


図１　切花長の比較

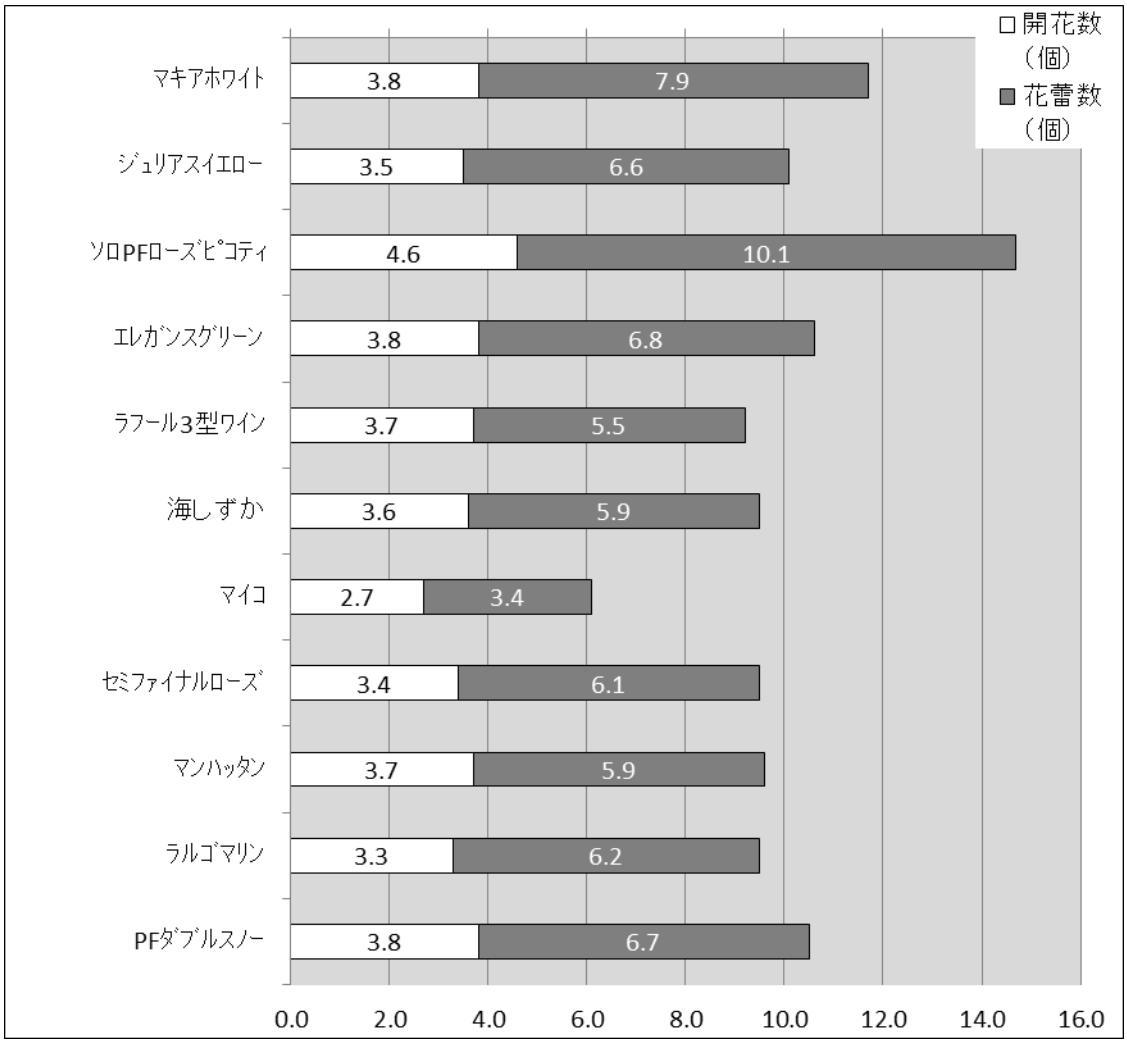


図２　開花数＋花蕾数の比較

〈1〉 ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ

〈2〉 ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ

〈3〉 ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ

〈4〉 ｴﾚｶﾞﾝｽｸﾞﾘｰﾝ

〈5〉 ﾗﾌｰﾙ 3 型ﾜｲﾝ

〈6〉 海しずか

〈7〉 ﾏｲｺ

〈8〉 ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ

〈9〉 ﾏﾝﾊｯﾀﾝ

〈10〉 ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ

〈11〉 PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ

花きの部　No.3

項　目：栽培技術調査

調査名：トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査(9 月出荷)（新規：令和 3 年度～令和 4 年度）

１目的　トルコギキョウの赤色 LED 電照処理により開花抑制が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 3 年 3 月 16 日

3)　育苗方法　セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて 35 日冷蔵処理、その後通常育苗

4)　定植年月日　令和 3 年 6 月 9 日

5)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10㎝、4 条植え(中 2 条抜き)

6)　定植株数　2,720 本/棟

7)　施肥量　N-P-K-Mg= 0.96-0.08-2.40-0.56 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：8.0 kg/a
ケイ酸加里（K:20-Mg:4）：10.0 kg/a

8)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット、メガクール、赤色 LED ライト（620nm～630nm）

9)　電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和 3 年 6 月 9 日～9 月 10 日
※16：00～8：00　16 時間電照

10)　収穫時期　令和 3 年 8 月 21 日～9 月 10 日

11)　薬剤散布　25 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　14 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<3>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<4>	海しずか	中晩生	中小	白紫	住化農業資材㈱
<5>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	桃	タキイ種苗㈱
<6>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	白紫	㈱ミヨシ
<7>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

9 月出荷作型の品種比較調査結果と同様に、6 月以降の高温により開花時期は早まり、総じて短小開花となった。また、赤色 LED 電照区においては、定植後約 1 ヶ月の時点から、無電照区に比べ草丈の伸長が促進されていた。

病害虫の発生は見られなかった。

(2)　開花

採花時期は、8 月 21 日から 9 月 10 日、盛期は 8 月 24 日から 9 月 7 日でいずれも秋彼岸の需要期からは大幅に前進した結果であった。

開花は、無電照区の「マキアホワイト」で最も早く 8 月 21 日、最も遅かったのは、赤色 LED 電照区の「海しずか」と「セミファイナルローズ」で 9 月 2 日となった。

また、いずれの品種においても赤色 LED 電照区の開花が遅く、最大で 7 日程度の差が見られた。

(3)　切花品質

切花長では、全調査区で 70 cmを超え、また、全ての品種で赤色 LED 電照区が無電照区に比べ長い結果となった。

茎径、着蕾側枝数、開花数及び花蕾数の合計等についても同様に赤色 LED 電照区が優れた結果となった。

また、本年は夏場の高温や日照の変動が大きかったためにブラスチングが散見されたが、赤色 LED 電照区は無電照区に比べ発生が少ない傾向となった。

(4)　考察

開花時期については、赤色 LED 電照区が総じて遅く、開花抑制効果があることが確認された。切花品質においても、各項目で赤色 LED 電照区が概ね優れた結果であった。ただし、開花抑制・切花品質向上効果は品種によって異なり、また、晩生品種ほど向上の効果が顕著であったこと等から、次年度以降は早晩性も踏まえたうえで比較する品種の構成を検討し、調査を継続していきたい。

(5)　次年度以降の計画

継続

表 1　採花期

品種名	電照	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	無電照	8/21 ～ 8/25	8/24
	赤色LED	8/24 ～ 9/ 3	8/31
<2> ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	無電照	8/23 ～ 8/31	8/25
	赤色LED	8/27 ～ 9/ 3	8/31
<3> ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	無電照	8/24 ～ 9/ 3	8/31
	赤色LED	8/27 ～ 9/ 8	9/ 3
<4> 海しずか	無電照	8/23 ～ 8/31	8/26
	赤色LED	9/ 2 ～ 9/10	9/ 7
<5> ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	無電照	8/27 ～ 9/ 6	8/31
	赤色LED	9/ 2 ～ 9/10	9/ 7
<6> ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	無電照	8/24 ～ 8/31	8/26
	赤色LED	8/30 ～ 9/ 8	9/ 3
<7> PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	無電照	8/25 ～ 9/ 3	8/27
	赤色LED	8/31 ～ 9/ 8	9/ 6

表 2　切花調査

品種名		切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	71.9	53.5	40.3	7.1	45.7	6.6	3.6	3.8	7.9
	電照区	72.6	51.1	38.6	7.1	48.9	6.9	3.8	3.6	8.2
<2>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	70.9	60.0	45.2	6.7	44.8	6.1	3.4	3.5	6.6
	電照区	72.4	61.8	46.7	6.8	47.4	6.3	3.6	3.5	6.7
<3>	ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	72.6	51.8	38.4	7.8	47.0	5.2	6.1	4.6	10.1
	電照区	80.0	60.6	47.6	8.1	48.5	5.6	6.3	4.8	13.6
<4>	海しずか	70.0	55.3	41.6	7.0	48.5	5.8	4.0	3.6	5.9
	電照区	82.3	66.4	52.5	7.6	52.9	6.4	4.0	3.4	6.8
<5>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	85.2	64.5	50.3	8.3	51.2	7.2	3.4	3.4	6.1
	電照区	93.1	71.8	54.5	8.5	56.6	7.5	3.7	3.6	8.3
<6>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	81.6	62.7	46.9	8.3	50.8	6.6	3.7	3.3	6.2
	電照区	92.4	71.9	55.2	8.5	57.2	6.8	3.9	3.6	8.2
<7>	PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	82.5	60.5	44.9	7.4	47.9	6.0	3.3	3.8	6.7
	電照区	87.6	65.1	50.1	7.8	54.4	6.4	3.6	3.9	8.5

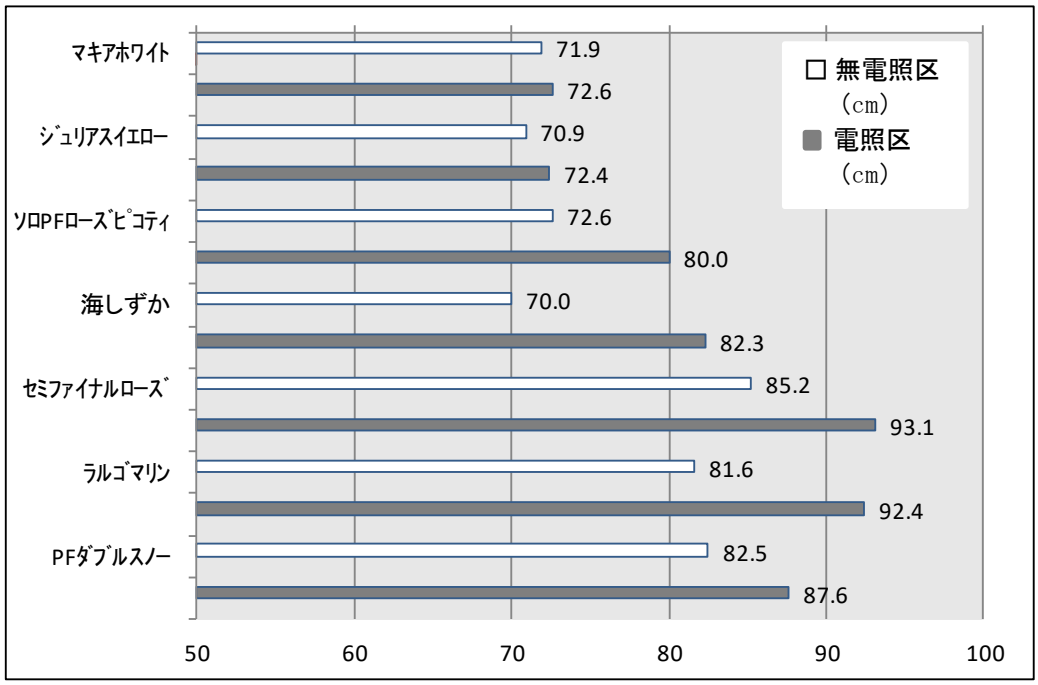


図１　切花長の比較（cm）

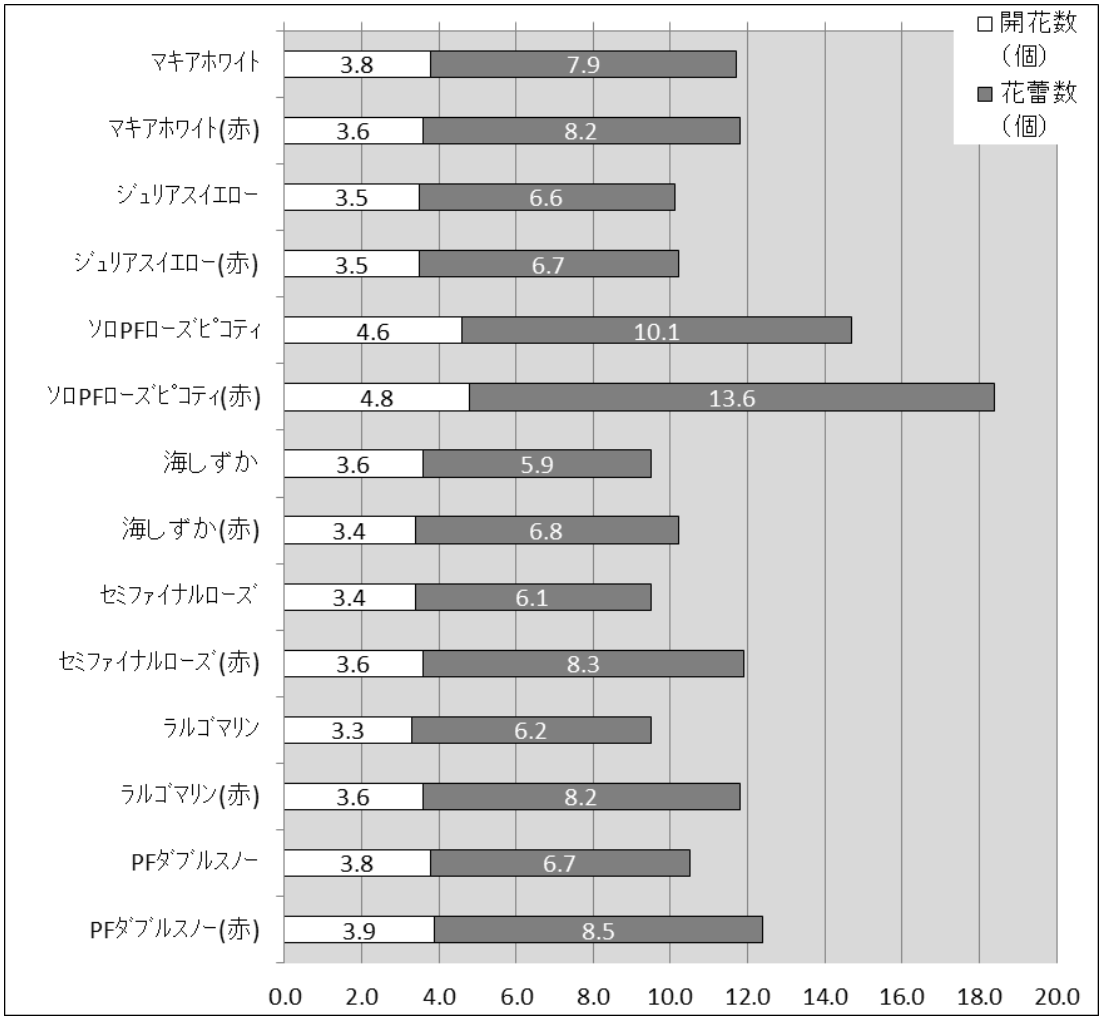


図２　開花数＋花蕾数の比較

花きの部　No.4

項　目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続：令和 2 年度～令和 4 年度）

１目的　カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 2 年 9 月 11 日

3)　定植年月日　令和 2 年 10 月 15 日

4)　仕立て法　令和 2 年 11 月 20 日に調査区②摘心、その他は 12 月 9 日に摘心

5)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 20 ㎝、条間 40㎝、2 条植え(中 1 条抜き)

6)　定植株数　620 株/棟

7)　施肥量　N-P-K-Mg=1.00-0.99-1.60 kg/a
（基肥）ビオン 068（10-6-8）：10.0 kg/a
パワーリン（P:30）：1.3 kg/a
硫酸加里（K:50）：1.6 kg/a

8)　使用資材　バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm）、20cm×3 目フラワーネット

9)　電照期間
調査区①　無電照
調査区②　令和 2 年 10 月 15 日（定植後）～収穫期まで
調査区③　令和 2 年 12 月 9 日（摘心後）～収穫期まで
調査区④　令和 3 年 2 月 1 日～収穫期まで
いずれも 22：00～2：00（暗期中断）

10)　収穫時期　令和 3 年 4 月 8 日～6 月 2 日

11)　保温　内カーテン（令和 2 年 11 月 9 日～令和 3 年 4 月 5 日）
パスライトトンネル(令和 2 年 12 月 15 日～令和 3 年 3 月 12 日)

12)　薬剤散布　8 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　20　区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
〈1〉	チャイムホワイト	白	㈱サカタのタネ
〈2〉	チャンピオンスカイブルー	青紫	㈱サカタのタネ
〈3〉	チャンピオンピンク	桃	㈱サカタのタネ
〈4〉	チャンピオン IQ ローズ	濃桃	㈱サカタのタネ
〈5〉	チャンピオン IQ ライラック	薄紫	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

無電照区と赤色 LED 電照区を比較したところ、開花時期は品種を問わず赤色 LED 電照区が総じて早かったものの、切花品質においては無電照区が優れていた。

(2)　本年度の結果

1)　生育

全品種において、病害虫の発生は見られず、順調な生育であった。

生育期後半は灌水を多めに行い株張りを促進させ、後半は灌水を控えめにしたことにより首曲がりや茎の空洞化等の症状は見られなかったものの、調査区によっては一部で十分な草丈が確保できない品種があった。

また、栽培期間中の生育調査において、いずれの時点でも調査区②の生育が早いことが確認された。

2)　開花

開花は、全調査区の中で調査区②のチャイムホワイトで最も早く、採花時期は 4 月 8 日～4 月 23 日となった。

また、いずれの品種においても、調査区②の採花時期が早く、調査区①と比較すると最大で１ヶ月程度の差が見られた。

(3)　切花品質

切花長では、調査区②以外で全品種 80cm を超えた。また、全ての品種で調査区①が長い結果となった。

切花重では、全品種で調査区①が重かった。

花穂長では、全品種で調査区①が長かった。

茎径では、全品種で調査区①が太かった。

花蕾数では、全品種で調査区①が多かった。

花径では、調査区①が大きい傾向にはあったが、調査区別での顕著な差は見られなかった。

(4)　考察

採花時期については、調査区②が総じて早い結果となった。

ただし、切花品質においては無電照の調査区①が優れており、赤色 LED 電照栽培の場合はチャイムホワイト等の比較的コンパクトな草姿の品種で、充分な草丈が確保できない場合が考えられるため、品種選定に留意する必要がある。

開花時期については、早くから電照を開始したほうが開花は早まるものの、切り花品質は劣る傾向にあるため、開花促進効果と切花品質の両面でバランスの良い条件について検討していきたい。

(5)　次年度以降の計画

継続

表１　採花期

品種名	調査区	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
チャイムホワイト	調査区①	5/12～5/21	5/18
	調査区②	4/ 8～4/23	4/12
	調査区③	4/14～4/30	4/28
	調査区④	4/26～5/ 5	4/30
チャンピオンスカイブルー	調査区①	5/14～5/26	5/19
	調査区②	4/12～4/23	4/15
	調査区③	4/19～4/30	4/28
	調査区④	4/28～5/ 7	5/ 4
チャンピオンピンク	調査区①	5/19～5/27	5/21
	調査区②	4/13～4/26	4/16
	調査区③	4/20～5/ 3	5/ 1
	調査区④	5/ 3～5/10	5/ 7
チャンピオンIQローズ	調査区①	5/21～5/28	5/25
	調査区②	4/15～4/26	4/16
	調査区③	4/23～5/ 5	5/ 4
	調査区④	5/ 7～5/13	5/10
チャンピオンIQライラック	調査区①	5/23～6/ 2	5/27
	調査区②	4/16～4/27	4/21
	調査区③	5/ 5～5/10	5/ 7
	調査区④	5/10～5/18	5/13

表 2　切花調査

品種名	電照	切花長 (cm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	花蕾数 (個)	花径 (cm)
チャイムホワイト	調査区①	90.2	70.5	46.1	7.7	56.7	17.3	4.0
	調査区②	64.8	44.3	38.5	6.3	50.5	12.4	3.8
	調査区③	84.0	50.1	42.0	6.4	45.6	14.6	3.7
	調査区④	84.9	62.7	45.1	7.0	55.9	16.0	4.0
チャンピオンスカイブルー	調査区①	109.9	109.1	53.5	8.8	81.3	22.3	4.7
	調査区②	69.6	61.0	49.4	7.4	67.3	13.0	4.3
	調査区③	92.5	70.2	52.1	7.9	53.6	21.9	4.1
	調査区④	104.9	97.7	51.7	8.0	68.8	19.1	4.2
チャンピオンピンク	調査区①	115.0	115.0	51.5	8.8	84.9	19.1	4.9
	調査区②	71.9	73.0	48.1	7.5	73.1	13.3	4.4
	調査区③	89.2	83.2	50.6	7.7	75.4	13.9	4.3
	調査区④	107.7	98.2	49.6	7.7	77.5	17.6	4.3
チャンピオンIQローズ	調査区①	103.2	105.7	49.7	8.2	78.5	21.7	4.4
	調査区②	68.6	71.6	45.4	7.2	70.3	13.2	4.0
	調査区③	80.0	72.9	48.6	7.5	74.0	13.9	4.1
	調査区④	102.6	99.2	48.2	7.7	76.9	14.6	4.3
チャンピオンIQライラック	調査区①	104.5	107.8	50.7	8.2	76.4	21.3	4.3
	調査区②	72.9	74.9	46.8	7.2	70.4	13.4	4.0
	調査区③	82.6	76.5	48.8	7.7	74.7	13.6	4.1
	調査区④	101.2	87.6	45.8	7.5	73.8	17.0	4.1

花きの部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)（新規：令和 3 年度～令和 4 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、8 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 8 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　土耕栽培
2) 定植年月日　令和 3 年 5 月 13 日（直挿し）
3) 栽植距離　ベッド幅 80 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10cm、6 条植え（中 2 条抜き）
4) 定植株数　3,600 本/棟
5) わい化剤処理　令和 3 年 7 月 7 日、29 日　ビーナイン顆粒水溶剤 1,000 倍
6) 施肥量　N-P-K-Mg=1.50-0.13-4.48-0.97 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：12.5 kg/a
硫酸加里（K：50）：7.7 kg/a
ハイクド（Mg:40）：1.8 kg/a
7) 使用資材　10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ
8) 電照期間　令和 3 年 5 月 13 日～6 月 22 日　22:00～3:00（暗期中断）
9) シェード管理　令和 3 年 6 月 22 日～8 月 13 日　17:30～6:30（11 時間日長）
10) 収穫時期　令和 3 年 7 月 25 日～8 月 13 日
11) 薬剤散布　35 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1) 調査区　12 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	ﾗｲﾁ	赤	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<2>	ｱﾊﾞﾀｰ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<3>	ﾌﾞﾗｰﾉ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<4>	ｱﾝﾃﾅ	緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<5>	ｱﾋﾞｰ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<6>	ﾒｰﾌﾟﾙ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<7>	ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<8>	ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<9>	ﾚﾄﾞﾆｯｸ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<10>	ﾋﾟｯﾌﾟ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<11>	ﾋﾟｯﾌﾟｻｰﾓﾝ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<12>	ｼｬﾎﾞﾝ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

全品種において病害発生は見られなかったものの、発蕾期以降にハダニ類の発生が散見された。

7 月 19 日から、脇芽欠きを順次行った。「メープル」は生育旺盛である反面、脇芽数が多く、芽欠き作業に時間を要した。

やなぎ芽及びやなぎ葉の発生は特に見られなかった。

(2)　開花

採花時期は、7 月 25 日から 8 月 13 日となった。採花の盛期は 8 月 1 日から 8 月 10 日となり、全品種において盆前が採花盛期となった。

(3)　切花品質

切花長では、全品種で 100cm を超え、「メープル」で最も長く 136.2cm、「ブラーノ」で最も短く 102.7cm となった。

切花重では、「アンテナ」で最も重く 80.3g となった。

花首長では、「アバター」、「ブラーノ」が 1cm 台となった。

茎径では、「ブラーノ」で最も太く 8.1mm となった

(4)　その他

5 月以降気温が高く推移した影響もあり、全体的に徒長気味で花首が長くなる傾向にあったものの、「アバター」、「ブラーノ」は花首が詰まり草姿が整っていた。

「アンテナ」、「アビー」、「パラドフ」は、生育の揃いが良く、他の品種に比べロスが少なかった。

耐暑性について、高温障害の影響は全体で見ると少なかったものの、「ライチ」、「アバター」、「ヘッジホッグ」、「ピップサーモン」においては色乗りの悪さ及び退色の目立つ個体が散見された。

また、「アンテナ」、「メープル」は草丈が確保しやすいものの、花首が伸びやすい傾向にあるため、わい化剤による処理と生育期後半の潅水量に留意する必要があると考えられる。

(5)　次年度以降の計画

継続

表 1　採花期

品種名		採花期（開始～終了）	（盛期）
<1>	ﾗｲﾁ	7/25～ 8/ 2	8/ 1
<2>	ｱﾊﾞﾀｰ	8/ 2～ 8/ 9	8/ 6
<3>	ﾌﾞﾗｰﾉ	8/ 2～ 8/ 9	8/ 6
<4>	ｱﾝﾃﾅ	8/ 1～ 8/ 6	8/ 4
<5>	ｱﾋﾞｰ	8/ 5～ 8/13	8/10
<6>	ﾒｰﾌﾟﾙ	8/ 1～ 8/ 6	8/ 4
<7>	ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ	8/ 4～ 8/12	8/ 9
<8>	ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ	8/ 1～ 8/ 6	8/ 4
<9>	ﾚﾄﾞﾆｯｸ	7/27～ 8/ 3	8/ 1
<10>	ﾋﾟｯﾌﾟ	8/ 4～ 8/12	8/ 9
<11>	ﾋﾟｯﾌﾟｻｰﾓﾝ	8/ 3～ 8/12	8/ 9
<12>	ｼｬﾎﾞﾝ	7/30～ 8/ 6	8/ 4

表 2　切花調査

品種名		切花長 (cm)	切花重 (g)	花首長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (cm)
<1>	ﾗｲﾁ	126.0	79.0	3.9	6.6	8.5
<2>	ｱﾊﾞﾀｰ	130.2	77.1	1.4	6.9	6.7
<3>	ﾌﾞﾗｰﾉ	102.7	77.5	1.3	8.1	8.8
<4>	ｱﾝﾃﾅ	132.4	80.3	4.0	7.7	12.5
<5>	ｱﾋﾞｰ	104.7	70.3	2.4	6.2	6.8
<6>	ﾒｰﾌﾟﾙ	136.2	71.3	4.1	6.9	10.0
<7>	ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ	125.5	78.5	3.3	7.6	8.4
<8>	ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ	132.0	74.1	2.3	6.7	10.9
<9>	ﾚﾄﾞﾆｯｸ	131.8	74.6	3.6	7.7	11.9
<10>	ﾋﾟｯﾌﾟ	116.3	70.9	3.4	7.1	10.2
<11>	ﾋﾟｯﾌﾟｻｰﾓﾝ	116.5	69.4	3.8	7.2	10.5
<12>	ｼｬﾎﾞﾝ	108.3	65.3	2.5	7.1	7.1

〈1〉ﾗｲﾁ

〈2〉ｱﾊﾞﾀｰ

〈3〉ﾌﾞﾗｰﾉ

〈4〉ｱﾝﾃﾅ

〈5〉ｱﾋﾞｰ

〈6〉ﾒｰﾌﾟﾙ

〈7〉ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ

〈8〉ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ

〈9〉ﾚﾄﾞﾆｯｸ

〈10〉ﾋﾟｯﾌﾟ

〈11〉ﾋﾟｯﾌﾟｻｰﾓﾝ

〈12〉ｼｬﾎﾞﾝ

2-5　調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討

１目的　「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　植付月日　令和３年５月 28 日

2)　栽植距離　うね幅 120 ㎝、株間 21 ㎝

3)　植付本数　3,968 本/10a

4)　施肥量　調査区①

N-P-K=25.0-33.2-22.5kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：91kg/10a

パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

令和３年６月 18 日

【追肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：96kg/10×４回

令和３年７月９日、19 日、28 日、８月 10 日

調査区②

N-P-K=24.9-33.4-16.6kg/10a

【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a

パワーリン(P:30%)：45kg/10a

調査区	資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a) N	P	K
①	【基肥】				
	発酵鶏糞堆肥	91	2.5	4.5	2.8
	パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
	【追肥】				
	発酵鶏糞堆肥	384	10.5	19.1	11.7
②	パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
	パワーリン	45	0.0	13.5	0.0

5)　収穫月日　令和３年 11 月 29 日

6)　薬剤散布　11 回(成分回数)

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区 6.3m（30 本）、１区制）

2)　供試品種　〈1〉園試系６（切片子）：80～100g

〈2〉庄司系（切片子）：80～100g

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

配合肥料「パワーアップながいも」のみの調査区が収量及びＡ品率について勝っていた。発酵鶏糞堆肥施用区はいもの尻部に肥料切れによると思われる奇形が多く見られた。

(2)　本年度の結果

1)　生育

萌芽揃期は６月 16 日頃であった。

６月中旬から７月中旬にかけては少雨、８月は降雨が続いたが、高温で推移したことから地上部の生育は順調であった。

茎葉の量は概ね例年並みであり、茎葉の黄化始めは調査区①、②ともに９月末頃となり、調査区①と②の間で黄化の進行に大きな差は見受けられなかった。強風等による葉落ちやツル切れは見られなかった。

病害虫については、葉渋病が一部で見られた。

2) 収量

いも重及び10a換算収量は、「園試系6」、「庄司系」ともに調査区②が多かった。また、いも重及び10a換算収量における調査区①及び調査区②の差は、「園試系6」で約93%、「庄司系」で約98%となった。

3) 品質

Ａ品率は「園試系6」、「庄司系」ともに調査区②が高かった。共通する落等要因は夏期の少雨によると思われるガンク下30～50㎝付近のボリューム不足であった。また、コブやリングは調査区①の方がやや多かったものの、肥料切れによると思われる尻部付近での発生は調査区①と調査区②の間で同程度であった。

今回の調査では発酵鶏糞堆肥を複数回に分けて施用したが、慣行区との比較で、収量は前回の8割前後から9割以上に、尻部付近のコブやリングの発生は同程度となった。これらから、発酵鶏糞堆肥を化成肥料の代替として使用するには、複数回の施用が重要と考えられた。

ただし、収量を慣行区並みに近づけるためには、発酵鶏糞堆肥の複数回施用に加え、種いもの大きさについても検討が必要と思われた。

表1　収量調査

調査区名	全長(cm)	全重(g)	いも長(cm)	いも重(g)	長径(mm)	Ａ品率(%)	10a換算収量(kg)	外品(kg/10a)	10a換算販売収量(kg)
園試系6①	67.7	924.2	42.8	829.3	56.3	49.3	3,291	0	3,291
園試系6②	67.7	903.8	44.6	847.5	56.0	55.5	3,363	17	3,346
庄司系①	67.0	874.4	44.0	801.7	54.7	48.0	3,181	47	3,135
庄司系②	72.7	940.1	50.1	859.8	55.0	56.6	3,412	44	3,368

※10a換算収量=いも重×植付数(3,968本/10)。10a換算販売収量=10a換算収量−外品。

表2　規格別収量及び収量割合

調査区名	項目	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外	合計
園試系6①	収量(kg/10a)	584	857	1,144	275	73	122	236	0	3,291
	割合(%)	(17.7)	(26.0)	(34.8)	(8.4)	(2.2)	(3.7)	(7.1)	(0)	
園試系6②	収量(kg/10a)	792	451	1,092	584	77	350	0	17	3,363
	割合(%)	(23.6)	(13.4)	(32.5)	(17.3)	(2.3)	(10.4)	(0)	(3.3)	
庄司系①	収量(kg/10a)	709	718	463	765	381	0	98	47	3,181
	割合(%)	(22.3)	(22.6)	(14.5)	(24.0)	(12.0)	(0)	(3.1)	(1.5)	
庄司系②	収量(kg/10a)	846	994	835	446	149	58	40	44	3,412
	割合(%)	(24.8)	(29.1)	(24.5)	(13.1)	(4.3)	(1.7)	(1.2)	(1.3)	

表3　等級割合（%）

調査区名	A	B	C	平	D	等級外	合計
園試系6①	49.3	40.9	8.5	0.0	1.3	0.0	100.0
園試系6②	55.5	38.1	4.0	0.0	1.9	0.5	100.0
庄司系①	48.0	27.9	22.6	0.0	0.0	1.5	100.0
庄司系②	56.6	21.9	15.7	0.0	4.9	0.9	100.0

表 4　障害発生率（本数%）

調査区名	平	下部	コブ・リング		曲がり	ﾎﾞﾘｭｰﾑ	他
		長方形	胴部	尻部		不足	
園試系6①	0.0	0.0	20.0	6.7	6.7	30.0	13.3
園試系6②	0.0	0.0	13.3	3.3	16.7	30.0	3.3
庄司系①	0.0	0.0	13.3	10.0	20.0	23.3	0.0
庄司系②	0.0	0.0	10.0	10.0	16.7	16.7	3.3

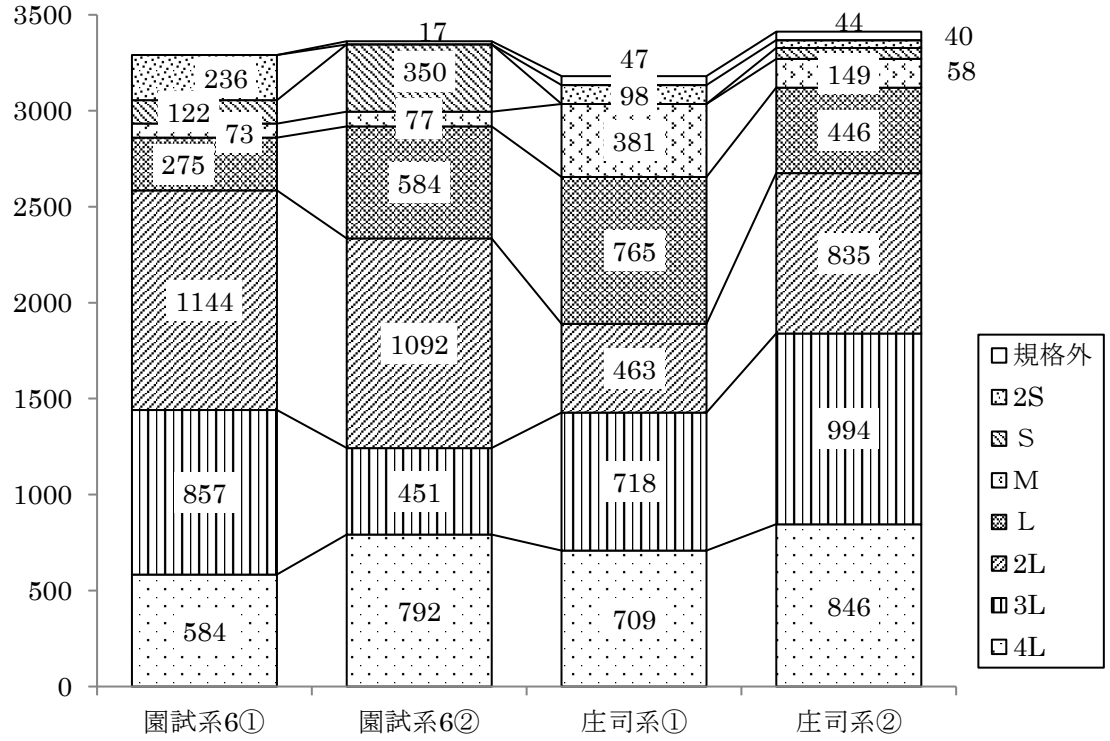


図 1　規格別収量（kg/10a）

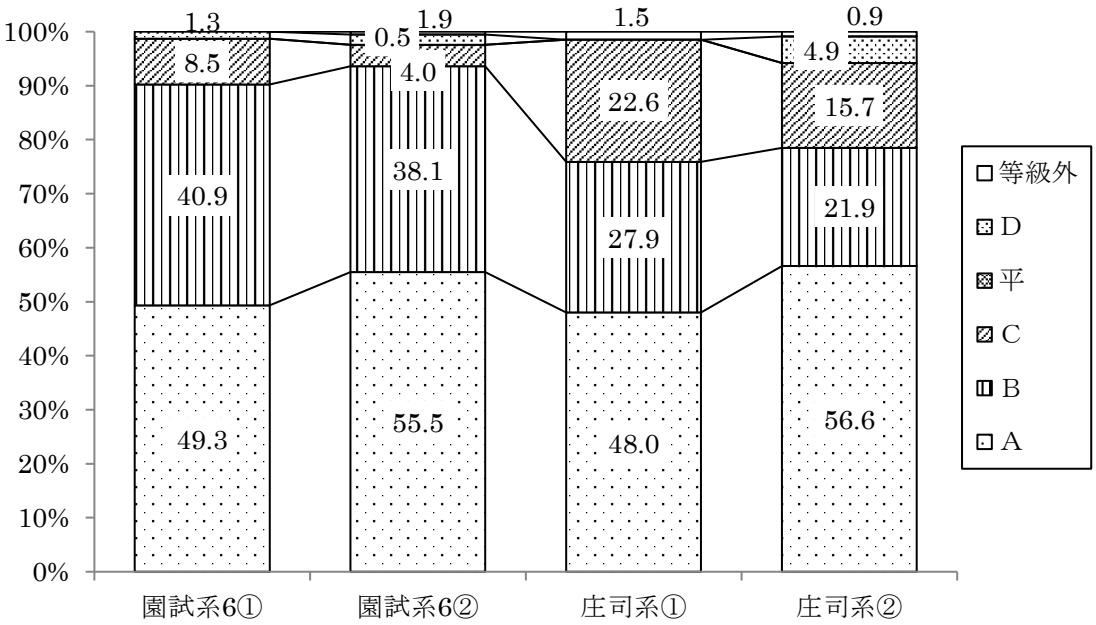


図 2　等級割合

園試系 6(調査区①)

園試系 6(調査区②)

庄司系(調査区①)

庄司系(調査区②)

2－6　土壌分析

1　目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2　分析実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼数(人)	26	5	19	13	16	9	13	44	47	8	9	16	225
ｻﾝﾌﾟﾙ数(件)	66	9	42	50	30	42	24	74	155	44	50	49	635
分　析　数	590	82	388	500	284	396	240	700	1,550	440	500	434	6,104

3　分析項目

1)　pH（H_2O・KCl）
2)　EC（電気伝導度）
3)　硝酸態窒素
4)　有効態リン酸
5)　リン酸吸収係数
6)　CEC（塩基置換容量）
7)　置換性カルシウム
8)　置換性マグネシウム
9)　置換性カリウム
10)　水分

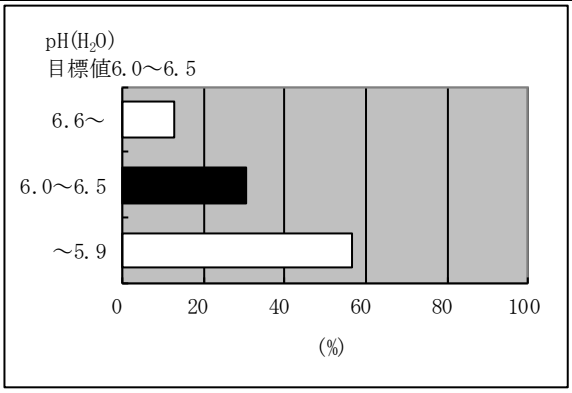
4　定点観測地点の概要

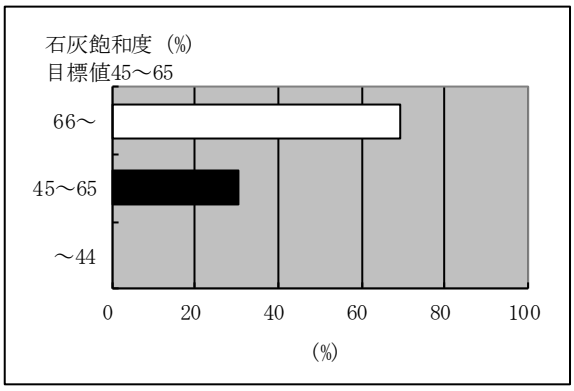
地 区 名	地点数		対　象　作　物	
市川地区	24	21	いちご	施設
		2	ミニトマト	
		1	花き	
下長地区	4	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	1	ながいも	露地
		1	ピーマン	
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館 地 区	8		ミニトマト	施設
是川地区	25	1	いちご	施設
		1	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		6	ながいも	露地
		6	夏ねぎ	
		6	秋ねぎ	
旧市内地区	2		トマト	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

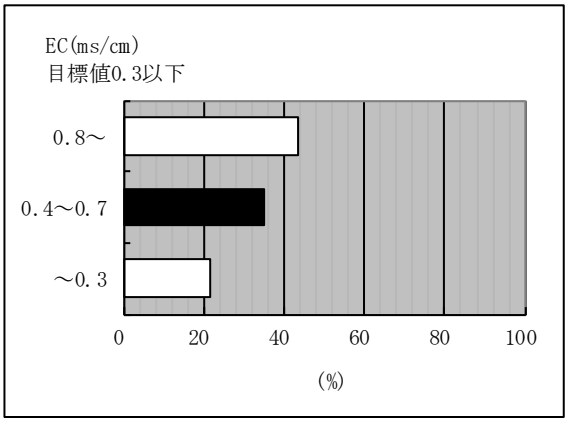
施設野菜（いちご）：23 地点
施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：21 地点
花き：3 点
露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：25 地点　　合計　72 地点

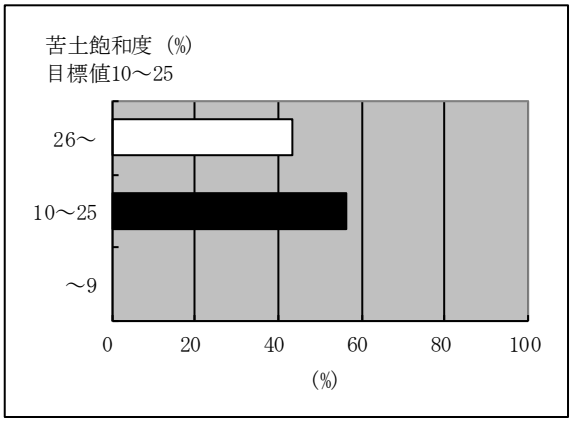
5　分析結果

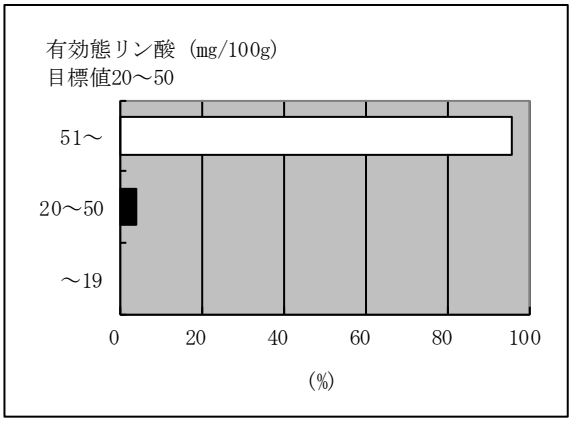
(1)　施設野菜（いちご）

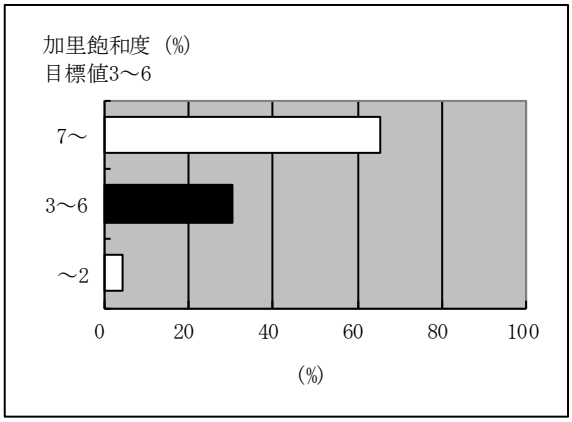


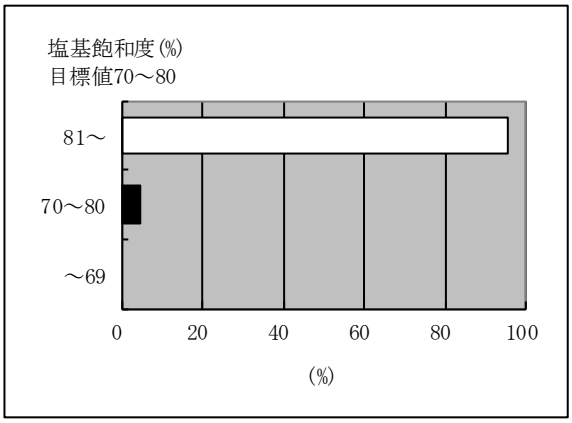










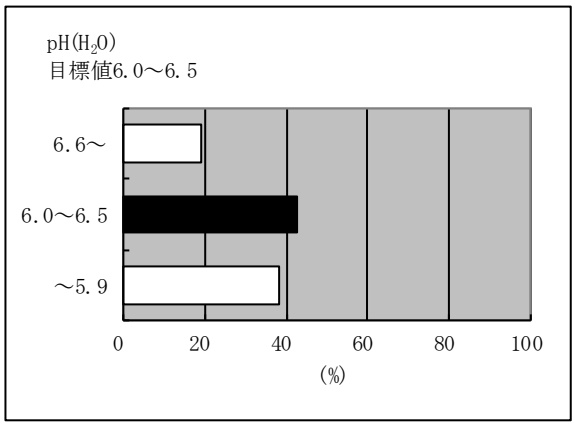


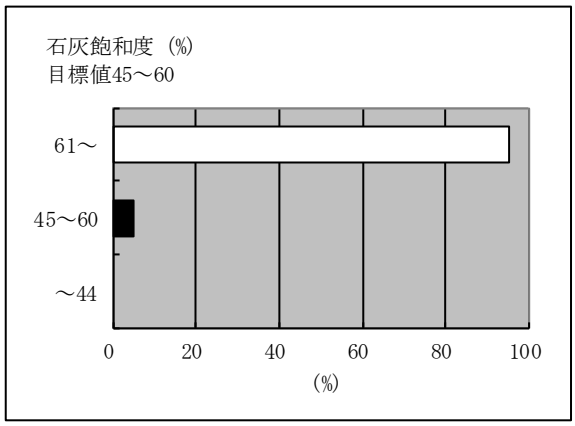
サンプル数：23件

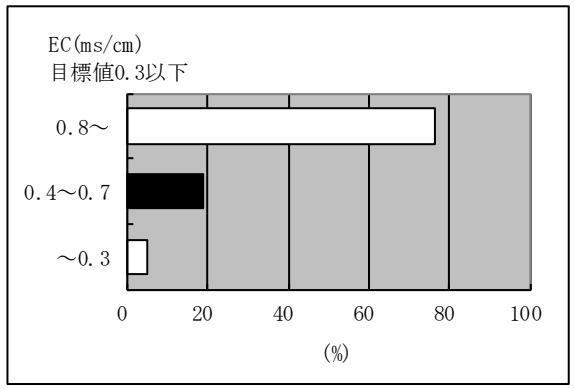
採取地区：市川、是川、日計

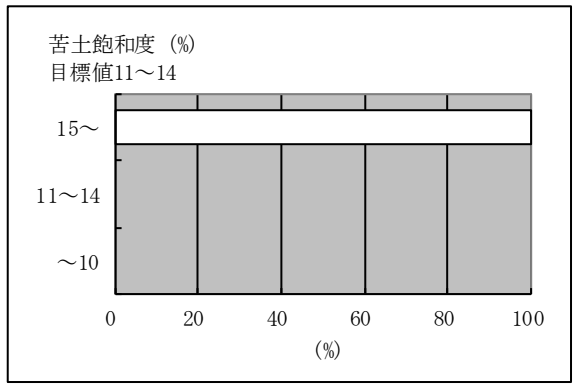
約80%のほ場でECが過剰
約90％のほ場でリン酸が過剰
約90％のほ場で塩基が過剰
約70%のほ場で石灰が過剰
約40%のほ場で苦土が過剰
約70％のほ場で加里が過剰

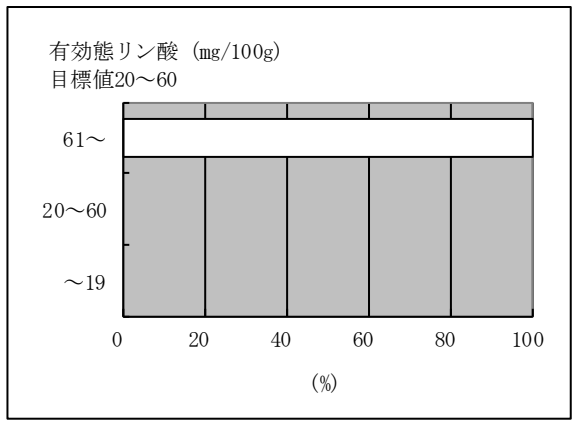
(2)　施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）

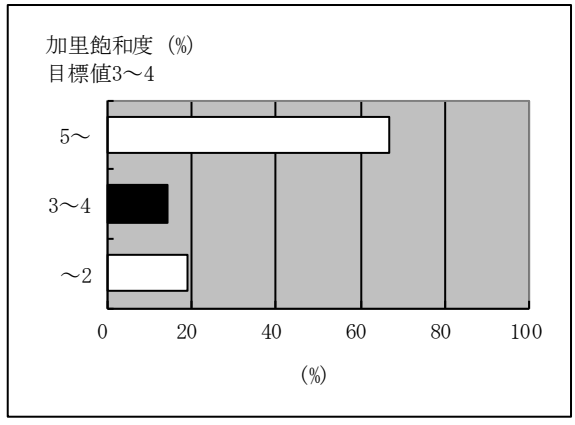


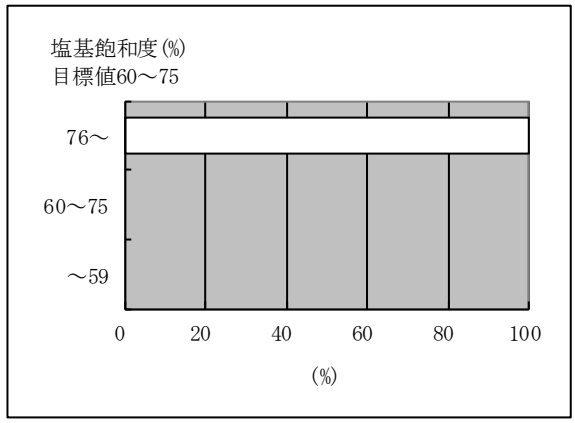










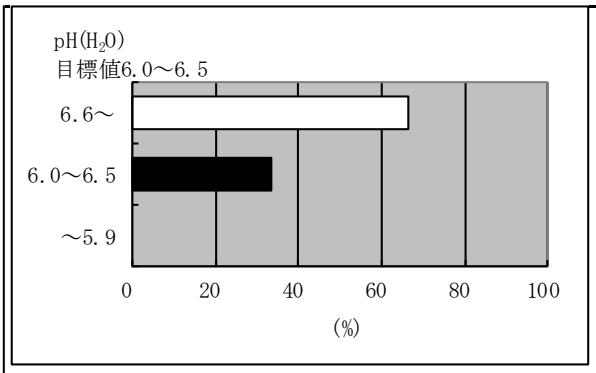


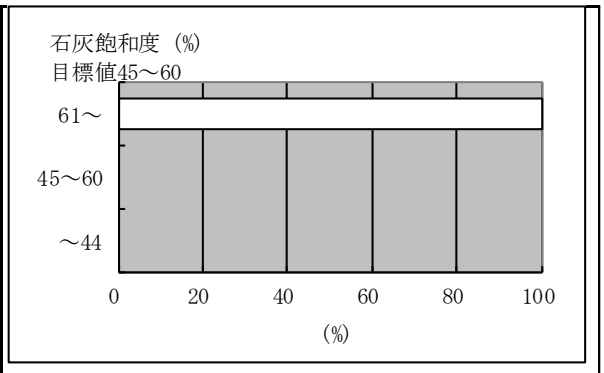
サンプル数：21件

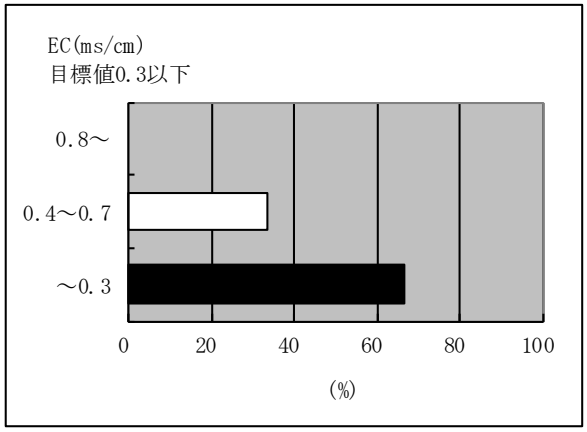
採取地区：市川・下長・館・是川
旧市内・南郷

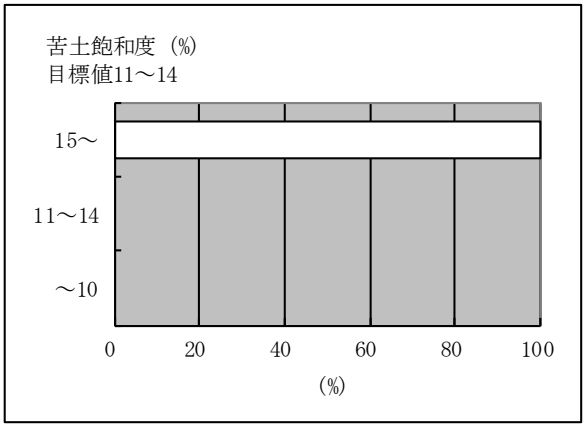
約90%のほ場でECが過剰
全てのほ場でリン酸が過剰
全てのほ場で塩基が過剰
約90%のほ場で石灰が過剰
全てのほ場で苦土が過剰
約60%のほ場で加里が過剰

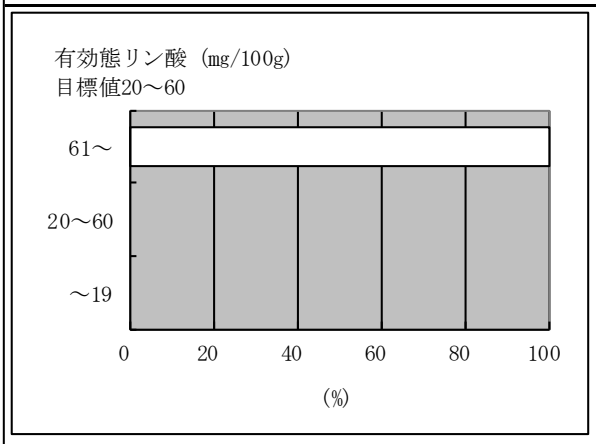
(3)　花き

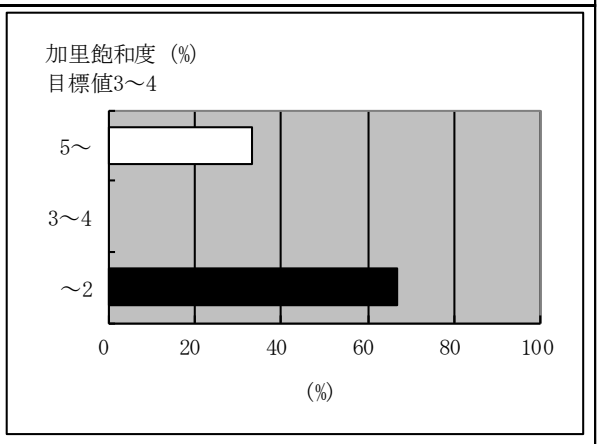


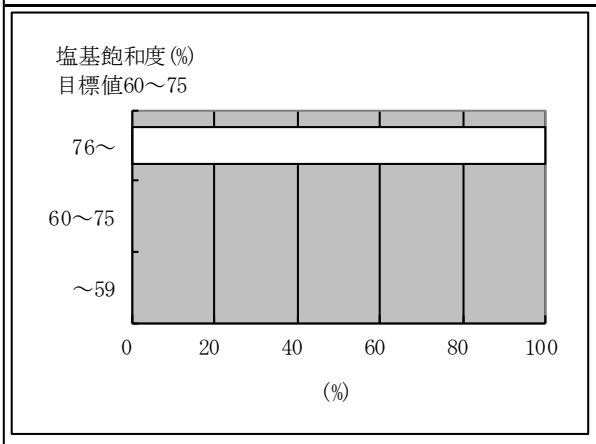










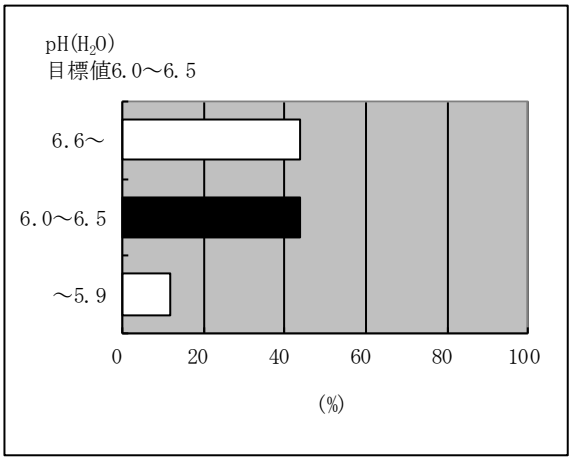


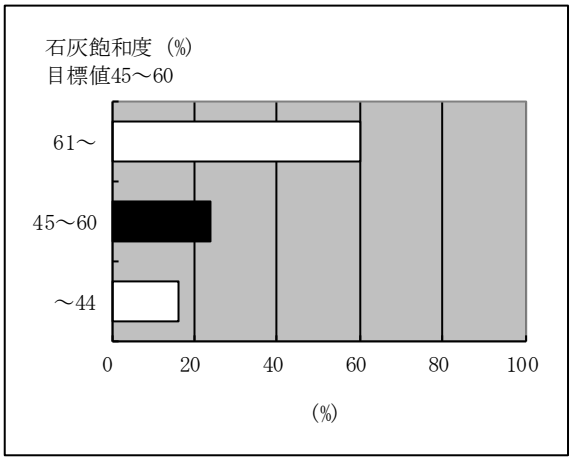
サンプル数：3件

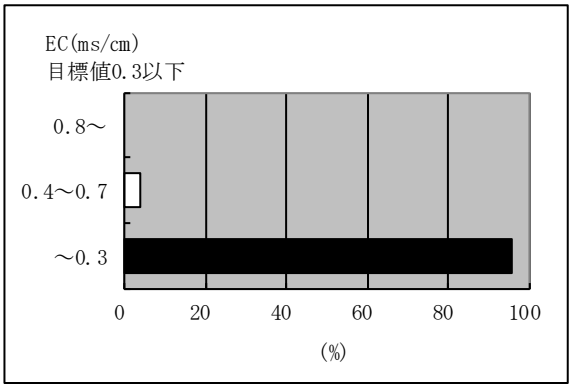
採取地区：市川・下長・是川

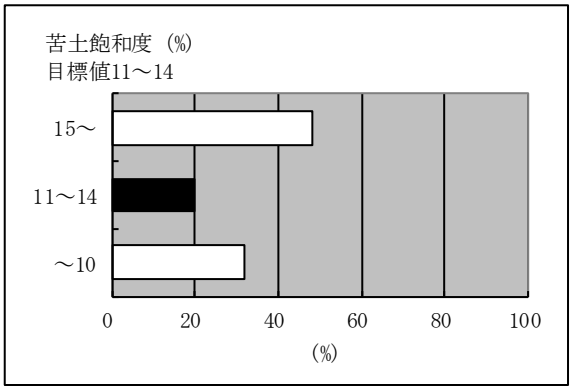
全てのほ場でリン酸が過剰
全てのほ場で塩基が過剰
全てのほ場で石灰が過剰
全てのほ場で苦土が過剰
約30%のほ場で加里が過剰

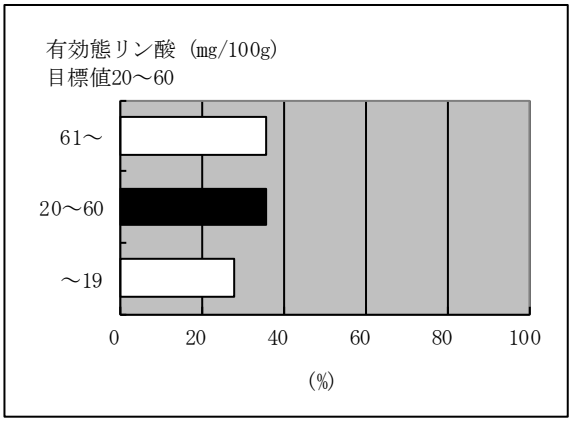
(4)　露地野菜（ながいも・にんにく・ねぎ等）

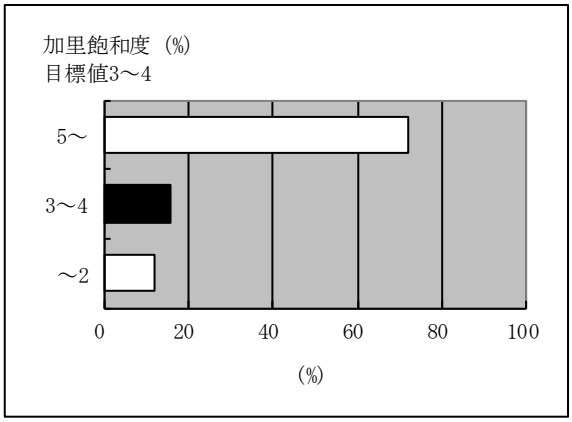


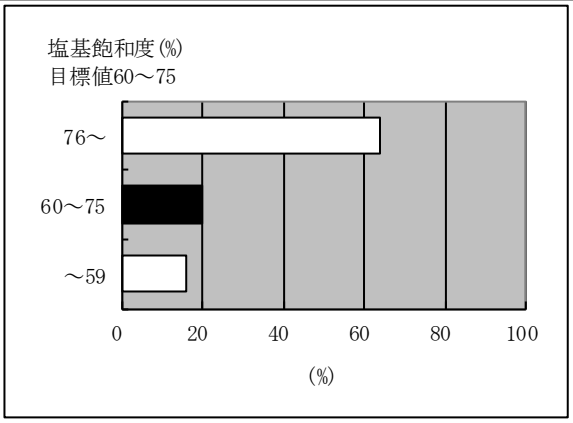












サンプル数：25件

採取地区：上長・豊崎・是川・南郷

約5%のほ場でECが過剰
約30%のほ場でリン酸が過剰
約60%のほ場で塩基が過剰
約60%のほ場で石灰が過剰
約50%のほ場で苦土が過剰
約70%のほ場で加里が過剰

2－7　植物組織培養

1　優良種苗の増殖実績

(1)　いちご・・・・・・・・(11 品種)

(2)　奥州菊・・・・・・・・(5 品種)

(3)　食用菊・・・・・・・・(4 品種)

2－8　市民農園設置事業

1　目的

自然環境の中での市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2　場所

八戸市農業経営振興センター内

3　期間

令和 3 年 4 月 18 日～11 月 21 日

4　募集区画面積及び利用者数

(1)　小区画（33 ㎡）：100 件　　(2)　中区画（66 ㎡）：45 件

(3)　大区画（99 ㎡）：31 件

5　対象

八戸市民（1 世帯につき 1 区画利用可能）

6　使用料

(1)　小区画（33 ㎡）：2,610 円　　(2)　中区画（66 ㎡）：5,220 円

(3)　大区画（99 ㎡）：7,830 円

7　主要施設

・休憩所（1 箇所）　・トイレ（2 基）　・電話（1 台）

・農業用水道（6 箇所）　・駐車場（1 箇所：1,000 ㎡）

8　主な作付け作物

【春】じゃがいも、まめ類、にんじん、だいこん、ねぎ

【秋】だいこん、ねぎ、はくさい、にんじん、ほうれんそう

2－9　農業体験学習

1　目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供した。

2　実績

(1)農業体験学習関係

①植付・は種・管理作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
5月20日	八戸幼稚園	33	さつまいも植付体験
5月24日	長者幼稚園	27	さつまいも植付体験
5月25日	イメルダ幼稚園	55	さつまいも植付体験
5月25日	白銀台保育園	28	さつまいも植付体験
5月27日	八戸学院幼稚園	29	さつまいも植付体験
8月20日	八戸幼稚園	11	だいこん播種・さつまいも除草体験
合計	6回	183	名

②収穫作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
10月18日	イメルダ幼稚園	27	さつまいも収穫体験
10月22日	長者幼稚園	37	さつまいも収穫体験
10月22日	八戸学院幼稚園	74	さつまいも収穫体験
10月27日	八戸幼稚園	28	さつまいも収穫体験
10月28日	白銀台保育園	56	さつまいも収穫体験
合計	5回	222	名

(2)農業体験生涯学習関係

①八戸市鷗盟大学指導

月日	団体名	人数	体験内容
4月20日	2学年	16	じゃがいもの植付
4月23日	1学年	12	じゃがいもの植付
5月14日	1学年	13	草花の育て方（座学）
5月28日	1学年	13	じゃがいもの手入れ
6月1日	2学年	18	じゃがいもの手入れ
8月4日	1学年・2学年	27	じゃがいもの収穫
8月20日	1学年	13	だいこん・かぶのは種
8月27日	2学年	17	だいこん・かぶのは種
9月10日	1学年	13	だいこん・かぶの間引き
9月21日	2学年	18	だいこん・かぶの間引き
11月6日	1学年	13	だいこん・かぶの収穫
11月15日	2学年	18	だいこん・かぶの収穫
合計	12回	191	名

2 - 10　農業講座

1　目的

優れた知識や新たな技術の習得により、農業の生産性向上と農家経営の安定を図り、当市農業の活性化を促進するため。

2　令和３年度八戸市農業講座の開催実績

	開催日	演題	講師	受講者数
第1回	7月6日（火）	儲かるいちご経営について（八戸の現行 4 品種でいかに高反収、高単価を目指していくか）	（地独）青森県産業技術センター農林総合研究所　花き・園芸部 伊藤　篤史　氏	25名
		農業経営振興センターでの栽培調査結果と今後の課題について	八戸市農業経営振興センター 技師　外和　昌大	25名
		鳥獣害対策について	八戸市農業経営振興センター 主事　島守　康洋	25名

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から第２回は開催中止。

2 - 11　家庭菜園講習会

1　目的

野菜づくりに必要な基本的な知識や技術の習得と地場野菜への関心を深めてもらうため。

2　実績

日時	場所	人数	内容
5月3日	八戸市花と緑に親しむ広場（八戸市を緑にする会主催）	10	園芸講習会「家庭菜園講習会」
6月27日	八戸市農業経営振興センター	30	家庭菜園講習会「夏・秋の野菜づくり」

合計　40名

2 - 12　施設利用実績

農業講座、家庭菜園講習会等の各種研修、並びに農業関係機関による農業振興に係る営農指導会議等の開催による研修室等における施設利用実績である。

1　来場者数

2,204名

※施設見学及び指導相談並びに土壌分析依頼・相談の件数

2　指導相談件数

102件

業務計画

【令和４年度】

所　　長	久　保　　昌　広
副 参 事 （生産振興グループリーダー）	中　山　　貢
副 参 事 （経営支援グループリーダー）	和　島　　将　彦
主　　幹	金　澤　　匡　志
主　　査	柳　谷　　悟
技　　査	田　茂　　竜　児
主　　査	三　戸　　由　香
主　　査	白　川　　大　祐
技　　査	幸　田　　洋　平
技　　査	戸　田　　瞳
主　　事	苫米地　　三由希
技　　師	佐々木　　達　也
技　　師	細　越　　敬太郎
技　　師	柴　田　　あかね

3－1 調査計画（施設野菜）

施設野菜の部　№1

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：令和３年度～令和５年度）

１目的　種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス４号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和３年５月 14 日（406 穴セルトレイ）
3)　移植月日　令和３年６月 29 日（10.5cm ポット）
※406 穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
4)　夜冷処理期間　令和３年７月 29 日～8 月 26 日
5)　夜冷処理日数　29 日
6)　夜冷処理方法　短日処理　８時間日長（16 時 30 分～翌８時 30 分遮光）
夜冷処理　13～15℃（16 時 30 分～翌８時 30 分）
7)　育苗日数　105 日
8)　定植年月日　令和３年８月 27 日
9)　栽植距離　うね幅 110 cm、ベッド幅 70cm、株間 25 cm、２条植え
10)　定植株数　640 株/棟
11)　施肥量　N-P-K=追肥状況による
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）
【追肥】大塚養液土耕６号（13.5-10-20）
12)　使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、あったかマルチ
13)　収穫期間　令和３年 10 月 25 日～令和４年６月中旬
14)　保温　内カーテン：令和３年 11 月 10 日～令和４年５月上旬
15)　加温　温風暖房機（5℃設定）：
令和３年 11 月 10 日～令和４年５月上旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　３区（１区 10 株、１区制）
<1>夜冷短日処理区
<2>電照長日処理区（定植後２週間 24 時間日長処理）
<3>9 月下旬定植区
2)　供試品種　よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

施設野菜の部　№2

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規：令和４年度～令和５年度）

１目的　新種子繁殖型いちご品種「すず」、「はるひ」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス４号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和３年５月 14 日（406 穴セルトレイ）
3)　移植月日　令和３年６月 29 日（10.5cm ポット）
※406 穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
7)　育苗日数　133 日
8)　定植年月日　令和３年９月 24 日
9)　栽植距離　うね幅 110 cm、ベッド幅 70cm、株間 25 cm、２条植え
10)　定植株数　640 株/棟
11)　施肥量　N-P-K=追肥状況による
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）
【追肥】大塚養液土耕６号（13.5-10-20）
12)　使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、あったかマルチ
13)　収穫期間　令和３年 12 月３日～令和４年６月中旬
14)　保温　内カーテン：令和３年 11 月 10 日～令和４年５月上旬
15)　加温　温風暖房機（5℃設定）：
令和３年 11 月 10 日～令和４年５月上旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　３区（１区 10 株、１区制）
2)　供試品種　<1>すず　(株)ミヨシ・三重県）
<2>はるひ　(株)ミヨシ・三好アグリテック(株)）
<3>よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

施設野菜の部　№3

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室５号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和３年 12 月 27 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和４年１月 21 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和４年２月 22 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
6)　定植株数　320 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和４年５月上旬～7 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和４年５月下旬
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和４年５月上旬
12)　摘心　令和４年５月下旬（８段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区 10 株、１区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉CF 桃太郎はるか　（タキイ種苗㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№4

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室３号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和４年２月 28 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和４年３月 17 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和４年４月 18 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
6)　定植株数　320 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッドＧ（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和４年６月上旬～10 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和４年５月下旬、９月中旬～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和４年５月上旬
12)　摘心　令和４年９月中旬（20 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（１区 10 株、１区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか 409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№5

項　目：品種比較調査

調査名：**トマトの抑制栽培における品種比較調査**（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室５号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和４年６月上旬（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和４年６月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　栽植距離　ベッド幅 120 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え

5)　定植株数　320 株/棟

6)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）

7)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～９月中旬）。

8)　収穫期間　令和４年８月下旬～11 月下旬

9)　保温　内カーテン：９月中旬～収穫終了日

10)　加温　温風暖房機（8℃設定）：11 月上旬～収穫終了日

11)　摘心　令和４年９月下旬（６段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（１区 10 株、１区制）

2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか 409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№6

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス２号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和３年 12 月 27 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和４年１月 21 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和４年２月 21 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
6)　定植株数　228 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッドＧ（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和４年５月上旬～7 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和４年５月下旬
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和４年５月上旬
12)　摘心　令和４年５月下旬（８段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（１区５株、１区制）
2)　供試品種　〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈4〉C7-276　(㈱サカタのタネ)
〈5〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№7

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス１号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和４年２月 28 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和４年３月 17 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和４年４月 12 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
6)　定植株数　228 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッドＧ（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和４年６月上旬～10 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和４年５月下旬、９月中旬～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和４年５月上旬
12)　摘心　令和４年９月中旬（20 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　８区（１区５株、１区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈4〉C7-276　(㈱サカタのタネ)
〈5〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈6〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)
〈7〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈8〉T833　(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№8

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス２号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和４年６月上旬（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和４年６月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え

5)　定植株数　228 株/棟

6)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、～収穫開始）

7)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～９月中旬）。

8)　収穫期間　令和４年８月下旬～11 月下旬

9)　保温　内カーテン：９月中旬～収穫終了日

10)　加温　温風暖房機（8℃設定）：11 月上旬～収穫終了日

11)　摘心　令和４年９月下旬（６段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　６区（１区５株、１区制）

2)　供試品種
〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈4〉C7-276　(㈱サカタのタネ)
〈5〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈6〉T833　(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

3-2 調査計画（露地野菜）

露地野菜の部　№1

項目：品種比較調査
調査名：ねぎの品種比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　　当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要

1)　育　苗　方　法　　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き

2)　は種及び定植月日

	〈は　種〉	〈定　植〉
７月収穫	：令和４年１月６日	令和４年３月 30 日
９月収穫	：令和４年３月 31 日	令和４年５月中旬
10 月収穫	：令和４年５月中旬	令和４年６月中旬

3)　栽　植　距　離　　うね幅 100 ㎝、株間５㎝（２粒播き）

4)　定　植　本　数　　40,000 本/10a

5)　施　　肥　　量　　N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×２回

6)　使　用　資　材　　７月収穫　：パワーリン(P:30%):60kg/10a
アヅミン(Mg:3%)：40k/10a
リン酸カリ溶液(リン酸濃度 1.15%)を定植１週間前及び定植当日に苗箱へ潅注:1L/箱
９月及び 10 月収穫：
パワーリン(P:30%):120kg/10a
アヅミン(Mg:3%)：40k/10a
過リン酸石灰(P:20.5%):16.6kg/10a×２回

7)　収　穫　月　日　　７月収穫　：令和４年７月下旬
９月収穫　：令和４年９月中旬
10 月収穫：令和４年 10 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調　　査　　区　　25 区（１区 40 本（1.0m）、１区制）

2)　供　試　品　種

７月収穫	９月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	㈱サカタのタネ
夏秋白扇５号	夏秋白扇５号	夏秋白扇５号	吉田種苗㈱
みちのく 701 はやぶさ７	みちのく 701 はやぶさ７	みちのく 701 はやぶさ７	㈱パセリー菜
MKS-N40 MKS-N43	秋の宝山 MKS-N40 MKS-N43	秋の宝山 MKS-N40 MKS-N43	みかど協和㈱
名月一文字	名月一文字	名月一文字	タキイ種苗㈱
	森のめざめ	森のめざめ	トキタ種苗㈱

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

露地野菜の部　№2

項目：品種比較調査
調査名：ピーマンの品種比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日

〈は　種〉	〈定　植〉
①4月定植：令和４年２月15日	令和４年４月25日 （定植直後アイホッカ１枚トンネル被覆）
②5月定植：令和４年３月15日	令和４年５月中旬 （定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

4)　定植株数　1,300株/10a

5)　施肥量
〈4月定植〉
N－P－K＝47.9-21.1-34.6 kg/10a
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10)：166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×5回
〈5月定植〉
N－P－K＝44.3-20.2-31.0 kg/10a
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10)：166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×4回

6)　使用資材　あったかマルチ、15㎝×5目フラワーネット（3段）

7)　収穫期間　令和４年６月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　〈1〉ピクシー　（横浜植木㈱）
〈2〉P-2020　（㈱パセリー菜）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№3

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続：令和３年度～令和５年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和４年３月15日　〈定　植〉令和４年５月中旬（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

4)　定植株数　1,300株/10a

5)　施肥量

【施肥量】

	〈基肥〉(kg/10a) 新豊作太郎800 (18-10-10)	〈基肥〉(kg/10a) パワーリン (P:30%)	〈追肥〉(kg/10a) くみあい燐硝安加里S646 (16-4-16)
①	166	0	22.5×4回
②	166	0	18.0×5回
③	133	6	31.9×4回
④	133	6	25.5×5回

【成分量】

	〈基肥〉(kg/10a)			〈追肥〉(kg/10a)			合計 (kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
①	29.9	16.6	16.6	14.4	3.6	14.4	44.3	20.2	31.0
②	29.9	16.6	16.6	14.4	3.6	14.4	44.3	20.2	31.0
③	23.9	15.1	13.3	20.4	5.1	20.4	44.3	20.2	33.7
④	23.9	15.1	13.3	20.4	5.1	20.4	44.3	20.2	33.7

【追肥時期】

①定植後60日、以降概ね20日おき　計４回
②定植後60日、以降概ね15日おき　計５回
③定植後60日、以降概ね20日おき　計４回
④定植後60日、以降概ね15日おき　計５回

２回目以降の追肥間隔は草勢及び天候により調整

6)　使用資材　あったかマルチ、15㎝×5目フラワーネット(3段)

7)　収穫期間　令和４年６月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№4

項目：栽培技術調査
調査名：ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　令和４年３月15日　〈定　植〉　令和４年５月中旬（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　整枝方法　①第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝
②第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝、９月上旬に摘心

4)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

5)　定植株数　1,300株/10a

6)　施肥量　N－P－K＝44.3-20.2-31.0 kg/10a
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10)：166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×4回

7)　使用資材　あったかマルチ、15㎝×5目フラワーネット(3段)

8)　収穫期間　令和４年６月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№5

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法（生育初期）による収量比較調査

（新規：令和４年度～令和６年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和４年３月15日　〈定　植〉令和４年５月中旬（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　整枝方法　①第２分枝を主枝４本、第３分枝を８本に整枝、以降適宜整枝
②第２分枝を主枝４本、第３分枝を８本、第４分枝を10本に整枝、以降適宜整枝

4)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

5)　定植株数　1,300株/10a

6)　施肥量　N－P－K＝44.3-20.2-31.0 kg/10a
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10)：166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×４回

7)　使用資材　あったかマルチ、15㎝×５目フラワーネット(３段)

8)　収穫期間　令和４年６月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３－３調査計画（花き）

花きの部　No.1

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7～8 月出荷)（新規：令和 4 年度～令和 5 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7～8 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　パイプハウス 11 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕　種　概　要

1)　栽　培　方　法　　土耕栽培

2)　は 種 年 月 日　　令和 4 年 2 月 18 日

3)　定 植 年 月 日　　令和 4 年 4 月 15 日

4)　栽　植　距　離　　ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)

5)　定　植　株　数　　2,720 本/棟

6)　施　　肥　　量　　基肥 N-P-K=1.50-1.00-1.50 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する

7)　使　用　資　材　　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット、メガクール

8)　収　穫　時　期　　令和 4 年 7 月下旬～8 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調　　査　　区　　15 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供　試　品　種

No.	品種名	早晩性	花径	花色	会社名
〈1〉	ﾋﾟｭｱﾎﾜｲﾄ	中早生	大	白	㈱ミヨシ
〈2〉	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭ 2 型ｲｴﾛｰ ver3	中生	大	黄	㈱サカタのタネ
〈3〉	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭ 2 型ﾌﾞﾙｰ ver.2	中生	大	濃紫	㈱サカタのタネ
〈4〉	ﾎﾞﾝ・ﾎﾞﾔｰｼﾞｭ 2 型ﾍﾞﾋﾞｰﾋﾟﾝｸ	中生	大	白桃	㈱サカタのタネ
〈5〉	ｿﾛ PF ﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ ver.2	中生	小	白紫	㈱サカタのタネ
〈6〉	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
〈7〉	ｴｸﾞｾﾞｸﾞﾘｰﾝ	中生	大	緑	カネコ種苗㈱
〈8〉	ﾌﾞﾗｯｸﾊﾞｰﾄﾞ	中生	中大	濃紫	タキイ種苗㈱
〈9〉	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
〈10〉	ﾌﾟﾘﾏ 3 型ｲｴﾛｰ	中晩生	大	黄	タキイ種苗㈱
〈11〉	ﾍﾞｰﾙ 3 型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗㈱
〈12〉	ｾﾚﾌﾞ 3 型ｺｽﾒ	中晩生	大	桃	住化農業資材㈱
〈13〉	ｴﾚｶﾞﾝｽｸﾞﾘｰﾝ	中晩生	大	緑	住化農業資材㈱
〈14〉	ﾌｨｰﾉﾎﾜｲﾄ	中晩生	中小	白	カネコ種苗㈱
〈15〉	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

(4)　調　査　項　目　　開花、切花

花きの部　No.2

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷)（新規：令和4年度～令和5年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス9号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　令和4年3月2日
3)　定植年月日　令和4年6月上旬
4)　栽植距離　ベッド幅60㎝、株間10㎝、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
5)　定植株数　2,720本/棟
6)　施肥量　基肥 N-P-K=1.50-1.00-1.50 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する
7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
8)　遮光・遮熱　メガクール（期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する）
9)　収穫時期　令和4年9月上旬～9月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　16区（1区10株、1区制）
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	花色	会社名
<1>	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭ2型ﾌﾞﾙｰver.2	中生	大	濃紫	㈱サカタのタネ
<2>	ﾎﾞﾝ・ﾎﾞﾔｰｼﾞｭ2型ﾍﾞﾋﾞｰﾋﾟﾝｸ	中生	大	白桃	㈱サカタのタネ
<3>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<4>	ﾋﾟｭｱﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	㈱ミヨシ
<5>	ｿﾛPFﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<6>	ｴﾚｽﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中晩生	中大	薄桃	カネコ種苗㈱
<7>	ﾌｨｰﾉﾎﾜｲﾄ	中晩生	中小	白	カネコ種苗㈱
<8>	M21-5	中晩生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<9>	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
<10>	ﾌﾟﾘﾏ3型ｲｴﾛｰ	中晩生	大	黄	タキイ種苗㈱
<11>	ﾍﾞｰﾙ3型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗㈱
<12>	ﾐﾝｸﾊﾟｯｼｮﾝ	中晩生	中小	赤	タキイ種苗㈱
<13>	ｾﾚﾌﾞ3型ｲｴﾛｰ	中晩生	大	黄	住化農業資材㈱
<14>	ｴﾚｶﾞﾝｽｼｬﾝﾊﾟﾝ	中晩生	大	橙	住化農業資材㈱
<15>	PFﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ
<16>	ｵｰﾌﾞﾚｯﾄﾞ	晩生	大	赤	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.3

項　目：栽培技術調査

調査名：トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査(9 月出荷)

（継続：令和 3 年度～令和 4 年度）

１目的　トルコギキョウの赤色 LED 電照処理により開花抑制が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 4 年 3 月 2 日

3)　定植年月日　令和 4 年 6 月上旬

4)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10㎝、4 条植え(中 2 条抜き)

5)　定植株数　2,720 本/棟

6)　施肥量　基肥 N-P-K=1.50-1.00-1.50 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する

7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット、メガクール、赤色 LED ライト（620nm～630nm）

8)　電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和 4 年 6 月上旬（定植後）～収穫終了日
※16：00～8：00（16 時間電照）

9)　遮光　メガクール（期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する）

10)　収穫時期　令和 4 年 9 月上旬～9 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　14 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	花色	会社名
<1	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<2>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<3>	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
<4>	ﾍﾞｰﾙ 3 型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗㈱
<5>	ｴﾚｶﾞﾝｽｼｬﾝﾊﾟﾝ	中晩生	大	橙	住化農業資材㈱
<6>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ
<7>	ｵｰﾌﾞﾚｯﾄﾞ	晩生	大	赤	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.4

項　目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続：令和 2 年度～令和 4 年度）

１目的　カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1）栽培方法　土耕栽培

2）は種年月日　令和 3 年 9 月 30 日

3）定植年月日　令和 3 年 11 月 12 日

4）仕立て法　調査区②令和 3 年 12 月 28 日に摘心
調査区①、③、④令和 4 年 1 月 6 日に摘心

5）栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 20 ㎝、条間 40cm、2 条植え（中 1 条抜き）

6）定植株数　540 株/棟

7）施肥量　N-P-K=1.00-1.05-1.80 kg/a
（基肥）ビオン 068（10-6-8）：10.0 kg/a
パワーリン（P:30）：1.5 kg/a
硫酸加里（K:50）：2.0 kg/a

8）使用資材　バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm）、20cm×3 目フラワーネット

9）電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和 3 年 11 月 12 日（定植後）～収穫終了日
調査区③　令和 3 年 12 月 28 日（摘心後）～収穫終了日
調査区④　令和 4 年 2 月 1 日～収穫期まで
※いずれも 22:00～2:00 の暗期中断とする

10）収穫時期　令和 4 年 4 月 22 日～6 月上旬

(3)　調査区の構成

1）調査区　16 区（1 区 5 株、1 区制）

2）供試品種

No.	品種名	花色	会社名
〈1〉	チャンピオンホワイト	白	㈱サカタのタネ
〈2〉	チャンピオンスカイブルー	青紫	㈱サカタのタネ
〈3〉	チャンピオン IQ ピンク	桃	㈱サカタのタネ
〈4〉	チャンピオン IQ ディープブルー	濃紫	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)（継続：令和 3 年度～令和 4 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、8 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 8 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　定植年月日　令和 4 年 5 月上旬（直挿し）

3)　栽植距離　ベッド幅 80 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10㎝、6 条植え（中 2 条抜き）

4)　定植株数　3,600 本/棟

5)　わい化剤処理　ビーナイン顆粒水溶剤を散布
※濃度及び散布回数は生育状況による

6)　施肥量　N-P-K=1.5-0.5-1.5 kg/a
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する

7)　使用資材　10㎝×8 目フラワーネット、黒マルチ

8)　電照期間　定植後～6 月中旬　22:00～3:00（暗期中断）

9)　シェード管理　令和 4 年 6 月中旬～収穫終了日　18:00～7:00（11 時間日長）

10)　収穫時期　令和 4 年 8 月上旬～8 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　12 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
〈1〉	ｱﾋﾞｰﾌﾚｰﾑ	ｵﾚﾝｼﾞ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈2〉	ﾏﾗｹｼｭ	ｵﾚﾝｼﾞ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈3〉	ﾌﾞﾚｲｸ	ﾋﾟﾝｸ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈4〉	ｸﾁｭｰﾙ	ﾋﾟﾝｸ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈5〉	ﾌｫｰｷｬｽﾄ	ﾀﾞｰｸﾋﾟﾝｸ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈6〉	ﾚﾄﾞﾆｯｸ	ﾎﾜｲﾄ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈7〉	ｴﾋﾞﾃﾞﾝｽ	ﾎﾜｲﾄ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈8〉	ｱﾙﾍﾞﾗ	ﾗｲﾄｸﾞﾘｰﾝ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈9〉	ｽｹｰﾀｰ	ｸﾞﾘｰﾝ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈10〉	ﾌｪｺﾞﾀﾞｰｸ	ﾚｯﾄﾞ/ｲｴﾛｰ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈11〉	ﾚﾓﾝﾍｯﾄﾞ	ﾀﾞｰｸｲｴﾛｰ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
〈12〉	ﾀﾝﾎﾞｰﾗ	ﾌﾞﾛﾝｽﾞ	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ

(4)　調査項目　開花、切花

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果及び種いも重の検討

１目的　「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　植付月日　令和４年５月下旬

2)　栽植距離　うね幅 120 cm、株間 21 cm

3)　植付本数　3,968 本/10a

4)　種いも　①切片子：80～100g
②切片子：100～120g

5)　施肥量　調査区①
N-P-K=24.9-42.2-27.8kg/10a
【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.4-6.1-3.7)：104kg/10a
パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a
【追肥】発酵鶏糞堆肥(2.4-6.1-3.7)：108kg/10×4 回
7 月上旬から 10 日おきに計 4 回
調査区②
N-P-K=24.9-42.1-16.6kg/10a
【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a
パワーリン(P:30%)：74kg/10a

調査区	資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a) N	P	K
①	【基肥】				
	発酵鶏糞堆肥	104	2.5	6.3	3.8
	パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
	【追肥】				
	発酵鶏糞堆肥	432	10.4	26.3	16.0
②	パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
	パワーリン	74	0.0	22.2	0.0

6)　収穫月日　令和４年 11 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　８区（1 区 6.3m（30 本）、１区制）

2)　供試品種　〈1〉園試系 6
〈2〉庄司系

(4)　調査項目　生育、収量、品質

3－5　土壌分析

1　目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2　分析項目

1)　pH（H_2O・KCl）
2)　EC（電気伝導度）
3)　硝酸態窒素
4)　有効態リン酸
5)　リン酸吸収係数
6)　CEC（塩基置換容量）
7)　置換性カルシウム
8)　置換性マグネシウム
9)　置換性カリウム
10)　水分

3　定点観測地点の概要

地 区 名	地点数		対　象　作　物	
市川地区	24	21	いちご	施設
		2	ミニトマト	
		1	花き	
下長地区	4	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	1	ながいも	露地
		1	ピーマン	
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館 地 区	8		ミニトマト	施設
是川地区	25	1	いちご	施設
		1	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		7	ながいも	露地
		6	夏ねぎ	
		5	秋ねぎ	
旧市内地区	2		トマト	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

施設野菜（いちご）：23 地点
施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：21 地点
花き：3 点
露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：25 地点　　合計　72 地点

3 - 6　植物組織培養

1　優良種苗の増殖計画

1)　いちご・・・・・・・・(11 品種)

2)　奥州菊・・・・・・・・(5 品種)

3)　食用菊・・・・・・・・(4 品種)

3 - 7　市民農園設置事業

1　目的

自然環境の中での市民が家庭ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2　場所

八戸市農業経営振興センター内

3　期間

令和 4 年 4 月 17 日～11 月 20 日

4　面積及び募集区画数

小区画（33 ㎡）、中区画（66 ㎡）：小区画換算 240 区画

5　対象

八戸市民（1 世帯につき 1 箇所の区画を利用可能）

6　使用料

小区画（33 ㎡）：2,610 円

中区画（66 ㎡）：5,220 円

7　主要施設

・休憩所（1 箇所）　・トイレ（2 基）　・農業用水道（6 箇所）　・駐車場（1 箇所：1,000 ㎡）

3－8　農業体験学習

1　目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供する。

2　計画

事業名	目的	内容	対象
農業体験学習	食育の一環として、農作物を育て収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深める。	・農作物（さつまいも、だいこん等）の植付け、は種及び収穫 ・八戸市の農業に関する座学及び農業経営振興センターの施設見学 ・農業経営振興センター職員が、園（校）内にて栽培等の指導を行う農業体験出前講座　等	市内幼稚園、保育園、小学校、中学校等

【ガラス温室】

	作物名	調査区分	～R3	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	いちご（高設・夏秋）	展示栽培				●定植3/30	━━━	━━━	■収穫6中	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	□収穫12下
2号	共通育苗	－													
3号	－	－													
4号	－	－													
5号	トマト（促成）	品種比較	▲は種12/27		●定植2/22	━━━	━━━	■収穫5上	━━━	━━━	□収穫7下				
	トマト（抑制）	品種比較							▲は種6上	●定植6下	━━━	■収穫8下	━━━	━━━	□収穫11下
6号	アスター（抑制）	展示栽培							▲は種6上	●定植7上	━━━	■収穫9中			
7号	トマト（夏秋）	品種比較			▲は種2/28		●定植4/18	━━━	■収穫6上	━━━	━━━	━━━	━━━	□収穫10下	
8号	トルコギキョウ（抑制）	品種比較					▲は種4/26			●定植7上	━━━	━━━	■収穫10上		

【パイプハウス】

	作物名	調査区分	～R3	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	ミニトマト（夏秋）	品種比較			▲ は種2/28		● 定植4/12		■ 収穫6上				□ 収穫10下		
2号	ミニトマト（促成）	品種比較	▲ は種12/27		● 定植2/21		■ 収穫5上			□ 収穫7下					
	ミニトマト（抑制）	品種比較						▲ は種6上	● 定植6下		■ 収穫8下		□ 収穫11下		
3号	花き育苗	－													
4号	いちご（促成）	品種比較							□ 収穫～6中		● 定植8下		■ 収穫11下～		
5号	いちご（促成）	品種特性							□ 収穫～6中		● 定植8下		■ 収穫11下～		
6号	ほうれん草（寒締め）	品種比較										▲ は種9下			■ 収穫12下
7号	いちご（半促成）	展示栽培				■ 収穫3/11			□ 収穫6中						
	スナップエンドウ（夏まき）	展示栽培								▲ は種7中		■ 収穫9上	□ 収穫10下		
	こまつな	展示栽培												▲ は種11下	
8号	ディスバッドマム	展示栽培						● 定植5中			■ 収穫8上				

【パイプハウス】

	作物名	調査区分	～R3	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
9号	トルコギキョウ（抑制）	栽培技術				▲ は種3/2			● 定植6上			■ 収穫9上中			
10号	いちご（夏秋）	品種比較					● 定植3/29		■ 収穫6上						□ 収穫12下
11号	トルコギキョウ	品種比較			▲ は種2/18		● 定植4/15				■ 収穫8上				
	ストック	展示栽培									▲ は種8上	● 定植8下			■ 収穫12中
12号	―	―													
13号	いちご（親株）	―						■	□ 採苗5/中～7上			● 植付9中			
14号	―	―													
15号	デルフィニウム	展示栽培			▲ は種2/16		● 定植3/24			■ 収穫7上中					
16号	いちご（半促成）	展示栽培				■ 収穫3/14			□ 収穫6中			● 定植8下			

【露地野菜】

作物名	調査区分	～R3	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ねぎ	品種比較 栽培技術	▲ は種1/6			● 定植3/30	■	■	■	■ 収穫7下					
					▲ は種3/30		● 定植5中	■	■	■	■ 収穫9中			
							▲ は種5中	● 定植6中	■	■	■	■ 収穫10下		
ピーマン	品種比較 栽培技術			▲ は種2/15		● 定植4/25	■	■ 収穫6中	■	■	■	□ 収穫10下		
					▲ は種3/15		● 定植5中	■ 収穫6中	■	■	■	□ 収穫10下		
ながいも	耕畜連携							● 植付5下	■	■	■	■	■ 収穫11下	
にんにく	栽培技術	● 植付10/7	■	■	■	■	■	■	■ 収穫6下,7上			● 植付10上	■	■
糠塚きゅうり	展示栽培					▲ は種4/14	● 定植5中	■ 収穫6中	■	■	□ 収穫8中			
食用菊	展示栽培							● 植付6中	■	■	■ 収穫9中	■	□ 収穫11上	

【露地花き】

作物名	調査区分	～R3	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アスター	展示栽培	▲ は種4/6	● 定植5中	━━						■ 収穫8上				
葉牡丹	展示栽培								▲ は種7中	● 定植8上	━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━	■ 収穫10上		
スノーボール	展示栽培						■ 収穫5/9～							
スモークツリー	展示栽培							■ 収穫6中						
ヒペリカム	展示栽培								■ 収穫7下					
姫ヒマワリ	展示栽培								■ 収穫7下					
ソリダコ	展示栽培									■ 収穫8上				
ソリダスター	展示栽培									■ 収穫8上				

発行：八戸市農業経営振興センター（令和４年５月）

〒番号　039-1101
住　所　青森県八戸市大字尻内町字毛合清水 29
電　話　0178-27-9163
ＦＡＸ　0178-27-9166
E-mail　nokei@city.hachinohe.aomori.jp